昭和六年九月十四日　第三種郵便物認可・昭和七年十二月二十五日　印刷納本・昭和八年一月一日發行　（毎月一回一日發行）

# 建築と社會

## 新年號

第十六輯
第一號

日本建築協會

昭和八年
一月一日

# 謹賀新年

昭和八年元旦


## 三機工業株式會社

本　店　東京市麹町區有樂町（三信ビル内）
電話銀座(57)代表5141（9）長5140

支　店　大阪市東區備後町（野村ビル内）
電話本町(24)代表1166（2）1525

出張員　名古屋市中區笹島町（三井物産會社内）
電話西2500(5)

取扱店　三井物産株式會社各地支店出張所

## 三建工業株式會社

本　店　東京市麹町區有樂町（三信ビル内）
電話銀座(57)代表1088,1089

出張員　大阪市東區備後町（野村ビル内）
電話本町(24)代表1167

工　場　東京市大森區新井宿
電話大森1860. 3281, 3566

## 東洋キヤリア工業株式會社

本　店　東京市麹町區有樂町（三信ビル内）
電話銀座(57)1921. 4344

支　店　大阪市東區備後町（野村ビル内）
電話本町(24)1618

# 會　　告

本協會定款第十七條第十八條及第二十條に依り昭和七年十二月十九日開會の評議員會に於て理事、會長、副會長、常務の選擧執行致しました結果下記の通であります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事 會長 | 片岡　安氏 | 理事 副會長 | 池田　實氏 |
| 理事 副會長 | 竹腰健造氏 | | |
| 常務（主記） | 阪口芳三郎氏 | 常務（主記） | 鳥井　信氏 |
| 常務（主記） | 丹藤良雄氏 | 常務（主記） | 伴野貞三氏 |
| 常務（主記） | 富士岡重一氏 | | |
| 常務（主計） | 浦　英之助氏 | 常務（主計） | 清水榮二氏 |
| 常務（主計） | 八木盛二氏 | | |
| 常務（編輯） | 今林彦太郎氏 | 常務（編輯） | 高橋榮治氏 |
| 常務（編輯） | 中村義雄氏 | 常務（編輯） | 堀田猷次郎氏 |

（五十音順）

昭和七年十二月

社團法人 日本建築協會

# 謹賀新年

昭和八年癸酉元旦

社團法人 日本建築協會

## 會告

曩にお送り致しました昭和八年度本會會員名簿はその發行を急ぎました爲役員未決定の儘發行致しましたが客月19日決定、別紙の通本號へ挾込ご致して居りますから名簿の役員欄へ御貼り附け下さい。

昭和八年一月

社團法人 日本建築協會

## 本會昭和八年度役員

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 會長 | 理事 | 片岡安 | 評議員 | 秋田喜代治 | |
| 副會長 | 理事 | 池田實 | 評議員 | 石川寛三 | |
| 副會長 | 理事 | 竹腰健造 | 評議員 | 井上福藏 | |
| 監事 | | 德政金吾 | 評議員 | 岩崎甚太郎 | |
| 監事 | | 松室重光 | 評議員 | 岡田孝男 | |
| 常務 | 主記 | 阪口芳三郎 | 評議員 | 岡本新次郎 | |
| 常務 | 主記 | 鳥井信 | 評議員 | 大原芳知 | |
| 常務 | 主記 | 丹藤良雄 | 評議員 | 川口一二 | |
| 常務 | 主記 | 伴野貞三 | 評議員 | 小西一良 | |
| 常務 | 主記 | 富士岡重一 | 評議員 | 作間日出生 | |
| 常務 | 主計 | 浦英之助 | 評議員 | 鈴木末尾 | |
| 常務 | 主計 | 清水榮二 | 評議員 | 高松平太郎 | |
| 常務 | 主計 | 八木盛二 | 評議員 | 高岡與三吉 | |
| 常務 | 編輯 | 今林彦太郎 | 評議員 | 中澤誠一郎 | |
| 常務 | 編輯 | 高橋榮治 | 評議員 | 永澤毅一 | |
| 常務 | 編輯 | 中村義雄 | 評議員 | 藤井厚二 | |
| 常務 | 編輯 | 堀田猷次郎 | | | |

# 『大阪市地質調査圖表』豫約募集

本會創立滿十五年記念出版の第二次として「大阪市地質調査圖表」を發刊することゝした。

本書は本會常設の災害强度委員會が數年に亘つて苦心調査蒐集した資料を輯錄して一本に纒めたもので、他に同種の刊行物なく洵に斯界に於ける驚異的出版である。この出版に際して本會としては凡ゆる點に於て多大の犧牲を拂つたものであるが、しかも尙上梓したる所以のものは、土木建築關係者が計畫に當り常に必要缺くべからざるものであり、又容易に所要のものを調査し得ると云ふ實に簡便にして、斯界にとり稗益尠からざるものと信じたからである。

こゝに豫約期間を設け、この期間中の申込に限り別記の通り特價を以て宏く頒つことにした、この低廉なる特價は、第一次記念出版の「住宅圖案集」が非常に好評で豫想外の發行部數に上つたので、その利潤を本書に注ぎ込んで編纂したるためで、實費以下に提供出來ることを私に喜んで居ります。

本書御希望の向は次の規定お含みの上どしどし御申越を願ひます。

昭和七年十二月

日本建築協會
創立滿十五年 記念出版委員會

## 豫約規定

| | |
|---|---|
| 1. 體裁 | 四六倍版、圖版 150 個<br>クロース裝幀　上製函入 |
| 1. 用紙 | 上質印刷紙 |
| 1. 定價 | 一部 **3圓50**　送料 12 錢 |
| 1. 豫約特價 | A　一部 **2圓50**（外に送料12錢）本會員にして豫約期間中の御申込の者に限る<br>B　一部 **3圓00**（外に送料12錢）一般の人にして豫約期間中の御申込の者に限る |
| 1. 申込金 | 不要 |
| 1 豫約期間 | 昭和 8 年 1 月 31 日迄 |

發行所　日本建築協會

大阪市北區中之島朝日ビル 4階

# 『武田博士作品集』豫約出版

武田博士には過般還暦の齢に達せられて京都帝國大學教授の職を去らるゝに當り同博士の建築界並に工藝界に於ける多大なる功蹟を永く記念せんが爲同博士の數多き作品中より百十種を撰んで『武田博士作品集』と題して友人門下生等の間に相分つことにしました。就いては同博士の作品に親しく接せんと欲せらるゝ世の人々にも汎くこれを分ち度いと思ひますので左記の條項に據り豫約出版を致しますから御希望の方は御申込み願ひます。

京都帝國大學工學部建築學教室内

**武田博士還暦記念事業會**

## 内容と規定

| | |
|---|---|
| 圖版 | 原色版二、木版一、寫眞版(コロタイプ版銅網目版、二色版等)約百十、凸版約四十<br>(多少の變更あるやも知れず) |
| 用紙 | 越前國産別漉鳥の子紙 |
| 大きさ | 菊倍版 |
| 解説 | 約六十頁 |
| 豫約會費 | 金五圓五十錢 |
| 荷造送料 | 金三十五錢(京都市内は配達無料) |
| 豫約申込期限 | 昭和八年一月三十一日 |
| 豫約申込所 | 京都市新町通竹屋町南入　便利堂印刷所<br>(振替大阪四五九九) |

尙詳細入用の方は前記『便利堂』へ御照會下さい

# 建築と社會

第十六輯第一號昭和八年一月發行

## 新年號

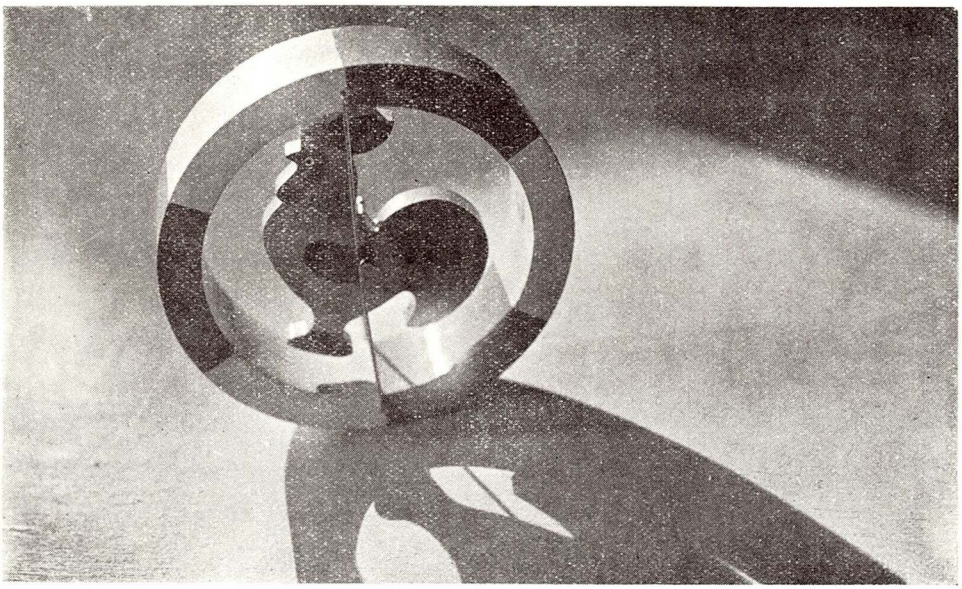
目次


昭和八年を迎へて……片岡安（2）
現代世相と建築界……池田實（4）
建築美批判の新基調……古塚正治（6）
忘れられ、忘らるべからざる事實……石川純一郎（8）
建築左右展望……村野藤吾（12）
斷想……中西六郎（15）
ゲージ確立の急務……德政金吾（16）
ガラスの使途の擴大……新名種夫（19）
大阪市及その郊外地の展望……矢田鐵藏（28）
昭和七年の住宅建築界を顧みて……松本儀八（34）
東京白木屋本店の火災……（36）

滿十五年記念建築通俗大講演會……（39）
開會の辭……古宇田實（39）
都市建築改造の急務……波江悌夫（41）
住居問題の將來……葛野壯一郎（47）
滿洲の土木建築の將來……石田茂（53）
世界の建築樣式の傾向……武田五一（57）
建築と社會……片岡安（62）
閉會の辭……池田實（67）

ポルトランドセメント界最近の趨勢……三浦尙史（69）
工學博士武田五一氏の還曆祝賀……（77）

京阪神新建築……（新1）
國際新建築……（國1）
會報……（96）
第十五輯總目次……（附1）



# 昭和八年を迎へて

## —經濟界の大波瀾に善處せよ—

片岡安

昭和七年は已に世界經濟大疲弊の頂上であつたから、本年は或は漸次景氣の好轉を見るならんと考へる事も出來るが、我國の事情は必ずしも世界經濟の本流と合致するものではない、現に昨年度の歐米に於ける古今未曾有の大不況殊に建築界の慘狀は我國に於てはそれ程甚しく感じなかつたのである、彼に於ける大不況の程度の3分の1或は5分の1位の低下に過ぎなかつた。言はゞ比較的幸福なる環境を保持し得たのであるが、さて本年の前途は如何と見るに、必ずしも樂觀を許さゞるものがあると同時に、更に來るべき波瀾に善處すべく深甚の注意を要するもの多きを痛感する。

世界の經濟界は依然として其不況を持續し、或る方面には輕微の回復をなしつゝあると傳へらるゝも、生產の縮少は消費の緊縮に及ばずして、物資の過剩は凡ての產業を通じて相變らず甚しいのである。經濟界の回復遲々として運ばざることは固とより、各國とも國際貸借の不均衡を救はんとして强調しつゝある高率の關稅策は更に其回復を沮害して居るような狀況にある。購買力を一時的なりとも增大せんとするインフレイシヨン政策も果して景氣回復に有効なるや否や疑問であるから、各國とも斯かる臨時的なる手段を採ることは避けて居るように見える。

◆

我國に於ける經濟界は今や國際的の變化極まりなき事情と國內的の鈍重なる空氣に支配され、その前途は模糊として透視し得ざる狀態にあつて、今後の波瀾重疊甚しきを豫想せしめるのである。外に對する爲替の惡化は輸入品の價格を益々昇騰せしめ、引いて內地生產品と雖も尙々國際商品たるものが一齊に騰貴しつつあるの現狀は果して何の邊まで及ぶかを懸念せられ、且つ最近軍需品工業の臨時的繁忙等により勞働賃銀の騰貴せんとする傾向の見えるあり、外には國際聯盟に於ける日支紛爭解決事件の推移は我國運の前途に多大の關係を有するあり、內には各種產業の統制に就き官民各方面の努力必ずしも有効なりと見ることの出來ない事情もあり、一般物資の需給關係漸次圓滿を欠くやの處もある。此間に處して建築界が其波瀾を巧に切り拔けんとするには唯從來採り來りし態度では善處し得ざるは明かである。日々騰貴せんとする鐵材を始め、價格の變動豫め計ることの出來ない各種の材料を如何にして蒐集するや、其工費を豫定し得ざる建築物の計畫を如何にして運營するや、考ふれば考ふる程その前途は行詰つたような感がするのである、從來の如き普通一般の運營では所詮萎縮困憊の狀況に立至ること火を見るより明かである。建築界の先覺者はこゝに一大決心をなし、この未曾有の經濟界大波瀾に善處するの計畫を攻究し、その打開進展に懸命の努力を拂はねばならぬのである。從來の如き單純なる箇々の事務的取扱に終始して我建築界の進路を見出さんとすることは少くとも本年に於ては全く無謀であり失敗を招く基である。建築物の計畫を指導する點に於て、其實施の運營に於て、將又建築材料の選擇鹽梅等に於て從來未だ嘗て經驗したことのない難局打開の試練を要する大覺悟を以て業界の有力者は凡て一致協同そのことに當らねばならぬのである。

# 現代世相と建築界

池田實

## 1. 諸々の會を有効ならしめるの道

今將に昭和八年を迎へんとする歲末、餘す所僅かに旬餘、多忙の間、過ぎし一年を顧みて暫し冥想に耽つて見る。机上には各方面の名簿が多數集まつてゐる。思へば我々は種々多數の會の會員となり、之に關係してゐる譯である。之を全國に各方面に亘つて調査して見たならば、公私とも何々會とか又は之に類した諸團體は其數恐らく肉眼でも見ゆる天の星の數にも劣らない程多數に存在して居ることであらう。併しその各團體が果して皆有意義に有効に活動して存在の意義を完うして居るであらうかと云ふ樣な事が考へさせられる勿論全然無意義無効と云ふものはなからう。只會員各自が月月相當の會費を拂つてゐて會の事業としては恰も老子の所謂存すが若く亡するが若き狀態にあるものがその大多數を占めてゐるのではあるまいかを疑ふ。一體我國の民情は兎角官の施設又は指導に對して餘に賴り過ぎる慊がある。國家の世界的發展に伴ふて國務を要するものは加速度を以て增加する。而して一面學術的に於て社會的に於て世の進運に劣らざるため爲すべき調査、研究等が必要に逼られつつあるのである。こゝに學術的に社會的に公共の奉仕に俟つべきの餘地多大なるものがあると信ずる。富豪一個人にして百萬圓、千萬圓を投じて事に當るもその一途である。併し之は多々益々辨からんことを望むも、要するに曉天の星に過ぎざるものであらう。茲に於て吾人は多數の力の集合、即ち諸會又は各團體を利用して之を最も有意義最も有効に活動せしむるの必要切實なるものあるを思ふ。而して諸會、各團體の活躍はその會員全般の熱誠に基くことは言を俟たないが尙直接その衝に當る理事者の如何に俟つ所尠からざるものあるを痛感せしめられる。併し乍ら諸會各團體の當事者はその多くは各自の本務以外の餘暇餘力を割いて奉仕するの外なき次第であるから、之に向つて多大の期待を望むことは無理を强ゆるに過ぎない憾いがある。茲に於て吾人が切望せんとする所は各種各方面に亘り斯界に於て既に相當の効果を擧げ、又相互の餘財を得、何等生活に關し後顧の憂なき身分であつて年齒も相當の域に達し、斯界の實業方面を勇退し徐に餘世を樂しまんとするの士は徒に閑雲野鶴を友とするの餘力を犧牲に供して斯界各團體の指導、貢獻に努力せらるゝことは社會奉仕の立場からしても亦人類生存の意義からしても最も理想に近きものではあるまいか。

## 2. 建築教育の分科

晩近年々歲々定期的に繰返されることであるが年末に際して各種の學校より來春3月に

送出すべき卒業生の就職に關して當該學校長から依頼狀が多數に舞込んで來る。不景氣時代就職難が叫ばれつゝあるのとき、如何ともし難き狀勢であらう。此の事は我々の建築界に於ても同じ軌道の上を走つてゐる。

一體明治時代より義務教育の普及に關しては文部當局其他に於て年々歳々非常な熱心と努力を披瀝して今日の旺盛を馴致したもので、その功績や誠に多大なるものがある。併し乍らここに急天直下突如として眼界を新たにして靜思して見れば根本的に一考察を投ずるの餘地が存する樣に思はれる。明治以降就學率の極めて少なき時代に於ては義務教育の就學を多々益々奬勵するの必要があつたであらう。その就學率が益々進むに伴れて愈々その完璧を期し最後の100パーセントに到達せしめんとすることが果して國家社會の上から見て必要なりや否やに就き一點の疑念の存するものがある。即ち指導、奬勵は或程度に止めしめて自然の趨勢に委することが大局より見て政治の大本ではあるまいか。極言すれば世を擧げて賢愚美醜凡ゆる方面を網羅する所に人生、社會、國家の眞妙味が存するものと信する　馬を馭する者、徒に連續的に手綱を引しむるのみが妙術ではない。或は引きしめ、或は弛め、所謂操縱その宜しきを得ることが妙諦であらう。即ち今日に於ては義務教育の年限短縮又は進んで義務教育の中止を斷行することが現時の時弊に對する妙藥と云つて差支へない。之に依つて數年ならずして入學難の緩和、就職難の救濟が根本的に行はれるであらう。又一面に於て市町村の負擔の輕減、國家財政の救濟の一助ともならう。以上は教育界全般に亘つた根本論であるが、今我建築界に於ける建築教育に就いて一考察を下して見ると上は大學より下工業學校に至るまで學理深奥の程度に於てこそ相當の差異はあれ、その辿れる筋は只一途に過ぎない。吾人は建築教育界に於て各種の學校の統一方針を全廢して數種又は十數種に分科し各學校獨特の教育を施し建築界の凡ゆる方面に於ける分科的專門家の養成に邁進するの必要切實なるものあるのを思ふ。

### 3. 請負界・入札・大工・デパートの火災

建築請負界も工事の少なきため競爭激甚なるものがある。お互に苦しみつつあるの現狀である。材料界に於ては相當統制が行はれて品質價格等につき相當の自制、自衛が行れてゐる樣であるが、請負界に於ても何等か之に準じて各自自衛の道を講ずるの途がなからうか。建築請負業組合の存在の如きその意義に於て、その効果に於て、果して遺憾の點なきか。又一面入札制度の改正もその一途ではあるまいか　之は他日改めて世に問ふて見たい一事である。近頃大工組合の一部が活躍して大工の職能に對する權利の主張を唱導し始めてゐる　之も相當眞面目に攻究すべき問題の一つである　今正に筆を擱かんとするに際して東都白木屋の火災、死傷100餘名の号外に接した。耐震耐火鐵骨鐵筋コンクリートの7階高層建築たるデパートメントストアの而かも晝間の火災、百貨店としての建築的施設の方面に於て建築家の攻究すべき問題がなげられた、國家内外多事建築界も亦多々益々諸般の問題が拋げかけられたやうな氣がする。

# 建築美批判の新基調

古塚正治

建築美批判の基調は、今や方向轉換を餘儀なくせしめられてゐる。

昨日迄の審美論は文字通り過去の審美論であり、それに即してなり立つた批判は全く昨日迄では正しい批判として、うけ入れられるに相應しいものであつたらう。

けれ共夫れ等の基調は、所詮過去のものたらざるを得ない。

建築は時代文化と思潮の所産であり、表徴であると云ふ論に間違ひが無いとしたら、その美を讃へる基調は何うしても、其の時代文化と思潮の上に確固たる礎をおいて立論して行かなければならない譯である。

過去數千年間の建築發達の經路を調べて、そこに何を見出し得るのだらう？。そこには時代思潮が雄辯に物語つてゐるではないか。それは取りも直さず宗教の文化であり、一部特權階級の文化であり、大衆それ自身とは緣遠い關係におかれたものであつた、現代の所産として新しく生み出された構成派の建築は、單なる科學萬能の思潮に捉はれ過ぎた理論に固着仕切つてゐるやうである。インターナショナル派と宣傳してゐる一派の建築も、聲は大きいが其の割合に反響が少いのは何に起因してゐるの？。何れも過去の見方であつて現代を正視してゐないところに力が不足してゐると言はなければならん。

現代の社會を一貫してゐる大きな力は、資本主義經濟から資本利子經濟への潮流であつて、現代の政治も、趣味も、壓轢も……と云つた社會の事象の總てが、この一大潮流に乘つて推移してゐるのであるから、建築もまた此の流れの上に竿さす以外に見方を變へては意義がない。即ち、現代の建築は經濟學の根本義に從つて、より少い投資によつて、最大の効果を收め得たところに現代の思潮に適合した建築美が表徴せられたと云ふ可きでは無いだらう？。現代の建築美を批判する前提としては、先づ其の建物が幾何の費用によつて建築せられたかを問ふ可き義務がある。產業資本の一大函數を負つてゐる建築物が、其の投下資本利率を度外視しては現代の建築に美を求め得可き筈が無い。(產業資本外に屬する建物に就いては、また別に見方がある。)この意味を吟味して行くと過去の審美觀念からは一笑に賦し去られた建物が、現代では却つて偉大なる建築美の持主である場合がある。過去に於ては無暗矢鱈に人目を引く可く過飾づけられた建物が、無駄だと迄で惡評せられた建物であつても、資本利子經濟の上から却つて驚く可き効果的であるとしたら、其の建物の美は現代に容れらる可き能性を多分に持ち合せてゐると云ふ可きではない？。それ故に如何に簡略化し、單純化したと云はれる構成派や、インターナショナル流の建築を以て、

頗る經濟的だと云つて自惚れて見たとて、產業達成に最善の効果を齎らさないなら、其の建築は現代に於ける敗慘であり、從つて決して美しいと云はる可き價値を伴はないだらう。假りに、百貨店を設計して建築家自身は如何に立派だと自惚れて見ても、數年後に經濟的に閉店の止むなきに立ち到つたものとしたら、その建物は現代に容れらる可き優秀なる美の所產だと誰れが讃へるだらう？。事業の失敗は無論經營者に負ふところが大であるには違ひがない、けれ共恁うした建物自體が營業目的とその結果とを左右するに充分なる要件を構成せる場合、特に私見を吟味してみる要があらうと思ふ。

過去の審美論は餘りにも唯心的に走つてゐると云ふ可きである。現代の審美觀念は唯物的に確固たる基調をおいてスタートしなければ意義が足りない。便利だとか、衛生的であれ、經濟的であれ……と云ふのは住宅建築の場合丈けでは徹底してゐない。利害關係を無視して建てられた過去の建築は、大衆それ自身とは直接の交涉を持つたものではない。現代の建築は產業資本の一部であり、多くは大衆それ自身のものである。これをもし尙ほ其建物を批判するのに唯物觀念を滅却して美の意義が成立すると云ふ論據を見出し得るだらう？

資本家の側では私の恁うした主張に多大なる關心と共鳴とを持つ方が多い、建築家は過去の傳統的審美觀念に捉はれ過ぎてゐる方が餘りにも多いやうだ。たゞ無意識の間に經濟的美への考慮を織り込んでゐる場合がある。それは多くの場合文字通り無意識の內に。

近代の住宅建築は半世紀以前のもの程、規模の大なるを要求せられるものが極めて稀れとなつた傾向にある。間取りに於ても過去に流行つた迂餘曲折の廊下主義は影を潜めようと務められてゐるではない？。現代の住宅建築は家族本位だと云はれてゐるのは何を意味し、何を物語り、何を慾求してゐるの？。勿論科學の進步が一部を解決し、社會思潮が一部を然らしむるとは云へ、根本に於ては總てが自己經濟の觀念に大なる基調をおいての主張の結果に他ならぬではない？。

客商賣の建物の入口が入り易い樣に、客脚の寄りつきに關心を拂ひ、客が不知不識のうちに辷り込むやうに……と云つた要求と、過去の建物が段上高く壯麗なる姿をと要求した觀念との間に、その間餘りにも相反したる兩相の表はれではない？。即ち現代の建築美は餘りにも經濟的基調に立脚してゐると考ふ可きではない？。

服飾に於ても、化粧術の上でも色彩の上でも、將たまた廣い工藝の道にあつても、現代の美は總てが經濟觀念を基調として出立してゐるに不拘、ひとり建築の美の批判に於てのみ唯心的であり、科學萬能的であり得よう筈がない。現代の建築美は經濟組織の觀念を沒脚しては完全なる美の批判基準をなし得ない。

材料が鐵とコンクリートと、大きな硝子の配用との總合美へ轉開しつゝあるのも、根本に於ては何を目的とし、それから何を求めてゐると考ふ可きが至當だらう？。現代の建築美の批判の基調は、所詮は經濟觀念に立脚しなければならない結論に導かれるのでは無いだらう？。

# 忘れられ、忘らるべからざる事實

石　川　純　一　郎

1932年度中の最も大きなスポーツ界の出來事は、なんと云つてもロスアンゼルスに催された第10回國際オリンピック大會であつたらう。

◆

その當時日本の新聞社は、非常に多額な、ヤンキーをも驚かしたほどの、通信費用を投じて速報にこれ努め、各社通信員間にはオリンピック・スタデイアム以上の激烈な競爭を起さしめたほどで——そのため日本新聞記者は、他國否米本國記者をも一蹴して、ウエスターン、ユニオン、ポスタル・テレグラフなどの米國電報會社の一躍上客になつて了つたそうだ。

その位新聞社は力瘤を入れて報導に努力した。

そんなわけでスポーツに興味を持つ人と否とに拘らず、いやでも應でも、いやしくも新聞を手にするほどの人ならば、毎日毎日オリンピック情報の見出しの超特大號の活字に、新聞を開けたが最後眼中に飛び込まれて了はざるを得なかつた。

これではどんなにスポーツに無關心な人でも、水上に於ける、又フヰールドに於ける、又馬術に於ける日本選手達の奮闘を強く強く印象されて了つてゐるに違ひない。

南部の三段跳、水泳の北村、宮崎、清川、牧野、それに最後の西中尉の劇的優勝など今日でも殆ど一般人が、恰も自分自身目撃したやうな鮮明さを以て記憶してゐるに違ひない。

◆

かくオリンピックの運動競技の分野は、非常に華やかに且つ強く一般の人々に印象されてゐるのに拘らず、同じくオリンピックの一分野でありながら藝術競技の方面は全く忘れ去られて了つてゐる。

といふよりも寧ろ始めから、その存在を知つてゐる人さへ極めて小數であつたと云つていゝのではあるまいか。

運動競技の華やかなりしを思ひ、なんと藝術競技の寂しかりしことよ。

◆

藝術競技も運動競技と殆んど同時に開會せられ、オリンピック美術館とされたロスアン

ゼルス博物館に陳列、競技、審査が行はれた。

そして8月2日發表せられた結果は繪畫に於てはスエーデンが、素描、版畫、及び彫刻に於ては米國が、メダル・レリーフに於てはポーランドが、都市計畫に於ては英國が、建築設計に於ては佛國が夫々第一位を獲得し、8月11日オリンピック・スタデイアムでその各國の國旗が揭揚せられ國歌が吹奏せられた。

そして、そして、日本は版畫に於てオーナラブル・メンション即ち運動競技に於ける 4—5 等程度の位置をたゞ一つ得たのみだといふ。

この今次の日本の成績は藝術競技に於ける最初の加盟であつたからでもあらうが前述の如く甚だ振はないものであつた。

自然新聞がこの方面の報道をお粗末に取扱ふといふことはヂヤーナリスティツクに考へて當然なことである。

しかもこの藝術競技はオリンピツクの直接の關係者、選手委員といふ様な人々の間に於てさへ、運動競技を行ふオリンピツク大會にこんなものゝ介在するのを纔子扱ひにし、又不思議に思ひ、又一顧だもせず、又甚しきは氣が付きもせずにゐるといふ實情から見ても一般の人々がその存在を知りもせず、又何等關心の生じて來ないのも當然だと思はれる。

◆

しかし一度古代オリンピツク祭を想ふならば轉た感慨無量なるものがある。

古代オリンピツク競技中に於ては、藝術競技が非常に重要な役目を持つてゐて、印刷術の發見せられなかつた當時にあつて、詩人達には作品發表の絶好の機會を與へ、又繪畫、彫刻、建築等の競技部門に於ても、その祭禮に集まる多數の人々の慰安と教育とに資したことは非常であつたといふ。

殊にオリンピツクの起源そのものに就いてもヘレン民族の藝術的欲求から來てゐるとの考證があるくらゐである。

即ちヘレン民族は當時の野蠻民族中にあつて最も美しき、選らばれたる人類だといふ信念から、その美の最高型を求め、これを人類の理想的標準體型とせんとした。

この爲めに、各種運動競技によつて發達せしめられたる各肢體の美的綜合といふことが藝術家への課題となり、このモデルを得る手段としてオリンピツクが存在したといふ。

これによれば古代オリンピツク祭に於ては藝術こそその核心をなす部門であつたと考へざるを得ない。

◆

ピエール・ド・クーベルタン男爵が國際親善を目的として、近代オリンピツク祭を計畫した當時はどんな考へであつたか知らないが、兎に角回を追つて古代オリンピツク祭のゲー

ムが順次復興追加されて來てゐる點から見ても、近代オリンピック祭は古代のそれの復活と見なければならない。

さればこそ1924年パリに開催された第8回大會に藝術競技の種目が加へられて、古代オリンピック祭の精神に觸れた、眞の復興が出來たと見ることが出來る。

また今日の國際オリンピックの根本方針を示した憲法的規程の中にも、この藝術競技なる種目は必ず行はねばならぬ競技だと指定してあるそうだが、この精神は全く古代オリンピック祭に於ける精神の復興を意味するものに違ひない。

かくして一般には殆んど知られず、又顧みられざる藝術競技のオリンピックに於ける重要性を認めなければならなくなる。

そして吾々藝術關係者はオリンピックに對して充分なる關心と理解と興奮と情熱とを持たなければならない筈のものだと思はざるを得なくなる。丁度フヰールドに於ける、又トラックに於ける、又プールに於ける競技關係者が現在持つてゐると同樣の又はそれ以上の熱情を要求されるのが當然だと思はれる。

◆

私は今度の日本の出品がどんな風にされ、どんな人々の作品が選らばれて出たかを知らない。

たゞ大日本體育藝術協會といふ團體があわたゞしく出來て、短期間に作品を募集し、鑑査し、內地に於て發表展覽會を催し、その內から大部分をオリンピックに出品したのであらうといふこと、長永治良（日本）といふ人の『昆虫の角力』といふ版畵がオーナラブル・メンションの位置に入つたといふこと位しか知らない。

しかし運動競技に於てあれだけの成績を擧げた日本として、藝術方面でもも少し氣を吐きたかつたやうな氣がする。

勿論最初の加盟であるからといふハンデイキヤップはあるけれども、殊に繪畵、素描、版畵、彫刻、メダル・レリーフ、都市計畫、建築設計等の科目の中、建築關係のものは全然たゞの1點も、オリンピック藝術競技場に出品されなかつたことなどは遺憾に堪えない。

尤も內地に於ける展覽會には建築設計3點があつたといふ話であるが不幸にして私はそれがどんなものであつたか見られなかつたが兎に角オリンピックへの出品はされなかつた

◆

今世界各國の建築界、建築家を比較して日本のそれらがそんなに劣つてゐるだらうか。

私はお國自慢的な意識を除いて考へても、他國と伍してオリンピックに覇を爭ひ得る人と作品とは今日充分にあり得ると信じる。

たゞ吾々には今日まだ運動選手間に於ける如き努力と熱意と團體的統制とが欠けてゐる

だけだと思ふ。

吾々は日本運動競技界の生氣潑溂たるを見るにつけても日本藝術界の意氣の沈滯を淋しく思ふ。

◆

しかも最近の新聞は運動競技關係のオリンピック8年計畫及び4年計畫準備委員會の成立を報道してゐる。

云ふ迄もなく4年計畫とは次回のベルリンに開かるべき第 11 回オリンピックを目指すものであり、8年計畫とは次々回日本に開催すべく運動しつゝある第12回オリンピックを目標とする。

この時藝術競技關係のみ吾不關焉の態度をとつてゐてよいだらうか。



藝術競技は運動のそれとは自ら異るから、4年計畫8年計畫といふやうなものもその立案にかなりの困難があるかも知れないが兎に角何等かの型式で團體的統制だけでもとるやうにするのも尚早ではないと思ふ。

たゞ吾々は次回のオリンピックに於て、藝術競技の方面に於て、殊に建築關係の種目に於て『日の丸』と『君が代』との榮譽を見出したいと切に思ふ。

殊に次々回吾々の國土に於て行はれるに至つたならば、その時こそ倒れて後止むといふ運動選手の意氣と情熱とを日本藝術家に日本建築家に要求される時ではあるまいか。

◆

私は 1932 年の建築界の出來事を顧みて、最も建築家に忘られてゐる事實で、しかも忘るべからざる事實ではあるまいかと思つてオリンピックの藝術競技を想起し、今 1933 年の初頭に立つて日本の建築家の、日本の藝術家の注意と奮起とを喚起したい。

# 建築左右展望

村野藤吾

そこはかな新作と研究によつて、不當にも優越感が起り之れが爲めに、最近に於て、歐米諸國の建築的、又は、その傾向に對して、一部の人達のやうに我が建築界がそれに優るとも劣るものでないとの自覺を生ずるに至つたことによつて、建築世界十一月の卷頭言は興味ある、詞藻に富んだ言葉であつた。そして夫等の自覺も亦、曾て、新興運動が、不當なるヂヤーナリズムの言葉によつて優越した樣に優越なる感じを起させてゐる樣でもある。

◇

一頃、社會的な、又、文藝的な側面の刺戟が、建築界を異常に刺戟したが、今や夫等の側面的狀態がそうである樣に、吾々の建築界も亦清算期にあると云つてよい。吾々は、今その頃、刺戟と、興奮にかられて、その尻馬に乘つた一種の新興的ヂヤーナリズムが閉塞して、靜かに、その過去を顧みれば一種の寂寥を感ぜぬこともない。そして、その頃、これ等の渦中にあつて思ふまゝ、そのヂヤーナリズムに乘つた人達のうちから頭のいゝ者は素早くこれを乘越へて、これ等の取り殘された新興的興奮を笑つて云ふ。「奴等は機械的センチメンタリズム、科學的ロマンチシズムだ」と。

◇

此等の頭のいゝ一團はそして又、自負を交へた不當なる優越感を以て殘された者達の指導的立場を買つて出るのである。

どの道、これ等の興奮と尻馬的ヂヤーナリズムは、建築界の爲めには一日も早く、閉塞す可きであつた。閉塞す可きことが何よりも幸であつた事は勿論である。これは決して、樣式的な建築に據つて、地道な方向をたどつて行く者に取りて幸であろうばかりでなく、事實日本の建築が、本格的な道を步む爲めには有害無益なことであつたと云つてよい。吾々は過去に於て、幾度か、夫に新興的な海外の刺戟とそれにともなふヂヤーナリズムの爲に、多數の、而も、似ても似つかぬ新建築と稱するものを殘した。

◇

事實、海外の運動と、傾向とが、その地道な、研究によりて表はれるよりも、日本に於ては、それが持つところの新奇と、新尖なるに刺戟せらるゝ爲めに、之れが商業主義的ヂヤーナリズムの風をはらんで、一日も早く町の表に表はれることは、作家の、又は、之れを依頼する者のためには、その、廣告的價値を百パーセントに表すことの爲めに、どれ程がその眞の傾向と地道な底の研究が用ひられたかと云ふことについて、幾度か吾々は識者

の苦言を聞く。

◇

吾々の敬愛する老大家——様式的建築に據ることを本格と想像する様な大家達は、最近に於て新建築の決定す可きその決定的將來について賞讃を交へた樂觀的な言葉を私は一再ならず聞いた。これは私に取りて實に異様でもあり又、實に驚く可き事であつたのである。最早、新興的な建築についての杞憂はその反對の牙城だと想像された人達を斯くも普遍化したのかと思つたのであつた。而しながら左様に普遍化したのであらうか？事實は將に反對の様でもあり、普遍化されたものは只そのぬけ殻でもある様だ。

◇

過去に於て、日本の新建築が鳴物入で、喧ごうたりしことは、研究と、本格的進歩とを願念する人達に取りては凡そ反對の結果が殘されたと思はれる事が多い。夫故に、人は日本の新建築を、それが海外に於て、必然の、又發生的由因の爲めに、又生す可くして生じたるものをヂヤーナリズム的に表はすことによりて、夫々の時代に、夫々の役割を演じつゝ起り又消えて行つたのであつて、吾々の社會的機構とどれ程か、有機的關係を持つたのか。無論、私は此の「有機的」と云ふ言葉を色々の社會的狀勢について用ひたる意味に考へるとしても、コツケイなことは、一つの新建築が海外に於て發生する間に、吾々に於ては、數回の新建築と稱す可き運動に接した。夫故に、日本の新建築は、それが、獨創的であれ、ロシア的であれ、それが、ナショナリズム的であれ、それが又、インタナショナリズム的であれ、等しく、新興的な名に於て、又、アメリカ的モダニズムの名に於て、一種の流行型に過ぎない様である。夫故に、一つの新建築がある爲めにはその直前の新建築は「もう古い」と云はれなければならない様になるのである、强大なヂヤーナリズムの力は、古きも新しきも一纏めにして、時代からどしどしと押しやられ様とする。吾々は今、選良の選擧に立看板を見る様なものを建築に見るのである。

◇

「アカデミズムと、ヂヤーナリズムと云ふ二つの社會的勢力に對しては、唯諦念の微笑を以てのみ傍觀しよう」と弱そうにして、强く、强くして、弱そうに云つてる間に、物狀騒然としてヂヤーナリズムの動搖があり。これは而し、社會的には寧ろ當然だと云ふが、今にして、此の傾向を是正して、凡ゆる、テーゼを樹立しようとする、ドンキ・ホーテを氣取つて見たところでそれが何になる。と云つた風に此の建築的風景を眺むる人達が居る。

◇

而しながら、これ等の風潮は、やがて閉塞す可きであらう。日本にも漸く建築の各の部門に基礎的な、研究が確立したと云はれる。海外に遊ぶ人達は殆んど一様に學ぶ可きものがなくなつたと云ふ。これは事實である。だが、その言葉は只夫丈けで完全であるのではない。吾々は、今此の言葉を頭で云ふ。頭が此の言葉を大膽にさせてゐるのではないか。

而しながら、吾々の腕は、此の腕が、此のテクニツクが、科學は、理論は、研究は、夫れのみで科學であるのではなく、研究であるのではなく、理論であるのではなく。……吾々は少しばかり、歴史を學ぶ必要があらう。

◇

日本製の飛行機を、私の子供達はもうケイベツしないばかりか、自負的優越感を以てアメリカを笑ふ。そこで、私は今朗かに、吾々の敬愛する老大家達と共に、新建築の將來について樂觀する。

◇

白木屋の火災について、種々の問題が湧きおこつた、そのうちから吾々は、次の二つの問題について注意する、即ち、高層建築に對する恐怖と、之れに對する、取締り上の問題である。事實、一つの建物内で、今回の様な災害を受けた例は極めて稀有の事である、斯様な例を主發點として、恐怖したり、そして又、その取締上の問題を考へる事は、今の興奮から一度さめる必要があると思はれる。普通の場合で云へば、建物を防火的にすると云ふ事はさして困難な事ではない、一冊の防火建築書がよくその問題を解決してくれる。既に日本でも有數な建築は既に十年前にその問題を事實に解決し且つ、徹底してゐる。而しこれはビルヂングの様な比較的簡單な建物についての事であつて、デパートの如き、實に複雑なものに至つてはなかなか單純に解決出來ない。顧客の性質、デパート内の光景、下駄、靴、老幼男女、田舍者、見物、催物、等々、雜然とし、騒然として購買と云ふ實際的の目的から、實用から次第に遠ざかりつゝある營業の狀態、客の性質等を考へると、アメリカのデパートの様に、エレベーターも、エスカレーターも、階段も、縦の交通路に全部蓋をすると云ふわけにはどうしても行かない。夫程、デパート内に於ては、交通路、殊に階段が營業上、又、買物をする爲めにどんな役割を演じてゐるか想像以上である。防火建築は夫れのみにては百の施設も非常に期待する事は出來ない。此の機會に、我國の例にならつて、職業的な消防夫を、大建築に雇つておくか、常設しておく必要があると思ふ、あれ程の消火設備を備へた白木屋が、一瞬の間に火を擴大するとは想像出來ない。此の點につき建築に對する批難は當を得たと思はぬ、若し、誰か有効に此の消火の設備を驅使することが出來なかつたであらうか。私は晃々も遺憾に思ふ。私は此の點について、折角の苦心が、不幸にして酬ひられなかつた、建築家の心情に對し心からなる同情を禁じ得ない。

# 斷　想

中　西　六　郎

社會の各相は時の流れと共に移つてゆく。然うして次第に其速度を增し、其範圍を擴大する。この大きな動きは、人々を馳つて、明日の社會へと推進せしめずにはおかない。

然るに、今日のみに蹈躇して、明日を見つめ得ないものには、其動きと歩みを合はせ續けることが出來得ないで、却つて疲勞を覺える。疲勞を生じた瞬間に、動もすると進むことを忘れて退きたくなる。

然うして進歩的から保守的への反動に變化する。この反動への遁辭として色々に牽强附會する。進歩もよいが、須らく內省的であらねばならぬと云はれることが多い。然しこの反動をして、自己のもつ好ましいものを保持してゆくことだと、果して誰が斷言し得やうか。顧みて、若しわが建築界に、この狹い頑な保守的思想が生れてゐるとしたら、其責めは誰が負ふべきであらうか。

明治初期の如く泰西文明の全吸收ではなくて、輸入文化の直譯的から、既に今日は敎養時代を經て、判斷力を有してゐる。好いものは保有し、惡い所は捨てゝ、彼の長を採るのに判斷を過らないだけになつてゐる。

全世界の文明國は、同じ文化への同じ途上を辿つてゐるのに、我々は我々だけの狹い範圍で、自からを小さくしてゐてはならない。個有文化の全破壞を提案しやうと云ふのでは決してないが、國粹保存に浮身をやつすことは、今日に於ては、必然的な根據とは背馳してゐることだけは瞭然と云ひ得やう。

曾て東洋文明は西漸し、西洋文明は東漸して窮まらざる極が、遂に、この極東のわが日本に於て結合した、されば東西兩洋文明が、この日本に於て調和するのが當然であり、而して此處に一新文明を產出することが吾人日本民族の使命であると說かれたことがあつたこの東西文明の調和は、偏狹な國粹保存では望み得ない。大きく眼を啓いて世界を見渡すとき今日最早や東西文明の何れかの孤立乃至は獨存は許されない。東西文明の統一又は調和は、將に必然的に行はれんとしてゐる、やがて全地球を蔽ふべきであらうと思惟されるのに、この不可避的な必然に敢て逆行せんとする國粹保存論者は全く夢遊病者に等しい。

ラヂオの普及は交通機關以上に、都市と田舍との距離を短縮したと云はれてゐる間に、自分達のラヂオ・セツトは、今日はロサンゼルスからもジユネーヴからも電波を感じてゐる。ラヂオは議論を超越し、國境を無視して全世界を一つの渦の內に抱き込んでしまつた、沈默の雄辯、寡言實行をラヂオに見出したのも皮肉な出來の一つではあるまいか。——

議論の多い、然うしていつ迄も議論に終始してゐる日本の建築界に敢てこの一文を捧げ度い。

# ゲージ確立の急務

徳政金吾

新らしきゲージ設定の必要は數年前から徐々に吾々に迫つて來た。其事實は標準規格設定委員會が其現はれの一つである。併しながら社會の實情はメートル法の實施と共にモツトモツト急速にゲージ確立の急務を要求して居るのではないか？

30番の浪板と言へば吾々は直に其形と、大さと共に其厚さを知り、其用途を知り、更に其有効年限さへ想定し得る位である。

假枠を締付るに12番線を、鐵筋結束に20番線を用ひよと言へば其れは世界線に理解されて居る用語で如何に簡明に便利なる事實ではないか。此功德はバーミンガムワイヤゲージの賜である。

斯の如き世界的の効用でなくしても我國全體に行はるゝゲージが確立さるゝならば如何に功德の大なることであらう。

吾々が2間4枚とか9尺4枚と云ふとき其れが障子か襖かの種別を示す丈けで、其形と其引違ひであることを知る。又8疊とか6疊とか云へば其れは部屋の大さを想像し得る。此等は正確の寸法ではないとは云へ一種のゲージと言ふべきである。

內法の高さが5尺7寸と5尺8寸、正確に言へば尙多少の例外はあるが、其高さは古來より實行されて何人も異論を挾むものがない程普遍的のゲージである。

此異論なかりしゲージも今日では外國人でなくても我が若人達の中には屢々頭を打ち付ける人々が增加して來た。此事實は新らしきゲージの設定を要求する不言の叫びであらう。寸と尺とが米突法に其位置を讓らねばならぬ今日、吾々は前述の實際的故障を考慮して今日迄、日本家に行はれ來つたところの傳統的ゲージを速かに變更せなくてはならぬ。

文明が複雜であり、贅澤であると同時に、文化は又單純で且簡素でなければならぬ。此二つは恰かも吾々の舌に對する鹽と砂糖との如き役割を持つ。

現代の如き鹽辛い時代に於ては、總ては簡單で實用的であることを要する。

過大な戰債を背負された獨逸國から一切の裝飾と無駄とを、かなぐり捨てた、彼の新興建築が生れたことは、其れは獨逸建築家の願ひではなくして、其國民の經濟的要求を正しく理解して、彼等の傳統的不屈の魂が建築家を通じて、國民への答案となつたものである。

此事實は戰後ザールの石炭を奪はれた彼等が、其れに代るにライン支流の僅かの落差を利用して、數ケ所に水力電氣を起して其原動力の補供を爲した事を見ても推測することが出來る。

吾々の建築界に今、クラシツクが復活し、スパニツシユの重厚なるものが要求さるゝとしたならば、其れは眞に非常時の國民の要求であると見るべきであらうか？

若し假りに其經濟狀態が獨逸の其れに類するものであるとしたならば、我建築界は其れを正當に理解し、其れに對して眞實の答案を提供して居るのであるか。

吾々の答案が誤りであるか、又社會の實情が言ふが如き狀態ではないか、吾々は國民と共に再思熟考すべきである。

愚考は休止に似たりと云ふ。故に此處では臨幸い時代であると暫定する。甘い時代に於いてさへ合理的であるゲージ設定が、辛い時代に於いては益々其必要が增大し、其確立が急務であることは明白のことである。

長・高1間に對して吾々が從來の慣例に從ひ是れを米突法に移すときは1.818……米突となる。是れは數字的に見て如何にも複雜で、此簡素を貴ぶ辛い時代には甚だ不向きである。若し是れを2米突と假定しては如何。其れを倍數とし、其れを分數とする何れの方面にも記述に、計算に頗る簡單にして、現代に適合する規定と言はねばならぬ。

日本住宅に對する「間（けん）」が總ての基準であることは周知のことであると同時に是を米突法に依りて有效に解決することはゲージ設定の上に重要なる關係を持つ。

在來の1間を2米突とすれば是を田舍間に比して1割の增加となり、京間に比しては僅かの增加に過ぎない。是を實際に施して多くの場合差したる不都合を感じないが、只木材に就ては不足を感ずるのである。殊に天井板の如きは在來の6尺3寸では不足を生ずる。併しながら斯の如き欠點も僅かの修正で事足ることが出來るから、若しゲージにして確立するならば製造者に就ては敢て難事ではないであらう。

斷じて行へば鬼神も是を避く。最も時代に適合する、基準を確立して是が實行に精進するとき、總ては解決するものである。

爾來制定された、メートル法に依るゲージは餘りに在來の習慣に囚はれて其寸法は餘りに複雜にして實行に遠かつたものではなかつたか？

木材のゲージが數年前已に規格と共に發表された筈であるが未だ其れを市場で見出した樣に思はぬ。然らば現在の木材市場は如何と云ふに、端柄物は古から其ゲージは大樣定められてあつたが、其實質は甚だ亂雜と化し、今日では正の字を附記してさへ其寸法の正確は心元なき有樣である。是等は吋、寸、米突等の復用さるゝ過渡期に於ける混亂時代の止むを得ざる慣行であるとしても、實際には種々なる障害となるもの故其普遍性に顧みて速かに是れがゲージを確立し是を實用的に整理配列するならば、建築物をして現代的に又經濟的に築造する上に非常なる効果と便利とを齎らすであらう。

木材の厚木を2、4、5、6米突とすることは古法の7尺、丈、丈3、17尺、21尺に比し

大差なきもので只其れに鼻割れとして 1/10 米突を增すことに依りて是れを米突法に實施することは易々たる問題である、却つて1間が6尺であり6尺5寸であり又7尺であるより、より其取付の上に簡明となりて苦情を防ぐ規定である。

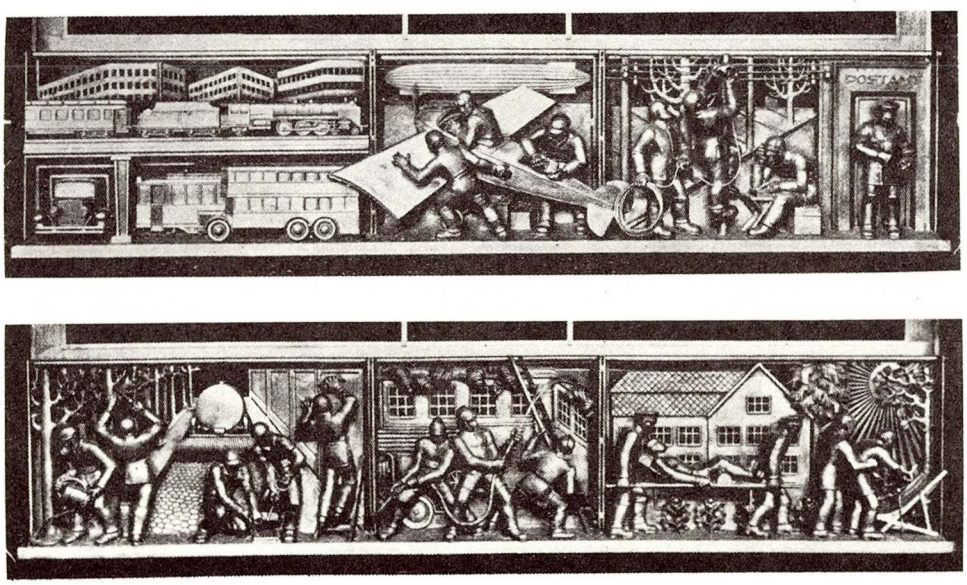
斯の如く規定すれば內法の高さも 1.85 又は 1.9 位には定めても建具の製作には、特種材を要する譯でもなく、施行し得るから、如何に長身の若人達も、首を垂れ背を曲ぐる、苦難を免かれて、家庭は明かるき空氣に包まるゝであらう。

昭和七年度の材料委員會が衛生器具を米突法に依りてゲージを定め是れを整理したことは實に時代に適應せる能き企てゞある、恐らくは此計畫は年次實行さるゝものと思ひ、又然らんことを望むものである。

何れにしても在來の1間を2米突にするか又は小數を含みたる數字に定むるかに依りて日本住宅の諸材料が其ゲージを定むるものであるから、先決問題としては「間」を如何に米突に換算するかである。

總て普遍的、大衆的のものは簡單を生命とする。隨つて其の規定が如何に結構のものであつても餘りに複雜では實行の可能性に遠いものである。故に或る簡明なる基準を定めて其れに順應する材料が數字上に複雜性を生ずる場合は是をゲージ番號に依りて定むることは一つの方便である、是れは頭初に述べたるバーミンガムワイヤゲージの場合と照合して其規定の意味が了解し得る所であらう。

---



# ガラスの使途の擴大

新名種夫

× × × ×

今後しばらくの間、建築の發達はガラスの使途の擴大と言ふ方向に、一つの道を開いて行く様に思はれる。唯に、新しい建築が、更に廣きガラスの面を有する様になると言ふ意味ばかりではなく、建築材料としてガラスが、より新しい用途を發見すると言ふ意味に於て、このことが言はれると思ふ。

ガラスが鐵及コンクリートと共に、現代建築を特徴附ける要素の一つとなつてから既に久しい。

鐵筋及鐵骨コンクリート架構法の進歩に依つて、次第に擴大されて行つた廣い大きな窓は、ガラス工業の發達が廣いガラス板の製造を可能ならしむるに從つて、その目障りなサツシユの組子を一本々々取外して、遂に屋内と屋外との間に何等の障壁をも感じない、廣い明朗な硝子窓の理想にまで到達した。

「ガラスの建築」「ガラスのロマンチーク」等の言葉は、現代建築への形容詞として既に古い常識となつてしまつた。

大陸は勿論、こうした傾向に就いて最も遲れて居た米國できへ、最近の建築は、やはりこの世界的傾向を辿りつつある。コンクリート外壁の面積よりもガラス窓面積のより廣い建築が、歐洲は勿論、米國に於ても、今日はもう枚擧にいとまあるまい。

だが、茲に注意すべきことは、このガラス利用の增大も、今日までは、窓を初めとして全ての開口の擴大に伴つて、從來の普通の窓用板ガラスの使用が量的に增加したに過ぎないのであつて、決して新しいガラスの用途が開けたと言ふわけではなかつた。

かくの如くガラスが、ガラス工業の異狀な發達にも關らず、窓ガラスとして以外に、建築材料として新しい用途にありつかなかつた大きな理由の一つは、建築家のガラスに對する古い先入主である。

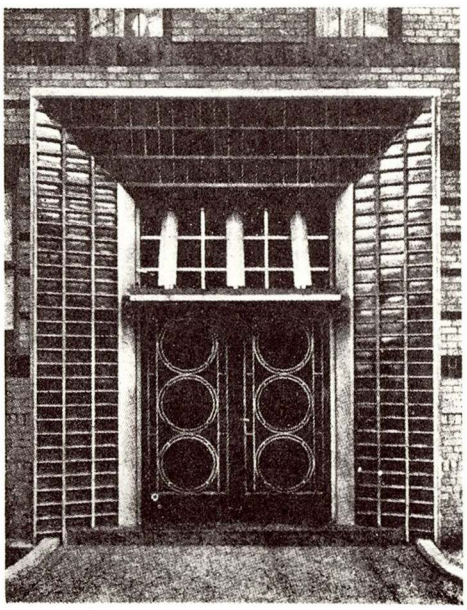
最近の如く、科學的製法に依つて、全然新しい性質を有するガラスが作られない以前の粗惡なガラスから受けた先入主である。更に、ガラスの有する特長を生かしつつ、ガラスの有する缺點を補ふ如き硝子の組立方法が發見されない前の、ガラスの構造の脆弱さ（この罪はガラスよりも寧ろ組立方法が負ふべきである）に對する建築家達の惡印象である。

今日まで我々は、ガラスは熱に會ふと、わけもなく破壞し、又熱の上に更に水に會ふと一層一たまりもなく粉碎する極めて脆き材料であると考へ勝であつた。更に又、ガラスの




第 1 圖

第 2 圖



廣い面積は非常に大きな熱の損失を引起すものと考へて居た。

ガラスに對するこうした先入主の徐々に除かれて行くに從つて、建築家のガラス利用はより大膽になり、ガラスの用途はより廣くなつたわけであるが、その第一歩が先づ板ガラスに對する信賴となり、廣い大きなガラス窓となつて現はれたわけであつた

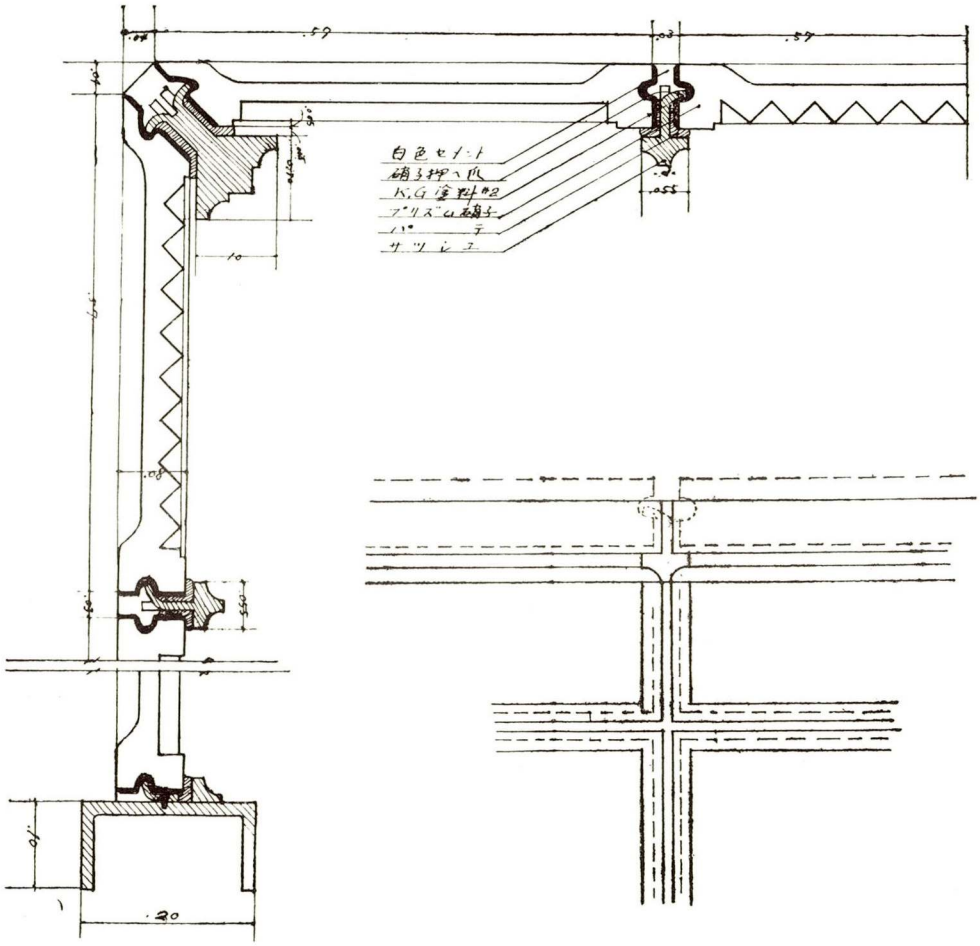
實際、實驗と應用とは、最近科學的に製造される硝子が、猛火に對しても驚くべき抵抗力を有することを示して居るのみならず、鐵網入の板硝子や特殊なガラス・タイルなどは、却つて耐火窓としてさへ適當な材料であるは既に一部の常識である。

熱の保存に就いても、或型のガラスは事實上普通の煉瓦や石造の壁よりもよりよく熱を保存するが、特に眞空のガラス・ブロツクは眞空瓶の原理によつて、熱のみならず、音響の絶緣體としても非常に有効である。

眞空のブロツクに比して効果は幾分劣るが、中空のガラス・ブロツクも光線を通過すると同時に、熱及音響の絶緣體として十分に有効である。

光を通過すると同時に、熱及音響の絶緣に有効であると言ふこの長所は、眞空及中空のガラス・ブロツクにカーテン・ウオールや屋根用として、將來可成に廣い用途を約束するのではないかと思はれる。

ガラスの壁體は、それを通して外から內部が見透し得る、即ち秘密を保つ上に缺點があると言ふ考へに對しては、壁體に用ひられるガラス・ブロツクの多くは、表面にプリズムや色んな型模樣がつけてあるから




第 3 圖

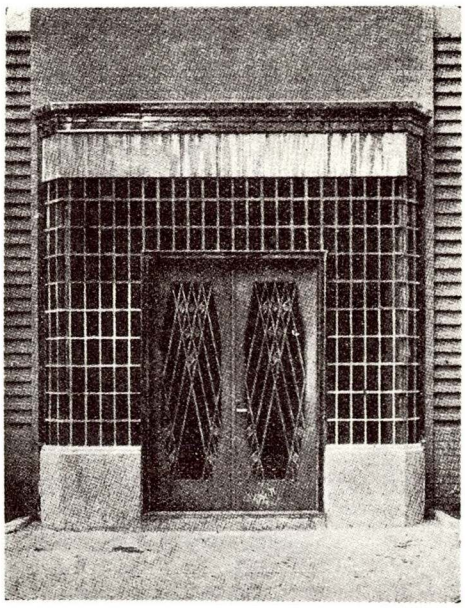
その心配はないが、何の型もつけてない平なガラス・ブリツクでも、光線の關係から、内部から外を見る場合にはよく見えるが、外部から内側を見る場合には唯影の様な形が見えるだけに過ぎないものである。

扨、こうした建築的に有用な諸性質を持つたガラス・タイルやガラス・ブロツク其他の製造と、その新しい組立方法の發見とが、今後の建築發達の一方向を提示する様に思はれるのである。

茲に述べるガラスの新しい使途の二三の例は、實際には未だ寧ろ試驗的に狹い範圍に應用されて居るに過ぎず、施工方法等にも未だ幾分の缺點を有するものであるが、以上の如き意味で多少の參考にはならうと思ふ。(主としてペンシル・ポイント誌十一月號より拔萃)

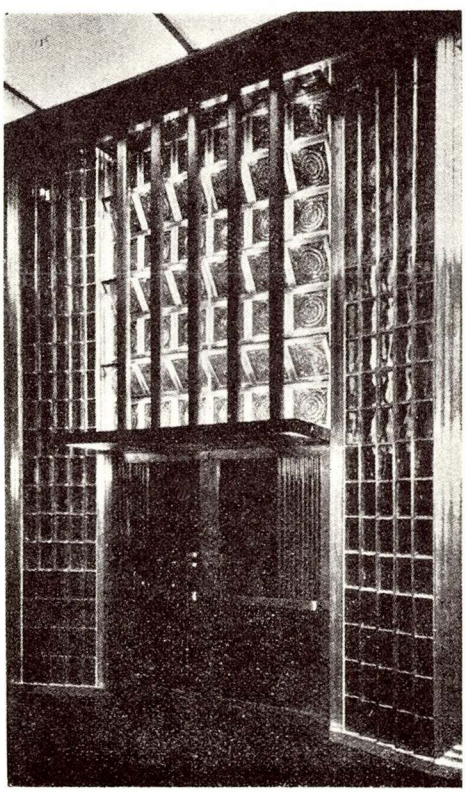
× × × ×

特殊なガラス、例へばビトロライト或は之に類する不透明な板ガラスが、内部便所、浴



第 4 圖

第 5 圖



室、手術室等の壁や仕切に用ひられ初めてから既に數年になる。タイルの如く頻繁なる目地を必要とせず、大理石の如く化學作用を受けざる點を特徴として、此種の特殊ガラスの中主として白色のものが、上述の如く內部用として今日尙廣く用ひられて居るが、この黑又は色物が、外壁仕上用として用ひられ初めたことは、一つの新しい傾向として注意に値する。最近の外國雜誌を賑はせて居る、デイリー・エキスプレスの建築はこの黑色を用ひた適例である。（第1圖）

阪急經營の淀屋橋ビルの外壁の一部にも餘り色のよくないのが使用されてあるが、石本喜久治氏設計の京阪ビルの外壁も全部黑色ビトロライトが貼られる筈だと聞いて居る。

× × × ×

透明な比較的薄いガラス・ブリツクを、全くタイルやテラコツタなどと同樣に、外部仕上に用ひた例がある。第2圖はニユーヨーク市ブルツクリンの或アパートメントの入口であるが、漏斗狀に開いた入口の周圍にガラス・ブリツクを貼り、その目地の部分を磨いたアルミニユームの押緣で押へたもので、硝子から反射する光線の効果を狙つたものであるが、上手に應用しないと、僞裝の感があつてよくないかも知れぬ。

× × × ×

次の例は、從來のデツキ・グラスの施工方法を壁體又は屋根に應用したと見做し得るもので、第3圖に構造が示された如く、碁盤目に作られた鑄鐵の骨にガラスのブロツクを嵌め込み、外部からは骨組を隱して



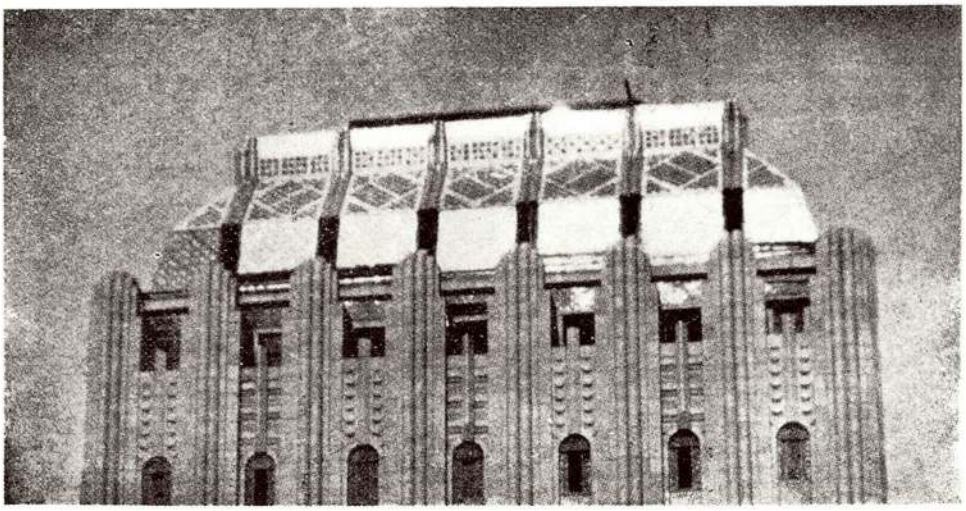
第 6 圖

セメント・モルタルの目地だけを見せる様に工夫したもので、近くは阪急ビル及阪急設立の淀屋橋ビルにその例があるが、第4圖及第5圖は共にそれが建物の入口の周圍に用ひられた例であり、第6圖及第7圖は屋根及塔の屋根に應用された例である。

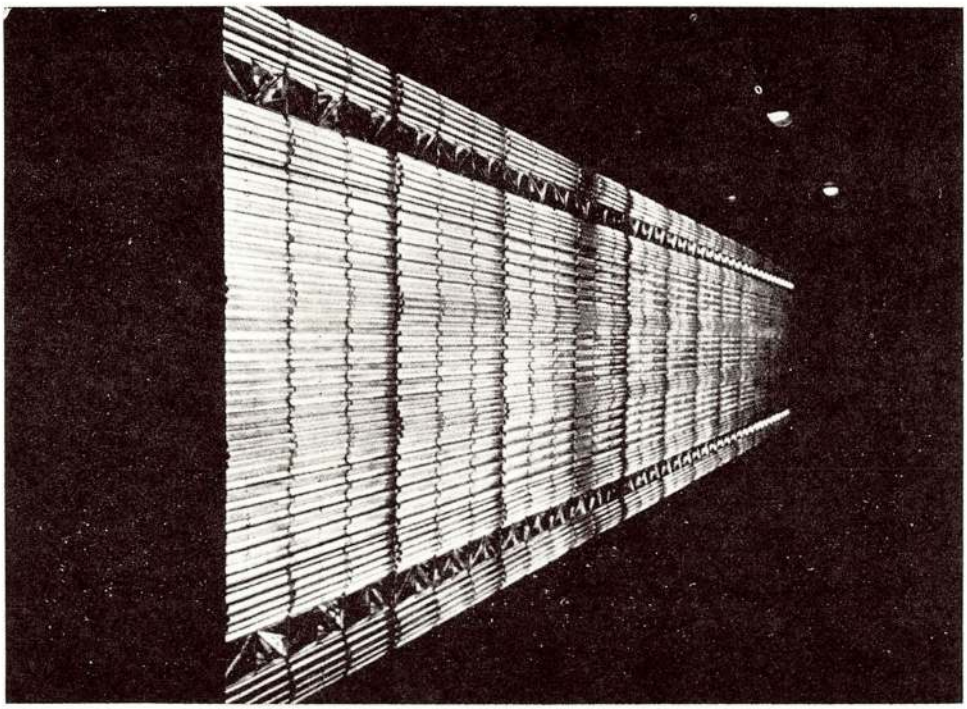
第5圖入口の上部は、一つ一つブロンヅの枠に嵌込まれた、11吋×11吋×$\frac{3}{8}$吋の大きの模樣附のガラス・タイルから出來て居り、そのガラス・タイルは一列置きに列全體夫々回轉軸がついて、換氣の爲に回轉する様になつて居る。夜は入口の上部にある數本の竪長い反射燈の中に隱されたネオン・ライトに依つて、それ等のガラスは非常に美しいエフエクトを現すと言ふ。

第7圖はニユーヨークのパービヅン・プラーザ・ホテルの塔の屋根である。この屋根は、大さ 8$\frac{1}{2}$吋×8$\frac{1}{2}$吋×$\frac{3}{8}$吋の四角いガラスのブロツクから出來て居る。ブロツクの外側の表面には高さ1/2吋の半圓形のリブが、簾狀に平行に作られてあつて、晝、それに日光が當るとレンズの作用をして、塔の屋根は燦然と輝き、夜、屋根の內部に燈火が灯ると、光はそのリブを通つて柔い光芒を放つと言ふ。

この塔のグラス・ブロツクの取附け方は、やはりデツキ・グラスの取附方法の一つと同樣で、鐵筋コンクリートのリブの間に嵌め込まれてある。但、ガラス・ブロツクの膨脹に依る破壞力を調節する爲に、各ブロツクはアルミニユームの枠にタールと硫黃粉とを以て取



第 7 圖



第 8 圖

附けられ、それを鐵筋コンクリートのリブに嵌込んである。タールと硫黄粉との混合物は、ガラスと枠とのヂヨイントの防水とガラスの膨脹收縮の影響調節との二つの目的に用ひられて居る。コンクリートのリブを防水的ならしめる爲には、精製された細粉のポルトランド・セメントを用ひ、アグレゲイトには花崗岩の碎石、砂は人工的に岩石を破壞して作つ

たものが用ひられて居る。鐵筋にはデフオームド•バーが用ひられて居る。

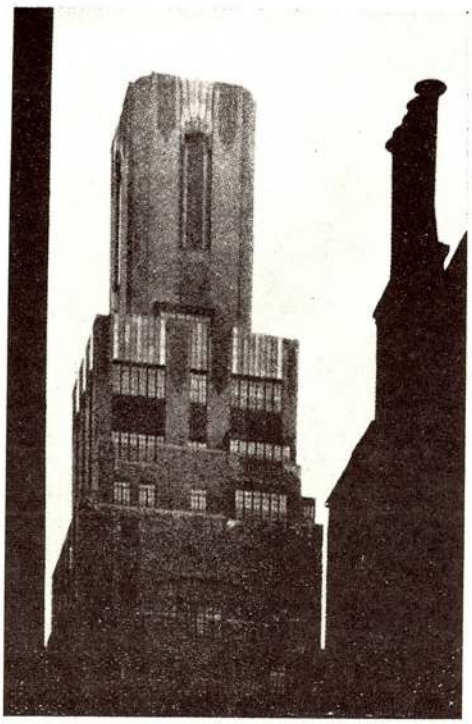
屋根の表面、ガラス•ブロツクの間に殘された狹いコンクリートの部分はアルミナム•ペイントで塗られ、ガラス•ブロツクはそのリブの方向が交互にダイヤゴナルになる樣に、矢筈狀に配列されて居る。裝飾的効果と可及的多くの反射とを得んが爲である。設計者の意圖は十分に成功して、この塔のガラス屋根はニユーヨークのスカイラインを飾る一つの名物になつて居ると言ふ。

× × × ×

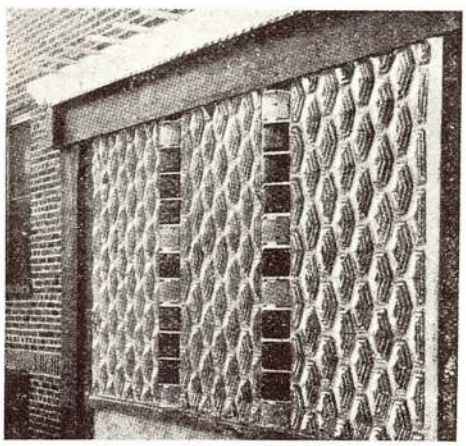
ガラス•ブロツクを天井に用ひて効果をあげて居る例がある。第8圖はニユーヨーク7番街の、或事務所建築の玄關廣間であるが、天井はリリーフの附いたガラス•ブロツクで組立てられて居る。各ガラス片は銅を電氣熔接して組合せ、それを更にブロンヅの枠で持たせてある。天井裏には照明が裝置せられ、リリーフを通して美しい間接照明が廣間に注がれる樣になつて居る。グラス•ブロツクを室內に利用する一方向を提示するものではないかと思ふ。

× × × ×

次に第9圖は中空のガラス•ブロツクを窓に使用した例である。



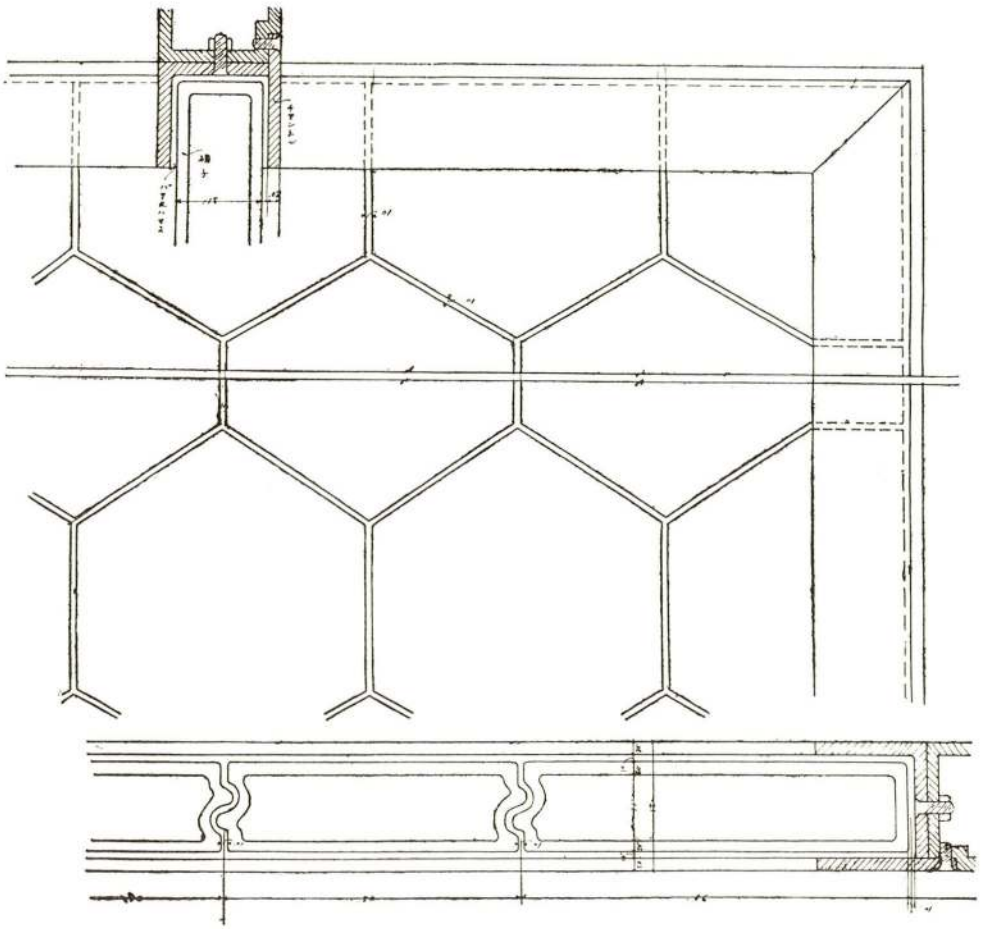
第 9 圖



第 10 圖

圖の塔の四面、頂上近くにある高さ 20 呎巾 6 呎 6 吋の大窓が中空のガラス•ブロツクで作られて居る。この場合、窓と言ふよりも寧ろ窓の形をしたガラスのカーテン•ウオールだと考へた方が適當であらう。ガラス•ブロツクの大さは $9\frac{3}{4}$ 吋×$4\frac{1}{8}$ 吋×$3\frac{1}{4}$ 吋で、前後の面には縱に條を附け、上下の面はモルタルの附着をよくする爲に粗面にした上、底部の凹所と頂部の突起とで嚙み合ふ樣になつて居る。

ガラスの膨脹收縮に對して調節を得る爲に、目地のモルタルはセメント 1.5、石灰 1、砂 4



第 11 圖

の割合に配合されて居る。この配合に依れば、モルタルは或程度まで伸縮性を持つと言はれて居る。目地は 1/4 吋乃至 3/8 吋である。

窓は鈍角 V 字形のガラス片から組立てられた二本の方立で竪に三つの部分に仕切られて居る。この方立の表面にも斷面半圓形の縦の條が刻まれてある。

この窓の構造は、窓周圍の煉瓦壁に接する所で、ガラス・ブロツクの半分位を壁の中に埋め込んであるだけで、他に何の補強も施してない。而も最近檢査の結果、このガラス・ブロツクの窓は防水その他の條件に就いて、何等の缺點をも現はして居ないと、設計者は報告して居る。

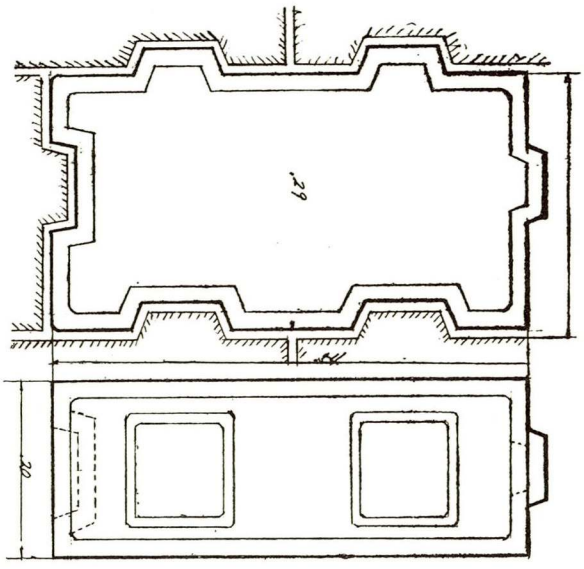
V 字形の斷面を有する方立が無色透明のガラスで作られて居るのに對しては、四角な窓ブロツクは紫水晶色であり、窓自身で美しい裝飾的効果を收めて居る上に、窓上部の多色のテラコツタと照應して、面白い對照をなして居ると言ふ。

塔の内部はエレベーター機械室、水槽室等に用ひられて居る故に、それ等の各室の夜間

照明が、紫色のガラスと透明なガラスとを各々その透過率の割合に透過して、夜空に美しい光畵を描き出すのである。

第7圖のバービゾン・プラーザ・ホテルの塔の屋根の座になつて居る垂直の壁も、同樣に大さ $9\frac{3}{4}$ 吋×$4\frac{1}{2}$ 吋×$3\frac{1}{4}$ 吋の中空のガラス・ブロツクから出來て居る。

又、第10圖はニユーヨーク郊外の住宅の壁であるが、六角形の眞空のガラス・ブロツクと、斷面が三角形の中空の方立とから組立てられて居る。



第 12 圖

第11圖及第12圖は中空のガラス・ブロツクの斷面の例であるが、最近村野藤吾氏設計の道頓堀赤玉に此の種の中空ガラス・ブロツクが用ひられると聞いて居る。

× × × ×

以上述べた新しいガラスの用法（主としてガラス・ブロツク——或はガラス・ブリツク又はガラス・タイルと呼ばれて居る——に就いてであるが）は、建築材料として適當な性質を有するガラス製造法の發達と、その新しい組立方法、或はその建築への施工取附方法の新工夫に依つて生れ出たものであるが、更にこれ等の發達を促した最初の原因として、建築の外觀に光學的要素の取入を重要視する樣になつた新しい建築の傾向を數へることが出來る。

晝は日光の反射、屈折等を利用し、夜は室內の光源或は外觀の目的を以て設備された各種照明の透過、屈折等に依つて、建築の容姿を都會の夜空に浮出させる工夫をする、建築の所謂リヒト・バウへの傾向が、ガラスの使途擴大への重要な促進劑となつて居ると思ふ。

—1932・12・11—

# 大阪市とその郊外地の展望

矢田鐵藏

昭和7年錦秋の候　畏くも聖駕を大阪の地に駐めさせられ、産業教育その他各種の施設に臨幸を賜はりし事は市史の上に永久に記念すべき光榮である、時恰も期を同うして關西に於ける建築家の唯一の團體たる日本建築協會はその創立滿 15 年を記念する幾多の事業計畫の一として住宅の改善改良を主眼としたる住宅博覽會を近郊の勝地、大美野及綠ケ丘に開催せし事は近代都市の發展並びに一般大衆の住宅に關する智識を向上增進せしめし上に於てまさに近代住宅建築の一大豪華版とも云ふべきである。

## 1

近代都市の多くは商業若しくは工業都市であつて、それ自身種々な生產機能を營むを以て、自然資本と人口とは都市に向つて集中しつゝあります。

これはすべての文明國都市に於て避く可からざる傾向である。從つてこれらの都市は立體的にも平面的にもたえず膨脹するのである。

都市の立體的の發達については生活の保健と保安と交通の安全等の見地より一定の制限を設けてあるが都市膨脹の前衛とも云ふべき周緣の郊外地に對しても都市の有機的發達と云ふ立場より統制されることが極めて必要である。

何となれば市內に於ける工場、事務所及商店が地域的に一定の場所に集中するに伴つて住宅が郊外へ郊外へと分散する傾向があるからである。

そしてこれらの郊外地は決して永久の郊外地ではなく、或速度を以てたえず外周へと移動してゐるのである。

然るに人類の最古の業務である農業を捨てゝ都會へと人口が集中しつゝあることは第1表によつて明らかなるが如く內地に於ては向後何年かの後には農村人口と都會人口とが等分になる時代が到來するものと信ずる。

第1表　都市人口增加比較表

| | 農村人口 | 都會人口 | 農村/都會 |
|---|---|---|---|
| 明治21年 | 34,935 | 5,169 | 6.77 |
| 明治31年 | 37,359 | 8,043 | 4.65 |
| 明治36年 | 38,494 | 10,049 | 3.83 |
| 明治41年 | 38,843 | 12,898 | 2.99 |
| 大正2年 | 39,907 | 15,224 | 2.61 |
| 大正7年 | 39,545 | 18,541 | 2.14 |
| 大正9年 | 37,927 | 18,032 | 2.11 |
| 大正14年 | 37,883 | 21,853 | 1.74 |

（本表は人口一萬人以上を以て都會とす）

## 2

工業立國政策によるときは必らず都市の膨脹を招來する。これは工業文明社會に於ける

都市の多くが大都市であるか又はその傾向にあるに徴して明かであらう。

しかし人口の集中は水の流れの様なものでこれをうまく利用すれば電氣を起すこともできるようにその調節統制を一歩誤らんか、都市の有機的發達を害するのみならず意外の災害を招き、延ては一國の社會組織を崩壊せしむるに到る様なことがあるかも知れないが、斯うなるとローマの諺にある『都市は人間の墓場なり』などゝ暢氣な事は云つて居られない。ジエームス・ブライス（James Bryce）はその著書の中に大都市の弊害として次の七項目をあげて都會の生活を悲觀的に見て之に代るべき田園都市の建設を主張して居る。

即ち

1 大都市は密住的であるから衛生上有害である。

2 市民等の多くは自然より離れることになる。

3 市民等の間に隣保的氣分が無くなり階級意識が高められる。

4 大都市生活は市民等の神經を過敏ならしめる。

5 大都市生活は特に兒童等の發育に有害である。

6 大都會の市民等は群衆心理によつて支配され易い。從つて大都市は各種の運動の發生地となる。

7 大都市生活は經濟的に浪費が多い、何となれば可なり多數の市民等は市の周邊または郊外に生活する爲めに人または物資の交通運輸に少なからざる浪費を招いてゐるからである。

第2表　都市の死亡率

（内地人口千人に付）

| | 人 |
|---|---|
| 大正7年 | 26.8 |
| 大正8年 | 22.8 |
| 大正9年 | 25.4 |
| 大正10年 | 22.7 |
| 大正11年 | 22.3 |
| 大正12年 | 22.8 |
| 大正13年 | 21.2 |
| 大正14年 | 20.3 |
| 昭和元年 | 19.2 |
| 昭和2年 | 19.8 |
| 昭和3年 | 19.9 |
| 昭和4年 | 20.0 |
| 昭和5年 | 18.2 |

第3表　都市人口繁殖率

（昭和四年　人口千人に付）

| | 都市 | 全國 |
|---|---|---|
| 出生 | 26 | 33 |
| 死亡 | 20 | 20 |
| 繁殖率 | 6 | 13 |

成程都市には騒音等によつて神經を惱まされることもあるがそれらの事は科學的に漸次改善研究されつゝあるし、衛生設備の點に就いても都市の死亡率は近年漸次降りつゝある點より見れば以前より改善されたものに相違ない（第2表）もつとも人口の繁殖率は低降してゐる（第3表）がもともと都市は子供を生み育てる目的のためにはあまりにも危險な搖籃である、が漸次研究されて居るので、之れらの點も解決されることでせう。この都市及び田園生活の兩者を折衷せる生活、即ち田園都市の建設によつて我々は一方に於ては活動的な都會生活の諸利益を享樂すると共に他方田園生活のすべての美點すべての悦樂を享受しうるであらう。

3

大阪の地は往古難波と呼ばれ海陸交通の要衝にあつたので早くよりひらけて居たが、仁德帝の高津宮御造營により又豐公の築城なるに及んで商工業頓に興り、近代大阪發展の緒を開き其後德川時代に入るやその經濟的の發展は益々顯著で全

く海内の商權を握るに至つた。明治22年市制を實施しその後明治30年隣接28ヶ町村を合併したが又市街地の膨脹に伴ひ、大正14年に大擴張を行つて2郡44ヶ町村を編入し、行政區劃を13區に增し、今や地域18513平方粁、人口250萬を擁する一大經濟都市となつたのである。(昭和7年10月・旭・大正の二區を增す)

之に附隨して市に接續する近郊の土地も非常なる勢をもつて開發經營されてゐると共に未だ市街化して居らぬ、新市域に對しても、都市計畫の一部として地主を督勵して土地區劃整理組合を組織させてこれが發達の助成に努力せる現狀であつて、その施工面積でも約860萬餘坪に及び更に目下設計々畫中のものがやはり830萬餘坪の面積がある由にて所詮既成都市の改造には莫大なる費用を要するのであるからこの新市域並びに周緣の町村の形態と、その發達とを科學的に統制誘導することによつてのみ始めて健全なる都市を完成することが出來ると思ひます。(第4表及 5. 6. 7 表參照)

4

都市を中心としてその觸角の樣に延

第4表　大阪市過去の人口　(市勢要覽による)

| | | | 人 |
|---|---|---|---|
| 寛文5年 | 西暦 | 1665 | 268,760 |
| 元祿12年 | 〃 | 1699 | 364,154 |
| 明和元年 | 〃 | 1764 | 422,359 |
| 天明4年 | 〃 | 1784 | 384,395 |
| 明治元年 | 〃 | 1868 | 281,306 |
| 明治10年 | 〃 | 1877 | 281,119 |
| 明治20年 | 〃 | 1887 | 426,846 |
| 明治30年 | 〃 | 1897 | 758,285 |
| 明治40年 | 〃 | 1907 | 1172,138 |
| 大正9年 | 〃 | 1920 | 1252,983 |
| 大正14年 | 〃 | 1925 | 2114,804 |
| 昭和5年 | 〃 | 1930 | 2453,573 |
| 昭和6年 | 〃 | 1931 | 2519,500 |

第5表　大阪市の人口及密度 (昭和六年十月一日)

| | 總數 (單位千) | 一方キロ人口密度 |
|---|---|---|
| 全市 | 2519.5 | 13.6 |
| 北區 | 220.3 | 25.0 |
| 此花區 | 187.3 | 17.0 |
| 東區 | 165.0 | 25.4 |
| 西區 | 125.3 | 29.4 |
| 港區 | 378.3 | 20.6 |
| 天王寺區 | 116.8 | 26.5 |
| 南區 | 119.5 | 43.7 |
| 浪速區 | 143.7 | 37.9 |
| 西淀川區 | 151.4 | 7.1 |
| 東淀川區 | 183.0 | 6.3 |
| 東成區 | 349.3 | 11.8 |
| 住吉區 | 205.8 | 5.3 |
| 西成區 | 173.8 | 24.5 |

第6表　家屋數(住宅) (昭和六年十二月末現在)

| | 住宅總數 | 現在住宅 | 空家住宅 | 住宅總數100に付空家 |
|---|---|---|---|---|
| 北區 | 44,108 | 42,040 | 2,068 | 4.69 |
| 此花區 | 36,079 | 34,528 | 1,551 | 4.30 |
| 東區 | 29,032 | 28,389 | 643 | 2.21 |
| 西區 | 22,917 | 21,961 | 956 | 4.17 |
| 港區 | 73,065 | 68,132 | 4,933 | 6.75 |
| 天王寺區 | 23,845 | 23,033 | 812 | 3.41 |
| 南區 | 22,661 | 22,121 | 540 | 2.38 |
| 浪速區 | 27,837 | 27,308 | 529 | 1.90 |
| 西淀川區 | 32,667 | 30,406 | 2,261 | 6.92 |
| 東淀川區 | 40,365 | 37,736 | 2,629 | 6.51 |
| 東成區 | 79,876 | 74,231 | 5,645 | 7.07 |
| 住吉區 | 48,652 | 43,609 | 5,043 | 10.37 |
| 西成區 | 36,058 | 33,017 | 3,041 | 8.43 |
| 合計 | 517,162 | 486,511 | 30,651 | 5.93 |

第7表　大阪市空家率

| 年　次 | 總住宅 | 空　家 | 總住宅の百に付空家 |
|---|---|---|---|
| 大正14年 | 441,881 | 17,161 | 3,88 |
| 昭和元年 | 459,938 | 19,139 | 4,16 |
| 同　2年 | 470,524 | 24,084 | 5 11 |
| 同　3年 | 484,446 | 24,760 | 5,11 |
| 同　4年 | 502,384 | 24,197 | 4,81 |
| 同　5年 | 509,874 | 26,963 | 5,23 |

びて居る軌道は日々莫大な人口を郊外地に送迎して居る。故に都會人は最早距離を忘れたかの如く距離を表示するに『何分かかる』と云ふのが普通である。その時間も最近は電鐵會社の「スピードアツプ」に伴つて漸次短縮されつつある。

さて郊外地の發展と電鐵會社の營業政策とは極めて密接な關係にあつて土地は移動できないからどうしても最短の時間に輸送され、目的地に達してこそ始めて郊外地の意義があるからである。

電鐵會社は本來運輸並電燈が主業であつたが最近の様な多角經營の時代に於ては多くの會社は皆「土地及建物」の經營を行つて居りますが、元來土地建物經營は地味なため、他の百貨店其他のものに比して收益が極めて低率を示して居るのですが、その沿線を開發して健全なる都市の發展を促すが爲め、或は財界の不況時に際し、運輸收入の固定額を維持し沿線居住者に依る事業を目論見等、都市の人口密度を緩和する意味以外に各種の事業を營む要素を多分に持つた極めて意義ある經營なれば最近各社に於て相當重要視して居るのであります。今六大電鐵會社の沿線に經營されてゐる主要なる住宅地を參考のため揭げると第8表の如くになります。

第8表
電鐵會社經營に係る沿線の主要なる住宅經營地

| 會社名 | 經營地の名稱 | 坪　數 |
|---|---|---|
| 大鐵沿線 | 藤井寺、白鳥園、矢田、憩我ノ莊、高見ノ里、古市、等 | 約　220,000坪 |
| 阪急沿線 | 塚野、石橋、曾根、豐中、西宮北口、仁川、苦樂園、甲東園、岡本、櫻井、等 | 約　400,000坪 |
| 京阪沿線 | 香里、牧方、牧野、神崎川、垂水、大學前、千里山、高槻、向日町、南方、富田、桂、等 | 約　700,000坪 |
| 大軌沿線 | 山本、長瀨、額田、生駒、アヤメ池、等 | 約　130,000坪 |
| 阪神沿線 | ホテル前、六甲山上、甲子園、等 | 約　455,000坪 |
| 阪和沿線 | 上野芝、千枝ノ莊、葛葉、等 | 約　150,000坪 |

5

大阪近郊にある土地建物を專門に經營してゐる主要な會社をあげると第9表の通りである。而してその經營方針が次の様に分れて居ると思ふ。

1 土地を販賣し家屋を建築するもの。
2 土地賃貸を主とするもの。
3 貸地主義で他に直營貸家敷地を有し工業地帶の建設を目的とするもの。
4 歡樂境興業經營を主とするもの。

以上のうちで土地販賣を主とする會社に於ては「インフレーション」の好影響を受けることが強いから向後相當活況を期待し得ると思ふ。

地價は今日迄極度に下落して來たが、ここに景氣が出て、しかも貨幣價値が動搖するとするならばいきほひ土地への投資が起り、地價の騰貴を招來するかも知れない。何となれ

ば土地景氣は一般事業界のそれより少し遲れて來るのが常であるから。(第9表參照)

第9表　大阪近郊土地建物經營會社

| 會社名稱 | 創立 | 營業方針 | 經營坪數 | 資本金 |
|---|---|---|---|---|
| 木津川土地運河株式會社 | 大正6年4月 | 臨港工場土地 | 180,000坪 | 1,0 0,000圓 |
| 今里土地株式會社 | 昭和3年8月 | 歡樂境經營地 | 200,000 〃 | 3,600,000 |
| 關西土地株式會社 | 大正8年12月 | 土地及住宅經營 | 894,000 〃 | 26,000,000 |
| 城東土地株式會社 | 大正8年3月 | 土地經營 | 93,331 〃 | 1,706,250 |
| 大神中央土地株式會社 | 大正7年3月 | 土地及住宅經營 | 72,000 〃 | 4,000,000 |
| 平塚土地經營所 | 大正10年5月 | 土地經營 | 53,000 〃 | 1,000,000 |
| 城北土地株式會社 | 大正8年5月 | 土地經營 | 311,000 〃 | 3,000,000 |
| 安治川土地株式會社 | 大正6年12月 | 土地經營及貸地 | 486,000 〃 | 25,000,000 |
| 大阪北港株式會社 | 大正8年12月 | 臨港工場土地 | 1,051,000 〃 | 35,000,000 |
| 大阪港土地株式會社 | 明治45年5月 | 臨港工場土地 | 98,000 〃 | 2,500,000 |

## 6

次に住宅地の選定について大體の標準をのべると、古代ローマのヴイトルヴイウス(Vitruvius Pollio)はその浩瀚なる建築論の中に次の樣に述べてゐる。

『選定さるべき敷地は先づ第一に健康地でなければならない。それは高地であつて極端に暑くも寒くもない地勢たるを要する。西方に開いて海濱にのぞむ都市は非衛生的である。太古の人々は或る土地が果しし健康地であるか否かを試さんがために其處に棲息する動物の肝臟を解剖してみてその結果肝臟が健全であつた場合には彼らはその土地の方角、食物、飲料水等が總て彼らに適合するものとして其處に都市を建設したのである』

最近の我國及歐米方面に於ける住宅刊行物並に書物等より大體參考になる標準をあげると次の十項目になると思ふ。

1. 地　勢

高燥にして排水良く、眼界開けて日光麗かに空氣清新なる土地であることが必要である。

2. 土　質

建物の基礎を安全に支持し、雨水を速かに浸透し去り、且植物の繁茂に適する土質、例へば砂混り粘土質など適當である。

3. 水　質

直接保健に關係するものであるから充分注意する必要がある。地下水位は地表面下10尺以下にあることが必要で、地表から3尺位の所で湧出する井戸は良質でない、若し市街地の如く完全な上水道の設備があれば結構だと考へて居ります。一應公立の試驗所に分析を依頼しその結果によるのがよい。

4. 廣　さ

住宅の場合あまり廣すぎても管理に勞力と費用を要する譯であるから普通120坪位から500坪が理想的で、之に建てるべき家の建坪も敷地の1/4乃至1/3が適當の處でないかと思ふ。

5. 形　狀

敷地の形狀に就いては俗間、巽張(南々東)、乾張(北北西)、は吉とし鬼門張(北北東)は凶であると云ふ樣な事が未だに信じられて居るが、何らの根據のない事である。更に不思議なことには人によつては、大阪の中心から鬼門になる方向を嫌ふ者があるがこれなどは謬見も甚だしいので若しかかることが一般に信ぜられてゐるとすれば鬼門地域とでも指定して立入禁止でもしないと具合のわるいことになる。

6. 風　位

風上に臭濁な地域があつてはならぬ。それに元來吾國は歐米などに比し夏期濕度が高く、冬期には別して低いから防暑を主として意を注ぐ必要がある。又大阪附近では夏は主として西風が多いから、西方をあけないと凉風を滿喫することができない。

7. 交　通

都市の中心(ビヂトス・センター)に到るに簡單にその目的を達せられることと、電車汽車の停留所や停車場への距離の遠近、並びに乘換等の有無も考慮に入れてをくことは非常に重大な事である。

8. 環　境

之によつて人間はつねに支配され易いから充分深甚な注意を用ふる事が必要である。附近に工場、動物舍、塵芥捨場、墓場等の存在することの不可なるは勿論であるが又危險物を取扱ふ工場の近からぬ事も肝要である。其他日常物資の供給關係も大いに考へる必要がある。

9. 教育機關

附近學校の位置等は子女並に成人教育の上から云つても第一に考慮さるべき條項でなければならない。更に東京附近では一つの學校を中心として發達した所謂學園都市がある位だからこの點は文化人にとりて最も肝要なことである。

10. 價　格

地價は勿論低廉なことが必要であるが附近の情勢より推して、近き將來に於ける値上りを見越しうる樣な土地であることが最も必要であると思ひます。

×　　×　　×

附言：表のうち都市に關するものは第50回帝國統計年表及大阪市統計書に據る。

# 昭和七年の住宅建築界を顧みて

松　本　儀　八

內外あらゆる方面に多事多難なりし昭和七年もあと旬日を殘して遂に逝かんとして居る餘りの重荷に世人は皆苦しみぬいた感を深ふする。住宅建築界もご多分に洩れず色々の影響を受けて蒙つた打撃も頗る大きかつた年であつた。

此の由つて來たる所を究むれば經濟界未曾有の不況!!加ふるに滿洲事變、夫れに思想問題、この非常時的社會不安の坩堝に捲込まれた爲であつた。

經濟界の異常な動搖は年初から多難なるを思はせた。金再禁後の二三ケ月は一寸好景氣を匂はせたものゝ禁止前に於ける甚大なる打撃は燒石に水の觀で如何ともする術は出來なかつた。國民生活問題たる住宅の建築にも必然的に手控氣味となつたのも寧ろ夫れは當然であつたらう。

更に爲替相場はインフレーションの必然性を鋭く感じ始め7月から8月にかけて急落し6月に32ドル臺にあつた相場は8月下旬には遂に22ドル臺を割るに至つた。豫想された物價騰貴も到底恢復し得ぬ購買力の前には一時的に騰つても忽ち反落し一般には反つて禁止前よりも下廻る狀態に立至つた。

然るに貿易關係方面では爲替の大慘落に依り物價は8月頃よりストツク品の缺乏と共に當然活潑なる上騰歩調となり押詰つた11月となり12月に入つて殆んど狂氣的好景氣を叫ばせるに至たつのである。

だが一般大衆の生活苦は拭はれたかと云へば、そうでなく逆に國內的生產に從ふ國民の大多數に根强く喰入る苦難は大きい。大衆は今何處に行くべきかに迷ふて居るの觀さへある、移り行く世相を不安げに見守つて居るかの樣にも見へる。事實は斯ふなのだ。昨今の好景氣は風に吹かるゝ枯木の葉にも等しい。今正に枯死せんとする大木は一體どうなる。

昭和七年の經濟界は實に大衆の生活不安が前年にも增して太くなつたに過ぎない。加ふるに滿洲事變に絡まり對外的に悲觀じみた材料さへ集り取越し苦勞にも考へらるゝ臆說生まれ不安は一掃すべくもない。

社會不安も之に參加し、5・15事件、ギヤング事件、共產黨事件等々相次いで起り、思想的にも不安の大を思はしめ一般國民に少からぬ刺戟を投げつけたものだ。

第一の生活不安は住宅建築界に致命的影響を與へ、第二、第三の不安は一層一般に住宅建築熱を抑制したのは如何とも施す策のない動向であつた。

然るに建築材料が一般物價と同一歩調を取つて安値を示せば幾らか助かる途も拓き得た

らうけれど、爲替安と今夏臨時議會に於ける失業救濟土木事業豫算案通過などにより茲數年來常つて遭遇せざる不均等的諸材料等の値上りの爲め極めて變調的となり茲に全く不首尾な現象を見るに至つた譯である　現政府は「自力更生」の方策を樹てようと指示されたが、住宅建築界に於ては未だに「明日」の問題であるのは、事實已むを得ない事とは云ひながら、國民生活の上からしても誠に遺憾なことである。(昭和7•12•14稿)

---

# 建物の窓から

吾山生

世はあげて不安そのものゝ様な有様になつて來た、政治に外交に非常時は單に口丈けに稱へらるる事ではない、我々の足下に着々と迫つて居る、又既に苦しみつつあるのだ、何時の時か安心立命の境地に至らんやだ。

この不安の反映が如何に最近の建物に現はれて居るかをみるのも現世相の一面の觀察になり得ると思ふ。

昭和七年の建築界は實に未曾有とも云ふべき畏縮時代であつた、所詮は工費の低下に副はず大した建物は出現しなかつた。

工場、會社、銀行、商店、等に就て見るに、一般に極度の科學的經營法に則る能率的なる施設に俟つて建築せんとする傾向は一層顯著となつて居るが、虚飾は勿論一切廢せられ建築費は切詰め得る丈け安くと云ふのが定説となつて來た、然しこれは一面誠に嬉しい轉向だ。建築界の理想に一歩を踏入れた譯である。茲で住宅に就て之を觀るに之まで一般に廣く大きくを以て其家の能とし、數々の不必要な室々を列べ立てた間取り等も、近來次第に合理化されて安息所、慰安所たる理想をば失はぬ様趣味と生活様式に適合した最も經濟的なる住宅が要求される様になつて來た。近時アパートの出現も斯様な意味に於て急速の發展を見るに至つたものではなからうか。

飜つて娯樂的建築即ち劇場、映畫館の類を見るも時代の要求とも云ふべきか、建物の性質上計畫等に刺戟的の尖端味を選ぶとも工費に至つては最少限度に節約せる行方は申合したかの如くである。

斯の如き現象も刻下の經濟界の不況時に際して已むを得ないとしても、吾々の理想としては今少しく餘裕ある社會生活を營み得る様な建物を望んでも許さるべき時代が一日も早く到來せん事を期待するものである。



紅蓮の災に包まれた東京白木屋本店

# 京東白木屋本店の火災

## 近代高層建築最初の慘禍

12月16日、午前9時20分東京日本橋通一丁目白木屋4階玩具賣場より發火、忽ち4階全部を火焔に包み猛火は更に5階、6階へと延び火炎に包まれた各階は阿鼻叫喚の巷と化し、警視廳自慢の救命梯子その他ポンプ數臺各消防署のポンプ十數臺、それに近衛歩兵第2聯隊兵士35名、麹町、本所憲兵分隊からもかけつて消火に努めたが火勢猛烈、手の下し様なく女店員や婦女子或は男店員らが救助の最後の叫びをあげ、中には猛火を潜つて身を躍らせ街頭へ飛び降りるもの十數名におよび、日本橋の華やかな大通りも血と紅蓮に包まれた、更に警視廳消防部の依頼による飛行機の出動、應援の警官、青年團など必死となつて努力の結果、午後零時30分に至り鎭火するに至つたが、死傷者は100名突破、實に近代建高層築を誇るビルの出火でかくの如き大慘事を生んだのは大震以來はじめてのことである。

（大阪朝日新聞記事要約）

## 慘禍の反響——市街地建築物法改正か

突然のニュースは各方面に非常なる反響を齎した。その發火原因がクリスマス●ツリーの强電流であり更に附近のセルロイド玩具に引火して大事を惹起せしめたるにより危險物

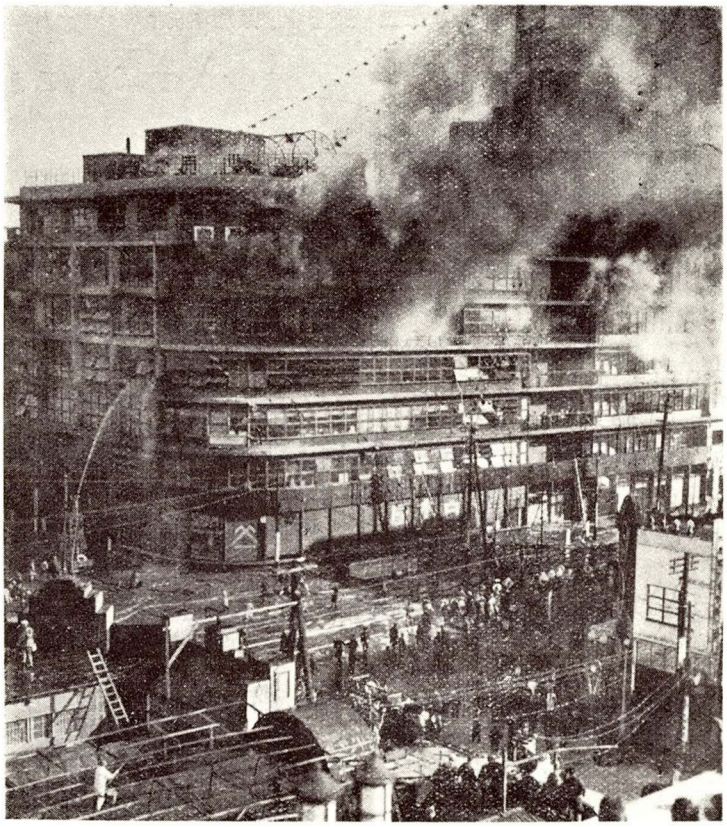
品の取締の上に、或は救命梯子、ポンプ等の消防施設が殆んど効を奏せざりしに依り將來の高層建築慘禍を豫想しての新らしき消防施設の問題．更に防火設備、避難設備等の不備不足によりその慘禍を增大し多數の死傷者を出せるに鑑みて、高層建築物に百貨店の如き建築物にこの方面の設備を完備せしむる法規の制定等盛んに唱導されるに至つた



大阪朝日新聞は12月19日の社說に高層建築の慘禍と題し、避難安全の施設の完備を强調し、これに關する我が國の法規並に監督の不完全を指摘し、大阪毎日新聞は、內務省に於て近代高層建築物に對する防火施設について十分なる研究と對策を樹立する必要ありとし近く警視廳、百貨店、ビルデイング經營者、學者など關係各方面の權威者をまじへて高層建築に對する防火設備や消防施設の打合せ協議を行ふことになつたが、この結果は當然現行市街地建築物法も改正することになるわけである、と報じてゐる。

### 本協會の活動——調査員の派遣

日本建築協會は事件の發生と同時にその重大性にかんがみ、急遽18日役員、法制、災害强度の兩委員會臨時會合を催し、池田副會長座長となりて各自意見の交換をなして對策を考慮したが、取敢へず現地調査の必要を認め、直ちに岡部顯則、落藤藤吉、黑田茂の三君を特派して調査せしめて居る。何れ之等特派員の歸阪と共に詳細な報告があるであらう。



**更に内務大臣へ建議**

協會に於ては更に事件の重大性に鑑み 19 日評議員會を開催して、百貨店建築に關する建議案を作成決議し直ちに、內務大臣宛電送を以つて次の如く建議したのである。

**百貨店建築ニ關スル建議**

最近都市ニ於ケル百貨店ハ急速ノ發展ヲ來シ其ノ建築ハ漸次規模ノ大ヲ競ヒ日夜數萬ノ顧客ヲ包容シ都市大衆ニ最モ密接ナル關係ヲ有スル一大機關タルニ到レリ。

然ルニ本月 16 日帝都白木屋ニ於ケル災害ノ報一度至ルヤ全國民ヲ恐怖セシメタルコト多大ナルモノアリ、想フニ斯ノ如キ災害ハ將來再ビ起ラザルヲ保シ難ク或ハ更ニ之ニ數倍スル人命ヲ損ズルノ虞ナシトセズ、此ノ種建築物ニ對シテハ其ノ取締ニ關シ特殊ノ考慮ヲ要スルモノアルヲ痛感ス、須ラク市街地建築物法第十四條ニ基キ速ニ百貨店建築ノ構造設備其他ニ關スル特別規則ノ制定アランコトヲ切望シテ止マズ

右建議候也

昭和七年十二月十九日

日本建築協會會長　工學博士　片　岡　安

內務大臣　山本達雄閣下




1・西南よりの外觀

阪急ビルデイング

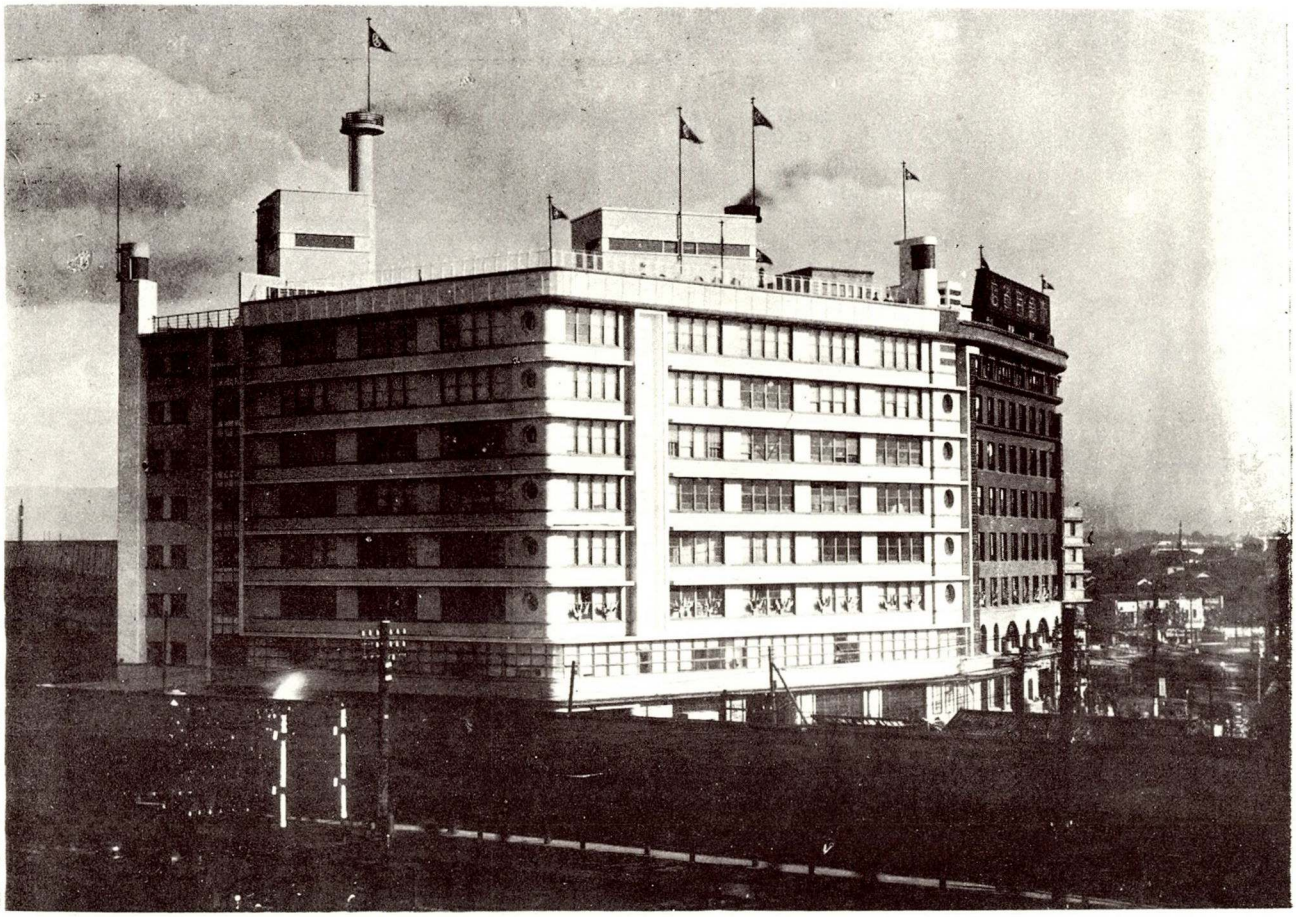
設計　竹中工務店設計部

施工　竹中工務店

向つて左1/3白いのが第3期擴張工事の一部2階窓臺迄が萬成石水磨。それから上は淡黃色タイル、窓臺と庇鼻はテラカツター。

舊館との取合ひはイキスパンシヨンジヨイントとし建物全部が別々になつて居る、この部分の丸窓は空氣調整用の外氣のインレツトである。左端に近い竪長のブランクはやがて廣告塔に使用するところ。これにつゞくパラペツトは高さ5尺通りスキガケを嵌込み、裏から照明して居る。これも將來ネオンか何かでサインするときのバツクとなるもの。建物の高さが擴張部分で高くなつて居るのは建築法規が丁度改正されたので一杯迄延したのであるが、舊館の方もこれに合せて全部改造する計畫である。

外貌がひどく相違して居るのは、この擴張部の用途が舊館と異るために試みられたものであるが、之はまだ將來に殘された問題である



**2・北西よりの外観**

最左端は排氣塔、次はサービスエレベーター及水槽、その次は客用エレベーターの塔である。



**3・客用エレベーター塔屋**

3階になつて居る。2階は係員の詰所、3階は機械室。昇降機は4基、内2基は350呎49馬力、他の2基は300呎45馬力。竪型モーターヂエネレーターを用ゆ。

**4・新舊館取合部仰觀** ➡

パラペット下部の丸窓は照明用。
2階は壁なしの總ガラス面。



**5・銀行及トラツク入口** ⬇

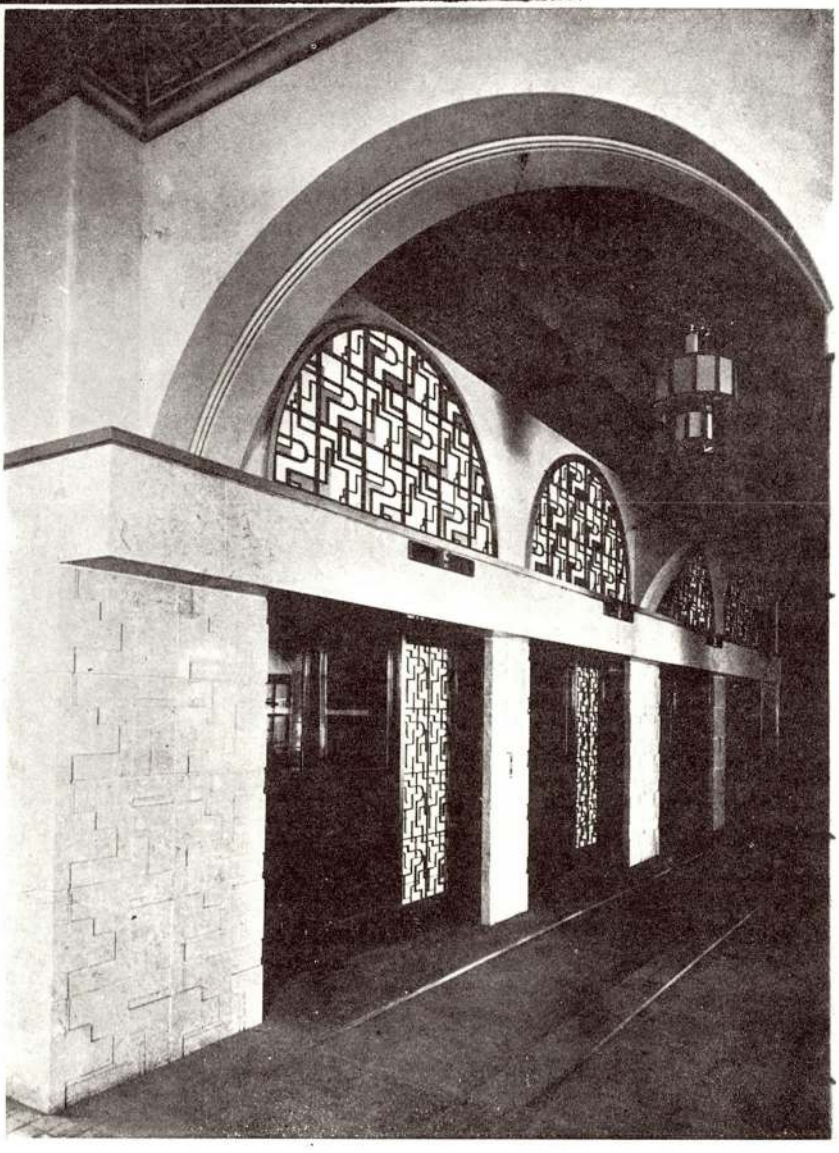
銀行入口廻りは萬成石、ステンレススチール、丸窓は應接室用、空濠手摺はホワイトブラス。トラツク入口はこゝより1/8の勾配で地階の荷解場、倉庫等を通つて東側に抜ける。塊石敷。





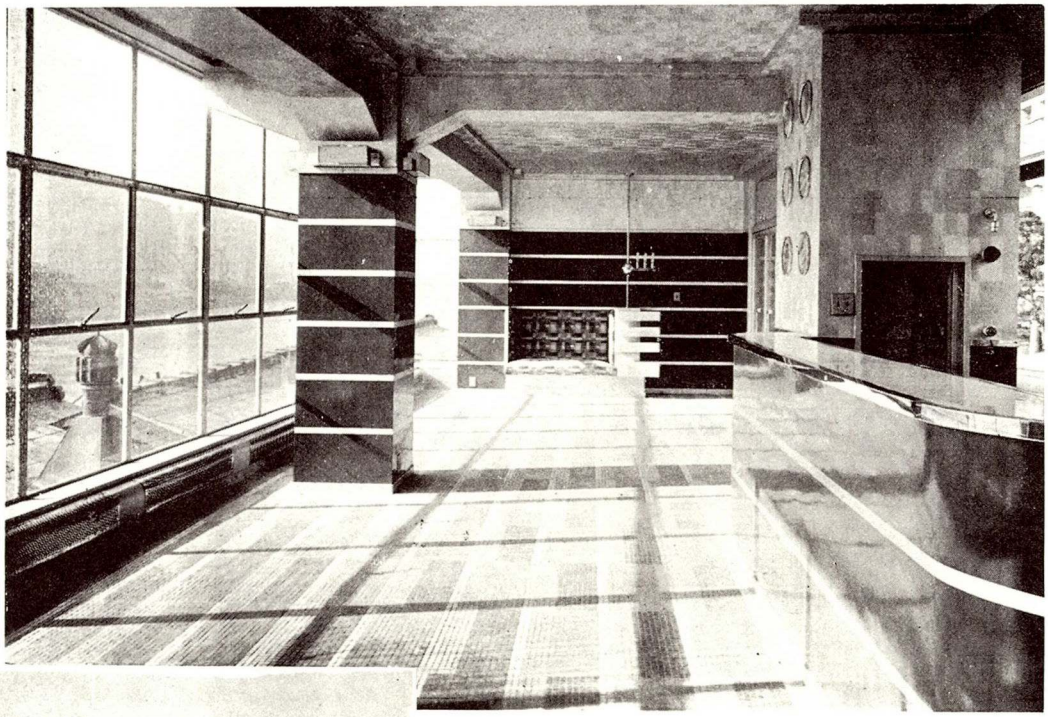
**6・1 階 天 井**

地階賣場專用の大階段より1階天井を見上げたところ。



**7・1階エレベーターホール** ➡

腰は宇流間石。
グリルは眞鍮、下地はカラスグラス及アルミ板。



1•1 階食堂

南面一ぱいに嵌め込まれた硝子からは明るい陽光を受けて一の浮塵すら許されない。16坪程の小食堂乍ら無駄なスペースは何處にも見出せない。
濃綠色ラツカー吹付け仕上の壁面は銀色の紐で調和をとり天井及リフト側壁面はテツコー壁紙貼り、カウンター甲板はビトロライト。銀色の天井と濃綠色の壁面のもつ調和を床のモザイツクタイルで食堂としての親しみを增してゐる、電燈はスマートで輕快なものペラ硝子を使用す。



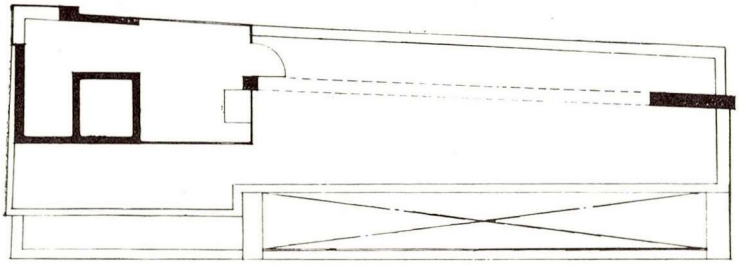
2• 外 觀（東北面圖、市役所前より見る）

正面根石黑花崗石、庇下の壁面は淡紫色ビトロライト其の他全部白色タイルを張り立つ。東側ステアーケースの採光窓はプリズムグラス。ホワイトとシルバーの諧調を庇上の文字で全體を纏めてゐる。
高さ66尺軒高50尺7寸、屋上の鐵骨は將來廣告に利用せられるところであらう。

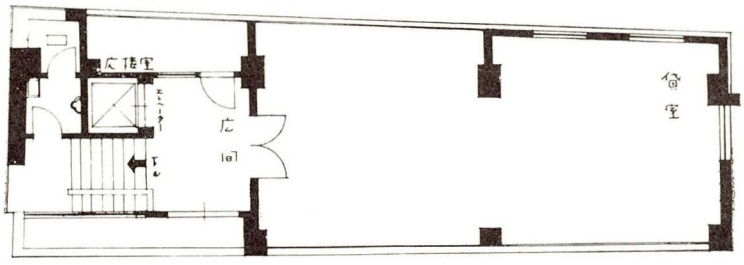
淀屋橋ビルデイング

設計　早良俊夫

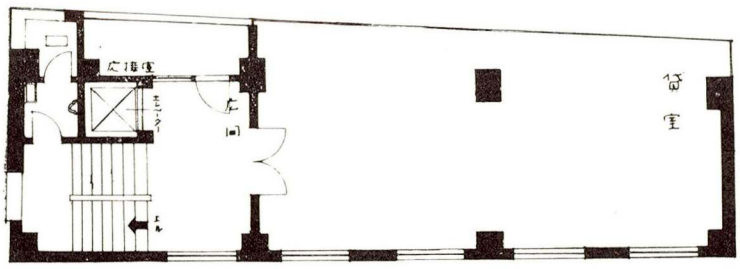
施工　竹中工務店



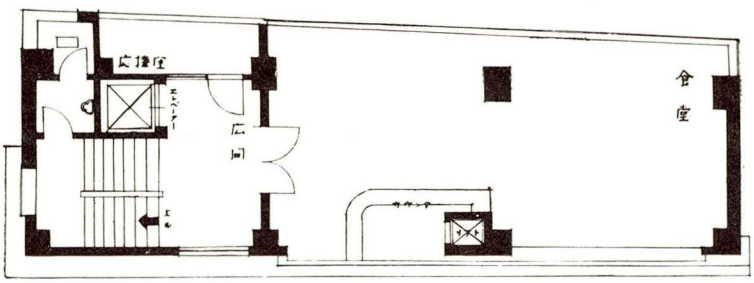
屋階平面圖



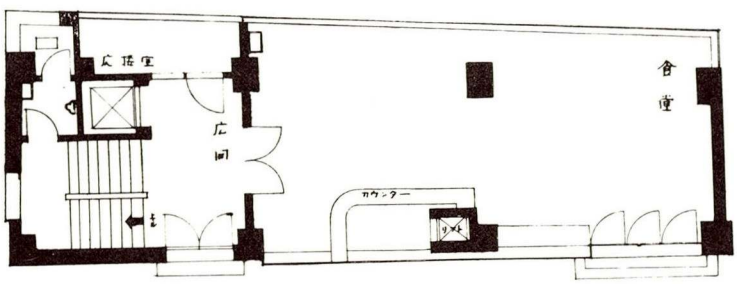

5階平面圖



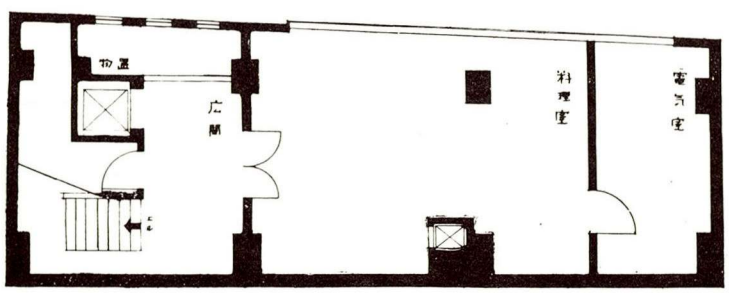

3,4階平面圖



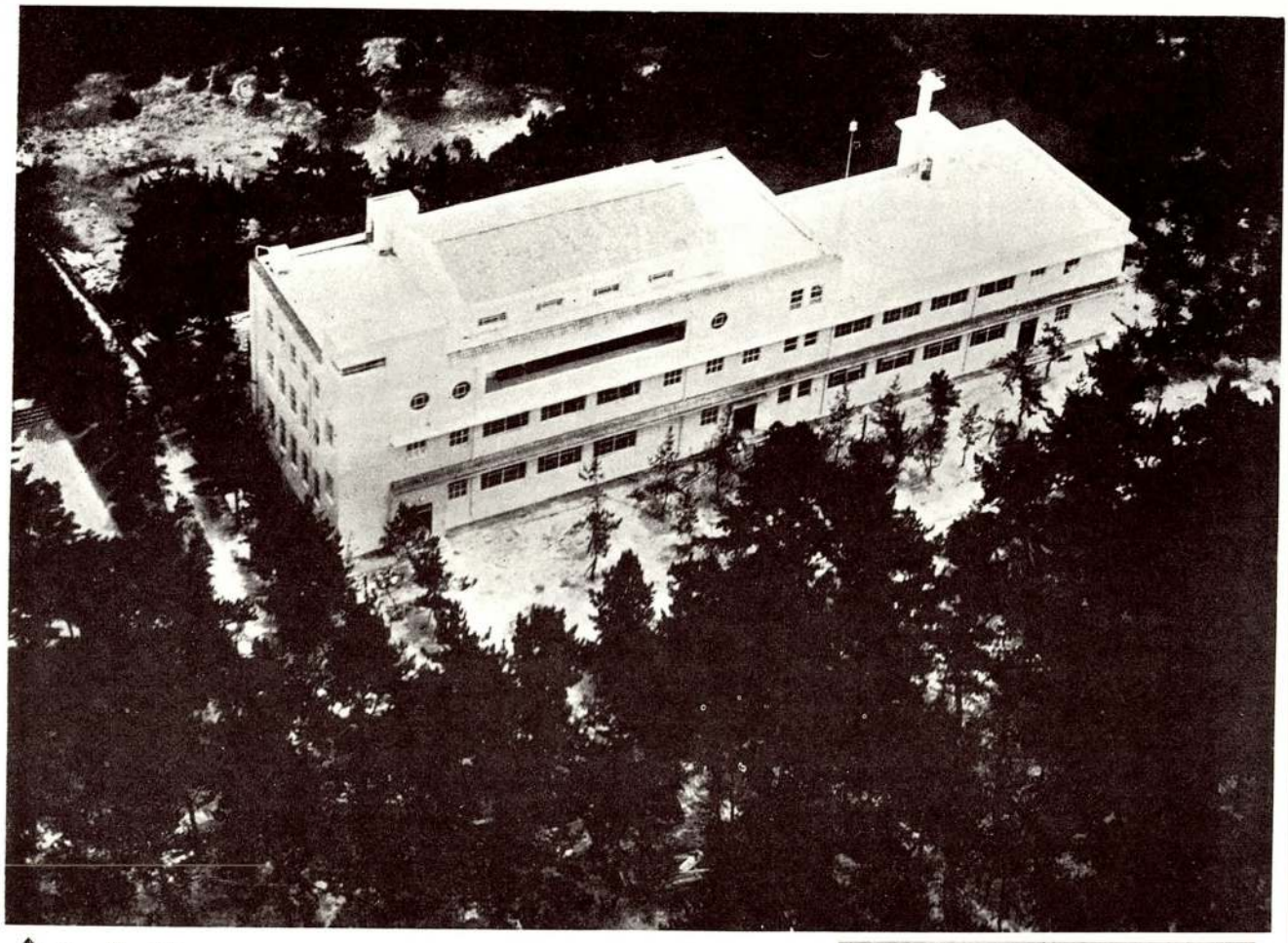

2階平面圖




1階平面圖

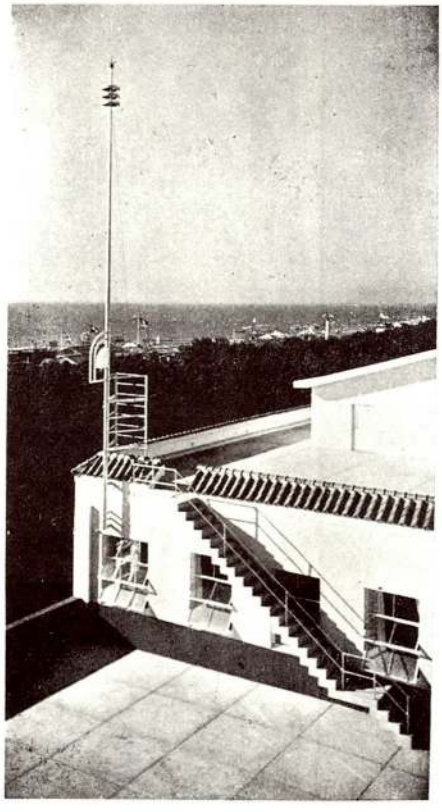



地階平面圖



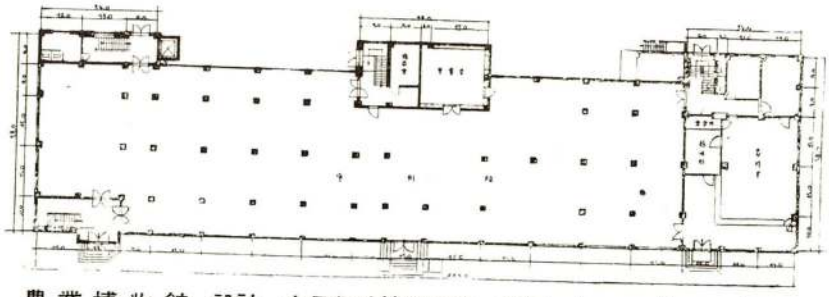
1・外　觀

2・バルコニーの一部 ➡



海水浴と風光で名高い濱寺に白砂の地青松の間所謂インターナショナル風の瀟洒な姿が陰見する。稻作增收運動其の他農業改善促進に努力してゐる富民協會の手によつて建設されたものである。他に比類ない建物故その計畫に隨分苦心があつたであらう。

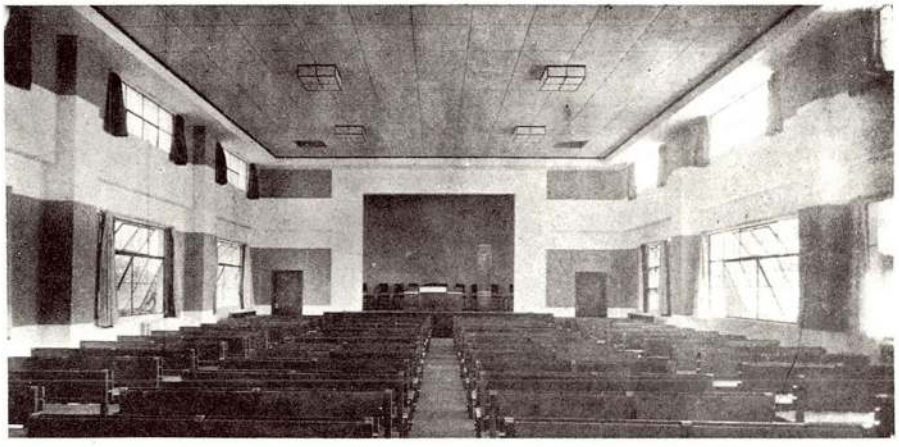
1階平面圖



農業博物館　設計　中尾保建築事務所　施工　大　林　組



⬆ 3・正面入口

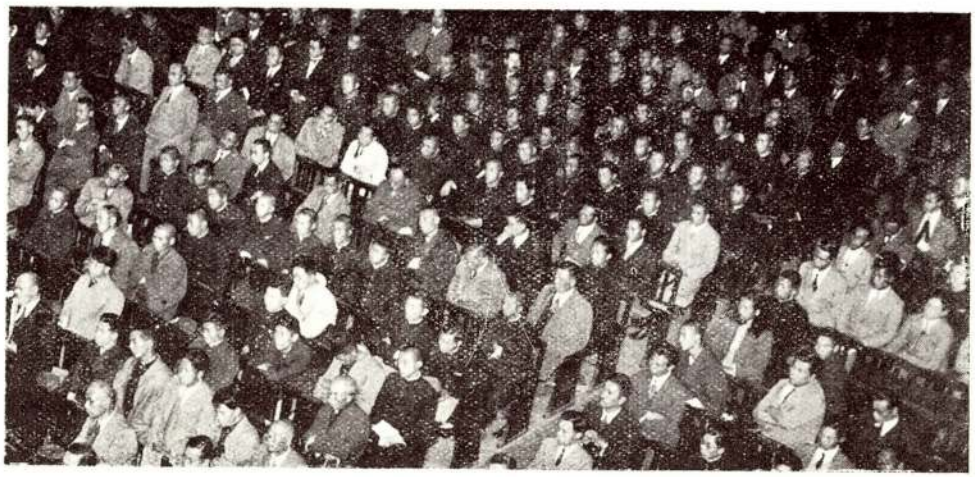


⬅ 4・集合室

天井セロテツクス張




⬅ 5・集合室



# 滿十五年記念
# 建築通俗大講演會
## 速記錄

この大講演會は本會創立滿十五年の記念事業の一つとして11月2日大阪市中央公會堂に於て開催されたもので聽衆二千を越へ盛會であつた。

## 開會の辭

記念講演會委員長
神戸高等工業學校長　古宇田實

是より講演會を開會いたします。講演に先だちまして一言皆様に御挨拶を申上げ度いと存じます。我日本建築協會は大正6年の3月に關西建築協會と名づけて創立をされまして其の後大正8年の1月に日本建築協會と改稱され、更に大正15年に社團法人となつたのであります。それ以來年々盛大になりまして、其の會員は遠くは朝鮮、滿洲、臺灣、支那に亘り、其の總數は1,300名以上に達して居ります。而して今日まで15年を經過いたしまして、茲に創立滿15年記念祝賀會を擧げるやうになりましたのは、偏に皆様方の御同情と御後援に依りますことゝ本會の深く感謝する處であります。

本會の目的は、建築に關する有らゆる事項に付きまして理論と實際に則し國家社會の爲に貢獻せんとするに在りますが、其の點に於ても着々と成功してゐることを確信するものであります。卽ち常に建築界の先驅となりまして、相當社會に於て活躍してゐるのでありますが、其の仕事と致しましては、先づ「建築と社會」と名づける月刊雜誌を發行いたしまして、其の部數も176に達して居ります。其の他建築に關する圖書等も10數種を發刊し



て居りまして、相當に世の中に役立つてゐることゝ思ふのでございます。尙ほ其の上に或は都市計畫、或は特別或は敎化、或は資料、或は災害防止、或は設備或は住宅と云ふやうな色々の委員會を設けまして、種々の問題に付て研究を致し、且つ又其の意見を發表して居ります。既に皆樣も御存じの通り都市計畫法或は建築法規と云ふやうなものゝ成立に付ても本會は相當に盡力を致したのでありまして其の點に於ても社會に貢献をしてゐることを信ずるのであります。

斯樣にして本會は大いに活動しつゝ15年を經過いたしました。人間は生れて15になりますと、最早子供ではなく、男子所謂元服をすると云ふやうな時代であります。建築協會も亦茲に子供の時代を送つて、元服を致し、一人前の男子として世の中に一段の活躍をすると云ふ風な時期に向つてゐることを確信するのであります。飜て見るに今や社會の問題は、勞働、失業救濟等の大問題、又都市計畫或は都市の防備等も色々ありまして、それ等を適當に解決して行かなければならぬ非常時が來てゐるのでございます。且又昨今は頻に自力更生が唱へられて居ります。斯くて建築協會も亦茲に大に鑑みる點がございます。そこで此の15年の記念祝賀を機會に或は住宅博覽會、住み良い家の展覽會を開催いたし或は住宅設計圖案の懸賞募集をなし、又は建築に關する巡回講演會等を開き、其進歩改善を促し或は主要なる建築物の見學を致して尙更に研鑽を重ねると云ふやうな方法を講ずるのであります。今日の此の講演會もその祝賀事業の一つとして且又世間に貢献をしやうと云ふ考から開いたのに外ならぬのであります。

幸に講師の方々は關西に於てのみならず日本に於ける最も權威ある人々を網羅したのでありまして、其の演題も或は社會問題あり、勞働問題あり、或は住居に關する問題あり、都市建築の改造問題あり、或は社寺建築と思想に關する問題あり、それ等の點に付て各講師の方々が平生研究をされ或は御經驗をなされてゐる所の蘊蓄を茲に御披瀝下さることを私共は豫め感謝すると同時に皆樣の御靜聽を願ふ次第でございます。唯時間が十分にありませぬ爲に、誠にお氣の毒でありますが、講師の方々も凡そ30分位と云ふ程度を以て時間の制限を御願致したことをお詫び致しますると同時に、稍々徹底しない點がありますれば是は協會が甚だ悪いのでありまして、聽衆の方々にもお詫び申す次第でありますが皆樣も何卒其のお積りで御聽きを願ひたいのでございます。

簡單ながら之を以て開會の辭と致します。（拍手）

# 都市建築改造の急務



前大阪市建築課長
工　學　士
波　江　悌　夫

私は都市建築改造の急務と題してお話をしたいと存じます。都市建築の改造問題は我建築協會が大正6年以來今日まで約十有五年の間常に叫んで居る事柄でありまして、既に此の公會堂に於きましても 2—3 回此の問題に付ては片岡會長を首め當協會の有力者に依つてそれぞれ有益なる御講演もあつた筈であります。然るに尚ほ今日此の問題に付て此の演壇で皆様にお話を致しますに付ては、まだまだ此の問題に付てお話をしなければならぬ事情があるものと信ずるからであります。殊に最近時勢の變遷から各種の新しい都市の問題が起つて參りました。私共が大正6年頃から叫んで居りました都市建築改造の問題は主として都市の火災並に都市を襲ふ所の地震に對してゞありまして、之を引括めて震火災と申して居りますが、都市の火災と地震とは無論別であります。此の都市を襲ふ災害として最も恐るべき大なる影響を及す所の火災と地震の問題に付て之に一般の注意を喚起し、又當局者に建議書を提出したり、種々運動をして來たのでありますが、今日は此の都市を襲ふ災害に付て更にもう少し餘分の問題を考へなければならぬ場合になつて來たのであります即ち從來は都市に内亂が起るとか都市を襲ふ所の外敵があるなどゝ云ふことは餘り考へなかつたのであります。併し所謂非常時内閣の下に在る今日の非常時に於ては我國の都市も亦外敵の襲來或は戰爭と云ふことを考慮に入れなければならぬ勢に差迫つて參りました。諺に治にゐて亂を忘れずと云ふことがありますが、火事や地震に對しても我々は治にゐて亂を忘れざる意味に於て常に都市の火災及び地震と云ふことに付て當局者並に各方面の有力者に說いてゐたのであります。殊に大正12年の關東大震災の前年片岡會長は東京市の當局者に向つて、都市を襲ふ所の地震、都市に大なる災害を齎す所の火災なるものは過去に於て幾多の例がある。從つて東京市にも今後如何なる大災害が起つて來るかも知れないか

ら平時より之に對する用意をして置かなければならぬと云ふ建議案を出されたことがあつたのであります。所が此の言が讖をなしまして、翌年あの大きな災害が起つたのであります。又本協會は大正6年以來都市計畫運動を起しまして、日本の現在の都市は都市になつて居らぬ、而も德川時代にはまだ都市と云ふものに付て考へて居つたが、明治になつてからは都市と云ふものに付て考へて居らない、是は甚だ遺憾なことであるから、何とか都市全體のことを考慮して欲しいと云ふ見地の下に種々努力をしたのでありますが、是は幸に其の當時の政府當局者に賢名な方が居られ、殊に後藤內務大臣の如きは最も力を致されまして、內務省でも此の都市計畫問題に考慮を拂ふことになり、遂に今日諸君の御承知の如き都市計畫法案及び市街地建築物法案と云ふ二大法案が當時の議會を通過し、市街地建物の取締が實施され、又都市の改造がどんどん行はれるやうになつたのであります。所が今日の都市計畫の狀況を見ますと、どちらかと云ひますれば、都市の基礎工事（無論最も重要なことではありますが）にのみ金を注ぎ込んで、本當の都市計畫である都市の上部を改造する仕事は非常に後れてゐるのであります。即ち言葉を換へて申しますと、政府の當局內務省の方々を首め、各市の當路者は主として土木工事に力を入れて、建築工事に力を入れて居らぬと云ふ現象を呈して居るのであります。現に今日內務省に於て失業救濟事業を起されましても、それは主に土木の仕事でありまして、建築方面の仕事ではないのであります。最近此の問題に付て建築界の人達が政府の當局者に對して市街の建築を失業救濟の意味に於てやつて欲しいと云ふことを申込まれ、當局者も稍々動いたやうでありますが、今日まで都市計畫の仕事が主として土木方面に力を入れられて、建築の方面は一向顧みられてゐないことは甚だ遺憾な次第であります。

外國では伊太利を除いては大した地震はありませぬ。日本の如きは世界でも特別な地震國でありまして、外國には地震の災害を受ける都市は餘りありませぬが、併し火災はお多分に漏れず、それぞれ大きな火災を見て居るのでありまして、何れも早くより其の改造をやつて居ります。現に英、佛、獨あたりの有數な都市は既に300年前から所謂都市の改造をやつて居りますから、今日は都市として非常に立派な形が出來てゐるのであります。今年片岡會長はゼネバの勞働會議に臨まれた序に、歐米の各都市を廻つて來られたのでありますが、歐羅巴の都市は何れも殆ど19世紀文明が產んだ都市であつて、今日は一向仕事らしい仕事はして居らぬ、アメリカに於ては過去10年間に隨分大きな仕事をしてゐるが、今日では不況の爲に全く仕事が無くなつた 此の點に於ては我國の建築界は非常に仕合せだ、何故ならば、都市の建物は殆ど皆木造であつて、今改造中であるから、自分の出て行く時も歸つて來た時も建築工事はなかなか盛であるが、是は外國の都市に於ては見られない現象であると云つて居られるのでありまして、即ち我國は目下都市改造の實施中であり、民間の有力な會社、銀行の建物其の他住宅建築の如きも改造期に入つて、着々仕事をして居りますが、私は唯政府の當局其の他當路の有力者が尙ほ一段と都市に於ける建築と云ふも

のゝ重要性を確認せられ、是が改造に一層の力を致されんことを希望して止まないのであります。何故かと云ひますと、今日都市に於ける耐震耐火構造の建築は、非常時に際しては恰度昔の鎭守の森や寺院のやうな用を爲すのであります。小學校の建築の如きは大正年間から今日まで段々耐火構造になりつゝありますが、まだ全部完成して居りませぬ。唯東京に於ては國庫の金を注ぎ込んだ爲に、僅か10年内外で以て殆ど皆鐵筋コンクリートに改造されましたが、大阪はまだ半數にも及ばないのであります。是等の學校建築が耐火構造になりますれば、非常時には必ず是が救濟の策源地になります。又貴重品を預つて居る銀行の保護金庫の如きも非常に用をなすのでありますが、美術館の如き、東京市では火災の爲に掛替の無いやうなものを燒いてしまつたのに懲りて、金を借りて今5,000,000圓の建築を起して居りますが、我大阪市はどうかと云ふと、僅か1,000,000圓の美術館もまだ財源の行惱みの爲に改造の時期に達しないのであります。是等の事業は決して不急の事業にあらずして、一朝事ある場合に都市に於ける最も貴重なものを其處に保管することが出來るのであります。其の他都市の公共建築として工業館、或は貿易館、或は産業館と云ふやうなものはどうしても防火耐震構造の大きな建物にして非常時の用意を怠つてはならないのであります。又今日大阪市の建築を見ますと、成程表側の商業建築は段々改造され、或は銀行會社の建物やビルデイングのやうな建物は改造されつゝありますが、一度び住宅方面に目を注いで見ますと、何等改造の域に達して居らないのであります。政府は内務省をして全國の都市の研究をやると同時に、六大都市に於ける不良地區の住宅改善事業を6箇年に亘つて指導せしめて居りますが、不良地區と云ふと、病氣の發生の多い非衛生的な地點で、一度びコレラが流行して來るとかペストが流行すると云ふやうなことが起ると、直ぐ病氣が蔓延すると云ふやうな地區を云ふのでありまして、現に我大阪市では南の方面に於ける3箇所の地區に對して住宅の改造を實施して居りますが、更に眼を廣く放つて一般の住宅建築を見ますと、我國の都市の住宅は必ずしも完全な住宅とは思はれないのであります。殊に所謂不良地區の住宅と不良地區でない所の住宅を比べて見ましても、果して何れが不良かと思はれるやうな所も澤山在るのであります。是等はどうしても將來國庫の金を以てするなり、或は其の他の方法で是非改造をして行かなければ都市らしい都市が出來ないのであります。英國の如きは既に1919年頃から都市の住宅問題は國家の問題となりまして歷代の内閣が是が爲に苦んだのであります。又現伊太利政府の如きも此の住宅問題を其の政策の重要事項の一つとして居りますが、獨逸の如きも先年來住宅問題に付て最も考慮を拂つて居りますし、佛蘭西の如きも此の問題に付ては非常に惱んで居つたやうな次第であります。然るに我國に於てはまだ住宅問題が本當に深刻なる所まで行つて居りませぬ爲に今日猶ほ舊態を存してゐるのでないかと思ふのでありますが、若し今日都市の住宅の改造をなさずんば、今に大阪市の中に住んで居る人は皆郊外に逃げてしまつて、夜の大阪は非常に寂寥たる都市になるのでないかと思ふのであります。仍ちどうしても市の當局者なり

市の有力者が此の大阪市の住居問題に付て、言葉を換へて言へば、貧家長屋其の他の大阪市内に在ります住宅を改造して、之を耐震耐火の永久的建築にすることに努力しなければ一度び何か事が起つた時には必ず大なる災害を受けるのであります。

大阪市で年々の火災を調べて居りますし、又府の消防課に於ても之を調べて居られますが、まだ大きな火災にならない小火或は 2—3 軒焼けたと云ふやうな火災を調べますと、1 年に於ける火災數は非常なものであります、而も其の小さな火事が一度び大風に會つた場合には明治 42 年の北の大火のやうに直ぐ大きな火事になつてしまひますし、或は西風に煽られますと、南の大火のやうになつてしまひます。幸に本當のものではありませぬが、準耐火構造の建物が殖えましたので、府の消防課でも非常に消防の仕事がやりよくなつたと云ふて居られます。又事實今日は消防課の努力やポンプ其の他の附帶設備の充實、並に都市計畫に伴ふ道路の改善等の爲に火災は大事にならずに濟んで居りまして、大正年間は火事らしい火事は無かつたのでありますが、今後はどうであるか、何が起るか分らない、現に關東の大地震以來、次は關西に大地震がありはしないかと地震學者も心配し、我々もそれを心配したのでありますが、是はまだ何時あるか分らない、過去に 2 度大きな地震が大阪を襲ふて居ります。即ち安政元年と寶永 4 年の大地震でありますが、此の二つの大地震の例を見ましても、大阪は可なりの損害を受けるのであります。唯不思議なことには、關東で大地震がありますと、直ぐ火事になるのでありますが、大阪では此の二つの大地震の時に火事が無かつた。是は火事は江戸の花と云ひますから、東京では地震があつたら、火事の方もやらなければ氣が濟まないのかも知れませぬが、兎角大阪は從來不思議に大地震の時に火事が無かつた、それは一つは災害に對する大阪市民の用意が宜かつたからであります。其の當時の大阪の町の樣子を調べて見ましても、今市の當局者などが特別市制問題に付て頻に骨折つて居られますが、大阪は昔から特別市制でありまして、大阪の當局者としては城代と云ふものがありましたが、其の城代などが如何にして焼けない家を拵えるかと云ふことに付て隨分當時の智慧を搾つて苦勞をして居ります。のみならず、何處の家へ行つても非常時の用意がしてあつて、提灯も一寸何處かへ挿されるやうに出來たものがあり、鋸、刺股、槍と云ふやうなものも必ず鴨居に掛かつてゐたし、物を運び出す道具などもチヤンと揃つてゐた。即ち大阪も江戸に負けない位の火事があつた爲に、さう云ふ色々な用意が出來てゐた譯でありますが、建物の如きも其の當時の智慧だけの焼けない土藏造の建築も相當に出來て居り、大體に於て大阪の建築は關東の建築に比して可なり金を掛けた建築が出來上つて居りました。さう云ふ關係もあり、又其の當時の大阪の地盤は地震に對して東京のそれより良かつたと云ふやうなことにも依るのでないかと思ひますが、併し今日の大阪は其の當時大阪三郷と云つた天滿、南、北の地域よりは殆ど 10 倍以上の地域になつて居りまして、新しく出來た町の地盤は餘り良くないし、又新開地の建築も餘り良いものは出來て居りませぬ。さう云ふ風な町に若し一朝非常事が起つた場合は其の災害

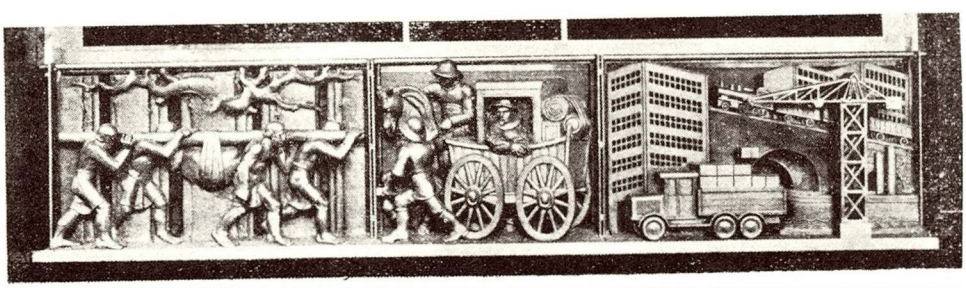
たるや測るべからざるものがあると思ふのであります。

そこで私は非常時のことを更に考へて見たいと思ふのでありますが、唯今の上海事變の活動寫眞を見ても、洵に其の慘憺たる狀況が偲ばれるのであります。誰も上海のやうな世界各國の人が集つて、都市生活の幸福を味つてゐる世界の自由都市に於てあゝ云ふ災害が起るとは夢にも想つてゐなかつたらうと思ひます。所が世の中と云ふものはさう簡單には行かないで、世界でも有名な自由都市があの災害を受けたのであります。即ちあの木造建築の櫛比した町が一度び爆彈の見舞を受け、砲彈の見舞を受けると、關東の大震災以上の災害を被むるのであります。支那では洵にお氣の毒なことには最近殆ど戰爭の無い年は無い位でありますが、先年北京を中心にした有名な奉直戰がありました時に、北京の建築の地下室が非常に好い値で賣れた、何故かと云ふと、張作霖の軍から飛行機が飛んで來て爆彈を投じたので、地下室の値が出たのだと云ふことを聞いて居りますが、それは獨り奉直戰爭の場合に限らないと思ひます。戰爭の場合には地震などの時と違ひまして、人は皆家の中に引籠り、而も上の方は危いから、どうしても地下室に這入らうと云ふことになるのであります。世界大戰の當時倫敦がツエツペリンの爆彈を受けて、耐火構造の 5—6 階の家が先程の寫眞にありましたやうな、損害を受けたのでありますが、其の時ツエツペリンの投じた爆彈の數が大阪の 1 年間に於ける出火率の 3 倍位になつて居ります。大阪は夏になりますと、能く雷が落ちますが、雷の落ちるやうな時は地震の場合とは違つて、大抵家の中に引込んで居りますが、あの雷が大阪の 1 年の出火率の 3 倍位都市を襲ふたとしますとマア一晩にそんなに雷が落ちる譯はありませぬが、市民はどうしますか、無論不安の念に堪えないことでありませう。若し其の際都市の建物が燒けないものであつたならば、まだ幾らか安心が出來るのであります。それで倫敦の市民はどうしたかと云ひますと、屋上に土嚢を列べ、其の上にワイヤーを張つて之を防いだと云ふことを聞いて居ります。是も一時的の方便でありますが、詰りワイヤーに爆彈が中つて破裂すると、それを土嚢が輕く受ける、さうすれば損傷は比較的輕少な譯であります。又佛蘭西の如きも歷史的に有名な寺院に橫暴な獨逸の飛行機が爆彈を落すことを非常に心配しまして、是亦土嚢で殆ど全部其の貴重な寺院を包んでしまつて、之を防いだと云ふことでありますが、是等の燒けない建築ですら猶且是だけの用意をしなければならぬのでありまして、況して燒ける可能性の多い都市であつたならば、斯かる非常時に當つては洵に心配に堪えない譯であります。

御承知でありませうが、幕末の我國の狀態は恰度今の支那の狀態と同樣でありまして、嘉永 6 年にペルリが押掛けて來た時分の江戶の騷ぎと云ふものは、御年寄の方に聽いて見ると、能く分りますが、それは實に見られたものではなかつたのであります。ペルリは今日でこそ日本の國民に感謝されて居りますが、其の當時彼は海軍中將として軍艦 4 隻を率ひ、琉球那覇や小笠原島を占領して貯炭所を設け、戰爭をする積りでやつて來たので、空砲を放つたりして脅かしたのでありまして、全く無防備の江戶の町は實に上を下への大騷

ぎでありました。其の後日本の當局者が眼を醒して海陸軍、殊に海軍に力を入れたのは其の御蔭であります。又文久2年鹿兒島の島津久光公が江戸から國へ歸る途中、生麥で警固の藩士がイギリス人3名を斬りまして、其1人が死にました處、翌年の文久3年の7月にイギリスの艦隊が7隻鹿兒島に乘込んで來て戰爭をやりましたが、其の時は鹿兒島の方でも用意をしてゐて、大砲も出來て居れば、砲台も 12—13 箇所出來て居りましたし、久光公の前の名主齊彬公がイツ何時どんなことがあるか分らぬから、建築物は成るだけ低くして置けと云ふ方針で、大體家が低かつた爲に、災害は比較的少かつたのでありますが、其の時イギリスの艦隊が戰爭を始めると同時に擊ち込んだ大砲の爲に火災が起りました。當時今の東鄕さんが16歲で戰爭に參加されましたが、向ふから飛んで來る尖り彈の威力がなかなか猛烈で、此の艦隊をブツ潰すのには、日本も艦隊を造らなければいかぬと云ふことを痛切に感ぜられたと聞いて居ります。又文久3年の翌年元治元年には下關が英、米、佛、蘭4ケ國の軍艦の砲擊を受けました。此の時は無論日本が惡かつたのでありまして、即ち攘夷と云ふ譯で、外國人とあれば、やつてしまへと云ふので、下關の海岸を通る外國船へ砲擊しました結果、イギリス、フランス、アメリカ、オランダの4ケ國の艦隊が17隻赤間關へ入つて來まして、陸上砲臺と戰爭をしたのでありますが、1日戰つて、陸戰隊に上陸され、砲臺を奪られて、結局60何門の大砲を分捕られ、それは今に戰利品として分配しフランスの巴里にも博物館前に陳列されてあるさうであります。唯此の時は下關の町を擊たなかつたのでありますが、若し市街を攻擊したならば、下關は1日にして燒けてしまつたのであります。

斯う云ふ風なことが今日あるとは考へられないのでありますが、併し若し卒ざ戰爭となりますと、イツ何時飛行機が飛んで來ぬとも限らない、現に大阪市は百何萬圓の金を集めて非常時の武器を買はれたのでありますが、併し此の武器が役に立つ時は大變な時であります。それより以前に當局者はそれぞれ適切な處置を執られるでありませうが、其の際若し燒けない家の都市であつたならば、我々は一層仕合せな狀態に置かれるのでないかと思ひます。此の意味に於て私は今日都市改造の急務を高唱したいのであります。（拍手）



# 住居問題の將來



日本建築協會住宅委員長
工　學　士
葛　野　壯　一　郎

時間が少いやうでありますから、ホンの心づきました二三の所感を申上げることに致します。

我々は今日の場合もう一度初から總てのことを考へ直す必要がありはしないか、即ち私共の衣食住に付て果して何が本當に必要であり、何が無駄であるか、必要なものと無駄なものをハツキリ吟味いたしまして、必要なものは出來るだけ之を充實し、無駄なものは容赦なく之を取除かなければならない時代でないかと思ひます。

現在の住居建築の要素と致しましては、申上げるまでもなく、家の大きさ、廣さ、形、及び其の家の部分々々の機能を研究し、之に人間と云ふ尺度を當てゝ、最も合理的な又最も經濟的な家をば造り上げることであらうと思ひます。即ち我々は建築全體のことは勿論各部分の隅々まで細かく愼重に研究して、一個の家をば組織すべきであらうと思ひますが併し人間は單なる機械的生物ではないのでありますから、矢張り我々の精神生活に滿足を得ることが必要でありまして、唯單純な機械的考慮のみで住宅建築の解決は付かないのであります。

私共の生活をば横の線と縦の線に分けて見れば、横の線には我々の衣食住の生活があり縦の線には我々の精神的な生活があります。此の衣食住と精神生活の兩方が程好く調節されてゐる所に我々の本當の生活が在るのでありまして、住宅建築の上にも矢張り此の邊の考慮が中心とならなければならぬと思ひます。斯様にして建てられた住宅に於て營まれる生活は朗にして簡便であり、而して自然的な人生の發展が其處に行はれることであらうと思ひます。

元來人間の生活程複雜なものはないのであります。最初は一人としての生活で、所謂部

屋住の生活、下宿生活の時代であつて、一つの部屋があれば、大體用が足りる。それが結婚をすると、そこに新婚の甘い生活が始り、子供が出來る、それも一人ならば、可いが、どんどん殖えて來て、家族と云ふものが出來、段々生活が複雜になる。而も日本のやうな所謂家族主義の國では唯夫婦に子供と云つたやうな簡單な譯にはいかない。兩親の在る場合もあれば、又兄弟とか、更に從兄弟とか何とか色々家族として特殊な關係の人も出來て來て、それ等の人々が皆それぞれの慾望を有つて個々に生活を始め、或は旅行をする場合もあれば、病氣をする場合もあり、又子供が大きくなれば、學校にも通はせると云ふことになり、或は又日曜祭日には寄席や芝居の見物にも行き、郊外にも遊びに出る。斯う云ふ色々な生活樣式を執る者が一所に暮す譯にはいかない、それぞれ別々の仕組の所に一つ一つの家を構へて暮さうと云ふのでありますから、それ等に對する家なるものは非常に複雜な樣式を生む譯であります。又旅行をする爲には宿屋が要り、子供を敎育する爲には學校が要り、病人の爲には病院が要り、或は又色々な娛樂場も要る、斯樣な建築物は之を住宅建築から切離して、公共建築物として別に取扱つて居りますが、私共の考から云へば、是亦住宅建築の一つの延長であらうと思ひます。例へば旅館にしても、旅舘で寢る其の室が自分の家の寢室の延長のやうでありたい、どうも日本に出來るホテルなるものが兎角繁昌しないと云ふことを聞きますが、それは矢張り一般の日本人の生活習慣と日本に出來るホテルの習慣が違つてゐると云ふやうなことが私は一つの原因でないかと考へて居ります、兎に角さう云つた色々の附隨したものが矢張り住宅と密接な關係を有つて相關聯して發達して行かなければならぬ譯でありますし、住宅と致しましても、大邸宅もあれば、中流の住宅もあり、或は小住宅もあつて、最近建築協會で主催して居ります綠ケ丘や大美野の住宅博覽會に出てゐるやうな極く手頃な住宅も必要であれば、又斯樣な都市になると、長屋建の住宅も必要であり、或はアパートメントのやうなものも段々要求されるやうになり、或は別莊も要ると云ふ譯で、建築の形成はスタイルと云ふやうなものも我々の生活樣式が種々複雜な爲に又樣々な種別が住宅建築の上に現れて來る譯であります。故に一口に住宅と申しましても、其の內容は非常に種別が多い譯であります。而も斯樣な生活樣式から來る種別が多いだけでなく、更に困るのは、此の世の中には不幸なことであるが、非常に貧富の差があつて、それに依つて又自から其の人々の住宅に對する慾求がそれぞれ違つて來る。即ち延坪 100 坪とか 150 坪と云つた樣な大きな住宅でも猶且狹しと感じてゐるやうな方が一方にあるかと思へば、其の反對には漸く 10 坪に足りないやうな小さな住宅で十分滿足してゐるやうな人もある譯でありまして、此の貧富の相違と云ふことが更に色々住宅の種別に色づけをしてゐると云つたやうなことが住宅の實際であります。

斯樣なものを一々研究して行きます上に於て、現代として其處に何か住宅の基準として最も共通性のものをば發見しなければならぬ。それは平たく申上げれば、大きなものでも小さなものでも努めて簡單にして便利なものにしやうと云ふことが、今日の住宅建築の上

に於ける最も普遍的な一つの考でないかと思ふのであります。而して此の住宅建築の努めて簡便にならうとする傾向に對して最も有力な材料となるものは住宅建築の上に於ける新しい建築材料の進出であります。即ち鐵とかコンクリートとか硝子とか云ふ色々な新しい建築材料が住宅建築の上にも其の他の公共建築に於けると同じやうに段々進出して參りまして、住宅の形なり樣式なり又其の內容等にも色々な變化を與へつつあるやうな狀況であります　殊に鐵筋コンクリートの住宅構造の上に及す影響は非常に大きなものがあり、殆ど革命的に住宅の模樣を變へてゐるかの如く考へられるのであります。

今日我國ではまだ住宅建築としては、其の手輕さ、或は値段が安くて、速く出來ると云ふやうな、色々の理由の下に、先づ木造建築を以て原則として居りますが、先刻も波江氏が話されましたやうに、少くとも大阪の如き大都市或は其の附近に於ける住宅としては、殊に密集せる住宅區域に於ける住宅としてはどうしても不燃質構造でなければならぬと思ひます。即ち住宅建築も矢張り他の公共建築と同樣是非とも耐震耐火と云ふ立場から其の材料構造等も選擇されるべき筈だと考へるのであります。鐵筋コンクリートの住宅建築の上に及ぼしてゐる影響の最も著しい點は、從來の木造或は煉瓦造と云つたやうなものに比べて、壁其のものの取扱が非常に自由になつたと云ふことであります。即ち專ら柱で總てのロードを持たせる關係上、壁は單に仕切に過ぎない、隨つて窓をどんな恰好にでも思ふやうに自由に設けられるし、床が一枚の板になつてゐる關係上、1階と2階或は3階と云つたやうな各層に於ける間取が極めて自由であつて、下に五つの仕切を取り、上には七つの仕切を取ることも出來れば、圓くも四角くもそれぞれ思ふやうに仕切ることが出來る。又コンクリート建築は箱のやうなものになり、自然平屋根になる關係上、屋上の利用と云ふやうなことが住宅建築の上に一つの新しいフイチユアを現す譯であります。從來我々は構造に支配されて、非常に間取の不自由を感じてゐたものでありますが、鐵筋コンクリートに依る新しい構造の住宅では間取に對して非常な自由さがあるのでありまして、是が新しい住宅建築の上に於ける最も特異な點であらうと思ひます。然るに出來るだけ狹い面積に出來るだけ有効な間取を造らうと云ふことは一般の住宅として殊に大切なことでありますから、其の點に於て間取が合理的に思ふが儘に出來ると云ふことは最も都合が好い譯であります。

都會に於ける居住者の大部分は矢張り借家住ゐをして居る人々でありますから、それ等の人々は出來るだけ安い家賃に於て出來るだけ廣い有効な家を必要とするのであつて、無駄があつてはならない、其の無駄をば省く上に於て又鐵筋コンクリート構造は非常に便宜を與へる譯であります。而して都會の生活は益々我々をして疲れしめ、或は神經を傷める傾向があると云ふことは何れの國に於ても共通した都會生活の一つの現れでありまして、都會の居住者は切めて自分の家の中だけでも少し落つけることが必要であります。而も多數の人の家と云ふものは到底落ついた氣持になれる程ゆつくりしたものは與へられない現

狀でありますから、之を特殊の考案、特殊の構造の本に改良することが必要であつて、其の改良法としても鐵筋コンクリート構造に依れば大體それ等の問題が解決し得ることであらうと思ひます。

又住宅建築の最も新しい傾向の一つとしては、家具を建築と同時に或は建築の一部分として考へることであらうと思ひます。必要な場所に必要な家具を置くと云ふことは從來より考へられたことでありますが、或は衣裳棚、或は食器棚、或は書籍棚、其の他色々な家具類をば、どつちかと云へば建築と切離して考へられ、又それ等のものをば考へる一つの專門家もあると云ふ譯であります。併しながら前述の如く一つの容積をば出來るだけ有効に使ひ、最少限度の廣さの所を最大の能率的に利用しやうと云ふのには、出來るだけ無駄なものを省き、本當に必要なものをば、必要な場所に置くやうにしなければならぬのであつて、それには矢張り家具のことも建築と同時に建築者が考案し、又建物の一部としてそれを造り上ぐべきものであると云ふことが今日最も合理的な考として行はれてゐるやうであります。現に私共が住宅を造り上げましても、日本風の住宅であれば、出來上つてから箪笥の置場が無いと云ふやうなことがあつたり、或は西洋風の普請をしても、それぞれの道具の始末に困ると云ふやうなことが隨分ありますが、此の家と家具と云ふものは言ふまでもなく離すことの出來ないものでありますから、其の間に出來るだけソツの無いやうに適當に按排することが必要であります。又家具と云ふものは澤山あれば、十分の用をなして可いやうなものでありますが、實際はあり過ぎても困るものであります。私は常に感じることでありますが、日本風の住宅では押入と云ふものが非常に重寶がられるやうであります、所が其の押入が多い爲に家の中が却て不整理に了つて居ると云ふ例が洵に多いと思ひます。何でも彼でも無駄なものは皆押入へ叩き込んでしまつて、それを整理することを忘れ、實に種々様々なものが押込められてゐるのが普通であります。即ち日本の在來の家で最も大なる缺點は、必要なるものを入れる必要な戸棚を缺いてゐることで、唯單純な押入と云ふものがあつて、何でも彼でも其處へ押籠めて置くと云ふのが一般の習慣であります。尤も此の傾向は日本だけではなく、外國に於ても物入や戸棚が澤山あるのは家として非常に重寶なものであると考へてゐる人が多數あるやうであります。併し餘分なものは要らないのでありまして、殊に今日は要らないものを持ち得る程裕な時代ではなく、本當に必要なものだけで暮さなければならぬ時だと思ひます。從つて本當に必要な家で、本當に必要な家具が必要な場所に置かれるやうに考へなければならぬ。それは恰度人と同じことで、幾ら才能の優れた立派な人でありましても、其の人が本當に適當な位置に置かれない限りは十分其の用をなし得ない、此の世の中には隨分立派な才能を有ちながら無意味に死んで行く人が可なりあるだらうと想像いたしますが、住宅の中に於ける家具も本當に必要なものが必要な場所に在ると云ふことが最も緊要なことであつて、それ以上に餘分なものを置く必要は無いのであります、所が日本風の小住宅でも今日は洋室の一つ位設けられる

のが普通でありますが、入つて見ると、多くは椅子やテーブルで一ぱいになつてゐて、辛うじて其の間を身を交して通ると云ふやうな現狀でありますが、それでは家具が部屋を邪魔してゐるやうなものであります。前述の通り、住宅としては自分の部屋の眞中に坐つて暢びりした氣持で落つけると云ふのが最も必要なことでありますが、さう云ふ意味に於ても家具の整備は常に住宅建築と同時に考へなければならぬ最も大切な問題であらうと思ひます。

更に住宅建築の上に於て近頃最も喧しく宣傳され、又必要なりと目されてゐるものは御承知の集合住宅であります。而も今日我國に於ては現に此の大阪市の如きもホンの見本的なものが二三出來てゐるだけで、また一向それらしい建築は出來上つて居らぬ譯でありますが、是は早晩どうしても發達しなければならぬ一つの住宅樣式であらうと思ひます。極く小さな面積より用ひることの出來ない土地の上に平屋や2階家のやうなものがミツシリ櫛比してゐると云ふやうなことは、どう考へて見ても決して健全なやり方ではありませぬ。之を立體的に組み上げて、適當なる空地を設け、又震災や火災に對しても安全なやうな構造の下に、安心して住み得るやうに是非造り換へなければならぬのであつて、此の集合住宅の建築と云ふものが段々各方面の人に依つて注意されるやうになり、又若い建築家諸君の最近の興味の中心が段々さう云ふ方面に向つて行つてゐることは非常に結構なことゝして私は慶ばしく感じてゐる譯であります。大體に於て私共が今までに取扱つた經驗から申上げても、大多數の人が負擔し得る費用の範圍内で最も氣に入つた愉快な家を造ると云ふことは、今日の場合先づ不可能でありまして、集合住宅の發達しないのも其の點であらうと考へます。平たく言へばコンクリート造で丈夫な立派な家を拵へても、普通の長屋建やそれに類似した家で拂はれるやうな家賃の範圍内ではどうも經營者として算盤が持てない矢張り坪50圓とか70圓とか云ふ安い値段で長屋のやうなものを建てた方が遙に利益が多い、さう云ふ譯で、個人或は營利團體の營利事業としての住宅建築はどうしても今言つたやうな樣式のものになるのでありまして、是は日本だけではなく、歐米各國に於ても同樣であります。是等のことは是非何とか適當な方法に依つて一日も早く解決をつけられなければならぬ大事な問題であると考へますが、今日猶ほ斯うすれば可からうと云ふ適當な解決案が考へられないやうであります。又我國の都市の經營者或は行政官などの頭の中にはさう云ふことの必要なことすら考へられてゐないやうでありますが、是は一般都市の生活者の爲め非常に不幸なことでありまして、是非此の方面の計畫があつて欲しいと思ふのであります。

人間と生れて此の地上に生活する限りは、誰しも平等に新鮮な空氣を樂み、又溫き日光に浴する權利とも申すべきものがある譯であります、所が不幸にして多數の人達は綾り日にも當ることは出來ないで、塵埃だらけの汚れた空氣の中に洵に不健全な生活をしなければならぬ、其の住宅の敷地としてはホンの猫の額のやうな狹いじめじめした不衛生極まる

土地より與へられないと云ふ譯であります。是はどちらから考へて見ても、一日も早く何等かの方法で修正されなければならぬ最も大きな問題だと思ひます。此の點は我々技術者として、それをどう云ふ風にどう云ふものに造り上げ、又どう云ふ風にすれば所期のものが成立ち、さう云ふ計畫が實施されるか技術的方面からも研究すると共に、又社會の有識者がそれを實現することに努力されるやう矢張り建築家の立場から追々社會に對して交渉しますことが今後の住宅問題の解決上最も必要な問題であらうと思ひます。

古來衣食足つて禮節を知ると云ふことが云はれて居りますが、矢張り家らしい家に住んでこそ初て人間らしい心が起るのだと考へます。「あばら屋なれども平治が住家」と云ふ古い文句がありますが、どんな家でも自分の家でなければ落つきませぬ。立派な家の奥座敷で立派な御馳走を食べるのも結構でありますが、自分の家でなければ落つきませぬ、煎餅蒲團に包まり、お茶漬を食つてゐても、自分の家程好いものはありませぬ。それが今よりもつと立派な完全な家に住むことが出來るやうになつたならば、一層落つく心持も深い譯でありまして、是非さう云ふ風にしたいものだと思ひます。此の意味に於て本當に世の中の總ての人が幸福を味ひ得るには住居の整理と云ふものが最も重要な役目を有つてゐると云ふことに御留意願ひまして、今後とも御研究を進めて戴きたいと考へる次第であります。

甚だ簡單でありますが、是で御免を蒙ります。（拍手）

---



**獨逸・伯林・シエルハウス**　　設計　エミール・フアーレンカンプ氏

# 滿洲の土木建築の將來



社團法人滿洲建築協會派遣員

石田茂

此度御當地の日本建築協會の創立滿15年に當りまして、幾日間かに亘つて大會が催されるといふことで、滿洲からも誰か派出まして、具さに各種の催しを拜見し、又その日頃の御事業の實際を視察し度いといふので、今回私が勉強の爲に御伺ひ申上げることになりまして、其の旨豫め御通知申上ましたところ圖らずも斯ういふ大講演會の席上に於て、何か滿洲の建築土木の將來に就いて講演をする樣との御要求を受けたのでありますが、此の問題は時節柄、滿洲の建築及び土木の將來はどう云ふ樣な見込かといふ極くあつさりした御質問であらうと心得まして、其の御質問に應へる爲にはどういふ風にお話し申上げたら可いか、勿論餘り長い時間の與へられやう筈もない場合でありますから、先づ鐵道のことに就いてお話を申上げますならば、鐵道は大體土木に屬するものであるかも知れませんが、同時に又建築のことも並行して進むものでありますから、從來の鐵道と現在及將來の鐵道計畫に就いてざつとお話を申上げることによつて、今後の滿洲土建界の狀態を略々見當を付けて戴くことが出來やうか知らんと、かう考へて先づ今回は鐵道のことを主にしてお話申上げて、私の責をふさぎ度いと思ふ次第であります。

現在滿洲に於ける既設の鐵道は、大小併せて20有餘線、其の粁程の總計は6,166粁でありまして、之を其の資本及經營の上より大別しますと、日本單獨のもの、又は日本借款、立替、或は日支合辨等のものが2,322粁、露支合辨でやつて居りますもの、即ち東支3線其他が1,790粁、支那自ら經營して居ります鐵道（即ち、政府自ら經營する所謂官辨のものを主にして其他借款的のものや、官民合辨のものなど其の內容、性質は復雜して居りますが）2,054粁であります。

而して此等の既設鐵道の外に、支那に於ては茲に掲げました地圖に依つて御覽になりま

す様に、第1幹線、第2幹線、第3幹線と稱する3大幹線を計畫いたしまして、之を繋ぐに更に蜘蛛の巢もたゞならざる程に細かく所謂鐵道網計畫を立てて居たのであります。即ち從來のポーツマス條約或は之に引續く日清滿洲善治協約、或は舊滿蒙5鐵道協約とか、それを更生した滿蒙の4鐵道協約、或は又最近の山本總裁が張作霖と締結しました新滿蒙5鐵道契約といふ様な諸協約に對して、支那は殆んど其の全部を違反して、窃かにかういふ驚くべき計畫を建て、而かも着々その實現を急いで、或は滿鐵線に對する並行線を敷設したり、借款契約に反して前渡金を踏倒したり、色々な難癖を付けて本契約を不締結の儘放置したり、或は又條約を無視して、全く獨斷專行的に各所に鐵道を敷設（日本屢時の抗議をも顧みずです）するといふ様な暴狀が引續いて來たのでありまして、從つて滿洲事變の勃發するまでに此の鐵道問題が多年に亘つて非常に紛糾してゐたことは改めて此處に申上げるまでもないことであります。

さういふ譯でありまして、こゝに此の太い赤線で表されて居ります幹線の狀態を御覽になりますと分ります様に、言ふまでもなく是は滿鐵線を壓迫しやう、之を有名無實の丸滅的のものにしやうといふのであります。若し此の鐵道が支那の計畫通りに遂行されますと無論大連の繁榮は胡蘆島の繁榮に移らざるを得ないのでありまして、滿鐵線の如きは全く有るも無いも同じやうな狀態になつて仕舞ふ譯であります。

乍併幸ひ今回の滿洲事件の勃發以來皇軍の機宜に適する大活躍によりまして、此の狀態、此の傾向と不安とが一轉換を致しまして、從來日本が日支間の種々なる條約及協約の下に於て獲得した鐵道其他に關する利權が次第に復活される見込が付いて來たのであります。而して此の事件に前後して我が國の當局、識者の間には早くも滿蒙に於ける鐵道網計畫に深甚の注意が拂はれる様になりましたが、私は今之を便宜上、第1期計畫、第2期計畫、第3期計畫と分けてお話し申上げ度いと思ひます。

第1期計畫線といふのは、北滿に於ける經濟上、交通上の大中心を哈爾賓と認めまして此の哈爾賓を最短距離を以て海港に結付け様とするのが其の主眼でありまして、即ち哈爾賓より此の五常を經て吉敦線上の一地點たる拉法といふ所に出て、吉敦線によつて敦化に到り、敦化より圖們江の北岸に達し、更に江を渡つて朝鮮地域の既設鐵道によつて雄基に到り、更に目下築港計畫進捗中の羅津港に出やうといふ計畫でありまして、拉賓線(260粁)敦圖線(190粁)及雄羅線の三つであります。更に第1期計畫の中に考へられてをりますのは哈爾賓以北に於て、此の齊克線の終端克山と、此の呼海線の北端海倫とを繋ぐ、海克線といはれてをりますものが180粁、今一つは此の間島地方の延吉より北行して、海林に至る延海線、延海線を更に北方へ延びて、松花江中流の依蘭に出る500粁の線(延海線は260粁であります）で之れは牡丹江の上流地方に於ける森林及びその下流の平野開拓に便する爲のものであります、更に今一つは長春より西北扶餘を經て此の太賚といふところに出る212粁の線でありまして、是は所謂山東5鐵道中の長太線といふのに略々一致するもので

あります。扶餘は北滿の舊都でありまして、現在人口 100,000 を有し、東支線以南に於て最も肥沃な農耕地を控え、且つ松花江の水運の便をも併せて將來有望の都市であります。以上の7線が大體第1期計畫の中に含まれるものでありまして、全長1,350粁であります、今假に1粁當りの工費100,000圓としますと總工費135,000,000圓、1年300粁宛建設することに致しますと今後5ケ年を要することになります。

第2期計畫上の第1は吉林と五常間を結ぶ160粁でありまして、是亦例の山東5鐵道中に含まれてゐたものであります。第2は此の新邱炭坑を奉山線に繋ぐ約100粁であります。第3は現在開原、西豐間に於ける開豐線といふのが輕便でありますから是をスタンダードゲーヂに改める計畫であります。第4は例の打通線で有名になりました通遼より開魯を經て林西に到る350粁、及び林西より赤峰を經て連山、胡芦島に出る600粁でありまして、其の總粁程は970粁であります。

以上は第1期、第2期の計畫でありまして、共に鐵道の本質上經濟的見地から立てられたものでありますが、是等の諸線の順次建設せられた場合其の國防上に及ぼす機能が如何なるものであるかは各位の御判斷に委せて十分であると思ひます。

さて第3期計畫は主として國防的のものでありまして、即ち滿洲の中心から北、西、南、東の國境方面に伸びるものであります。即ち其の第1は矢張支那側の計畫しました第2幹線に沿つてゐるものでありまして、先に述べました第1期計畫線中の依蘭から松花江に沿つて北行し、黑龍江北の露領ハバロフスクの對岸綏遠に達する650粁の線であります、第2は齊々哈爾から更に北の方へ進むで、墨爾根即ち嫩江、愛琿を經て、ブラゴエチエンスクの對岸黑河まで延長し、黑河より更に北東へ廻り奇克特を經て海蘭に下つて來る遁還線約1,000粁であります。此の二つは北方國境警備に關する國防計畫線でありますが、次に西の方に於きましては、此の洮索線（中村大尉の遭難せられたるは此の邊であります）を延長して滿洲里に出る500粁であります。南の方では通遼より開魯、赤峰を經て熱河に到る900粁でありまして、是又支那の計畫した第2幹線に一致するものであります。殘る東の方に對する國防計畫線は此の吉林、海龍城を繋ぐ吉海線の朝陽鎭から北方の方の濛江、撫松を經て朝鮮の國境惠山鎭に到る300粁の線及び撫順より興京、通化を經て鴨綠江岸の滿浦鎭といふところに出る300粁で、專ら國防上より見たる朝鮮北部との連絡を考へたものであります、是等諸線の延長は實に3,650粁であります。

以上申述べました、第1期、第2期、第3期の計畫の全延長は6,350粁になりますから先に申述べました如く、1粁當りの工費を100,000圓としますと其の總工費が635,000,000圓で一年に300粁宛建設するものとすれば20年を要するといふ譯でありますが、時期の問題に就いては容易に豫斷を許さぬものがあらうと思ひますが、凡て滿蒙の重要性に鑑みて、恐らく着々進捗せらるるものと見て差支ないと存じます。

之れまで申述べました諸計畫線は、勿論事變前より既に其道の人々の間には十分考究されつつあつた事ではありませうが、それが今回の事變により又滿洲國の創建によりまして愈々帝國の滿蒙に對する特殊的の權益及歷史的の利權が確保せられ、又其の行使の自由を

得るに到つたのでありまして、忽ち茲に其の實現を取急ぐべき時期が到來したのであります。此の重大轉換期に善處して經濟上、政治上、國防上其等凡ゆる方面からの要求に應ずべく在來の計畫に若干の變更は今後共あることでありませうが、現在建設に着手しつつある幾つかの線に就いて極概略を申上げ度いと思ひます。

先づ第1期計畫の主眼でありました、哈爾賓を最短距離を以て海港に結ぶ計畫に基くものでありまして、目下工事中のものは敦化より圖們江に達する敦圖線180粁で、本年の5月起工して來年の8月頃までに完成の豫定になつて居ります。2區を8區に分けて滿洲の請負人と內地から進出した請負業者とに分割して請負はせて居ります。其次は同じく第1期計畫に述べました、哈爾賓を吉敦線に繋ぐ拉賓線の260粁でありまして、來年7月頃までに完成の豫定と聞いてをります、其次は海倫と此の克山とを結ぶ海克線180粁の未完成線の完成工事であります。此の附近は新聞で御承知の如く隨分匪賊の脅威がヒドイので可成困難を感じてをりますが、之も本年8月頃起工し、來年の9月頃の完成と聞いて居ります、距離の短い割合に期限の長いのは既設部分に於ける補修に相當の日數を要する爲ではなからうかと考へます。是等の總工費は大約6,100,000圓であるとの事であります。最後にもう一つ朝鮮地域に這入つて、此の雄基と新港羅津とを結ぶ雄羅線でありまして、是は羅津の築港を伴つて居りまして、唯今から8年度へかけての豫算が約6,000,000圓と聞いて居りますが、年々續いて數百萬圓の工事が繼續されるであらうと考へます。是等は只今のところ凡て滿鐵に於て其の建設に當ることになつて居り、以上の樣な次第でありますから、之を結論的に申しますと、滿蒙に於ける建築及び土木の將來如何といふ問題に對するお答としましては、差當り都市の建設としては言ふまでもなく新京を主として之れに亞いで奉天哈爾賓、吉林、齊々哈爾、とそれから新海港として羅津は充分將來あるものでありませう又鐵道に於きましては前述の通り此等の都市を相連結する諸線の建設と更に所謂第2期、第3期と是亦將來見込のあるものと言はなければなりません、斯くの如くして、滿蒙に於ける土建界の中心は奉天以北に移動しつゝあることは明かな事實であります。

更に又是等の諸鐵道計畫が漸次實現せらるゝに從ひ、露支合辦の東支三線の將來に如何なる影響を與ふかは自ら明かなことでありまして私の茲に明言する必要もないことでありませう それと同時に支那の計畫しました胡蘆島中心第1第2の大幹線計畫は事實は差詰め羅津を海港とする北滿主要都市を連結する幹線に代り、敦賀築港の進捗と相俟て、日滿連絡の新交通系統が實現することになるのでありまして、胡蘆島中心とする支那計畫の幹線は以上の諸線の狀況に應じ適宜の變更が加へられつゝ何れは實現されることになるだらうと考へられます、何れにしましても近い將來に於て滿鐵線及大連港なるものは從來の樣な獨占的な繁榮期は去つて行くのではないかと想像されますが、日滿兩國の大局より見てむしろかゝる時代が來ることが却つて此の兩國の滿蒙に於ける實勢力の伸展を證據立てるものであらうと考へるのであります。

以上甚だ不徹底でありましたが、滿洲今後の鐵道網のことを申述べこれによつて、滿蒙土木建築の將來に對する見當をつけて頂き度いと願ふ次第であります。（拍手）

# 世界の建築様式の傾向



京都帝國大學教授
工學博士
武田五一

題目が甚だ廣汎に亘りますので、到底詳しいことを申上げる時間もありませぬが、先づ現在世界に於ける建築の樣式なり形なり或は種類なりが大體どう云ふ風な傾向を辿りつゝあるかと云ふことを極く簡單に申上げて見たいと思ひます。

一體建築と云ふものは、私が取立てて申上げるまでもなく、第一に人間の保健上即ち衛生上の生活が完全に行はれると云ふことが最も大切なのでありまして、此の目的が完全に遂行されなければ、建築の値打は無いと思ひます。次は保安の問題でありまして、如何に衛生上の條件が備つて居りましても、其の建物が構造上不安なものであり、天災に對して危險なものでありますれば、それは何にもなりませぬ。更に其の次には、それ等の條件が備つて居りましても、經濟上それが不經濟なものであれば、是亦何にもならない譯であります。斯う云つたやうなことが總て備つて然る後に建築の美と云ふものは考へられて來なければならぬのであります。即ち之を人間に譬へて云へば、如何に美人でありましても、其の體が健康でなければ何にもならないし、又其の智能が相當に發達して道德的に正當な判斷を以つた惱巧な人でなければ、如何に容貌が美しくても何にもならない。結局、衣食足つて禮節を知るでありまして、外觀が如何に壯麗でありましても基本條件が具はつて居りませぬと何にもならないと云ふやうな考方から云ひますと、現在世界各國の建築はさう云ふ點に於て可なり研究が深刻になつて來て居るやうに思はれるのであります。

現在歐洲各國及び我國に於ける色々の建築物を見まするに今より十五年前、即ち大正八

年に歐羅巴の大戰爭が終つたのでありますがあの歐洲の大戰爭が一つの時機となりまして建築界にも著しい變化が起りました。即ちあの歐洲戰爭に於て歐羅巴は勿論、恐らく世界中の思想なり經濟或は社會の狀態なりが一變してしまつた、是は古來曾て無い一大革命の時機でありましたが、此の時期を界として、世界各國の建築の樣式なり或は建築の內容の考へ方なりが非常に變つて來て居ります。現在の世界の建築の傾向は、主として此の十七年來發達し來たつた所のものがまだ完成されずに、試驗的のものとして、皆の心に試練をなしつつある時代であります。

我國は世界の涯に在る、世界的に云へば、一つの小さな島國でありますが、併し其の世界全體に影響する所はなかなか大きいのであります、又世界に於ける有らゆる建築の傾向は直に日本の建築に影響して、最も新しい傾向を辿つて居ります。或獨逸人に向つて、若し世界中に於て最も新しい建築を見たいと思へば、何處へ行つたら可いかと云ふ問題を提供しました時に、其の獨逸人は日本に遊びに來たことのある人でありますが、世界中で一番新しい建築を見たければ、日本へ行け、一番新しい建築樣式を有つてゐるものは、獨逸でもなければ、亞米利加でもない、日本である、世界に於ける最尖端を步んでゐるのは大正十二年以後の日本建築界だと云ふことを申しましたが、是は確に一理があります。其の規模の廣大さ、或は其の實質などに於ては世界に冠たるものではありませぬが、新しい樣式を巧に取入れて居ると云ふ點に於ては日本が第一人者たることは事實であるやうに思はれます。仍ち世界的の傾向を見やうと思ひますれば、東京に行つて、銀座或は昭和通其の他日比谷界隈の新しい建築を見れば、有らゆる國の建築の樣式が能く分るのであります。此の事に付ては一面に於て日本の國は餘りに模倣の國であつて、創造が無いと云ふやうなことを言ふ人があります。それは見樣に依つてはさうであるかも知れませぬが、併し日本人程世界的傾向を巧に取入れる者は無いのでありまして、又是が日本人の偉い所であらうと思ひます。外國の傾向を取入れ、それを巧く嚙みこなして、自家藥籠中のものにすると云ふことは、日本人の著しい特長でありまして、現在に於てはまだ消化し切れない點があるかも知れませぬが、もう少し經てば、明に是が自分のものになつて來るのであらうと思ひます。我國の歷史を見ましても、古來皆さうでありまして、社寺建築の如きものも初は支那或は朝鮮のものを寫して居つたのでありますが、それが僅か三百年か四百年ばかりの歷史を經る中に到頭日本獨特のものになつてしまつたのでありまして、現在あります所の五重の塔であるとか、或は多寶塔であるとか云つたやうなものは決して他國の物ではありませぬ。日本獨得のものでありまして、日本人が創案し發明した所の一つの新しい樣式であります。仍ち又ああ云つたやうな新しい樣式のものが是から何年後か分りませぬが、先づ近き將來に於て我國に出來て來ることは期して待つべきであらうと思ふのであります。

そこで斯う云つたやうなことが將來どう云ふ風な形で現れて來るかと云ふことを考へて見る必要があらうかと思ふのでありますが、先づ私は保安と云ふ點、即ち建物の設備を完全にし、或は建物の構造を堅固にすると云ふことの考へ方からして我國に新しい建築樣式の傾向が現れて來るのでないかと思ふのであります。又此の建物の構造を丈夫にし、設備

を完全にして其結果建物の形を合理的にやつて行かうと云ふことに努力してゐるのが現在の世界的建築界の一般的傾向でありまして、其の點が歐羅巴各國に於て著しく見られるのであります。而して其の構造を強く合理的にして、材料の選擇を誤らず、其處に無駄な裝飾をくつ付けないで健全なる型の美を發揮すると云ふのは、現在の社會の狀態にも最も適したものであらうと思ひます、と云ふのは、歐洲戰爭前の社會の狀態と、今日の社會の狀態とは非常に違つてゐるのでありまして、それは色々な點に於て見ることが出來ますが、特に最も著しく我々に感ぜられることは、民衆の力が非常に強くなつたと云ふことでありまして、歐洲戰爭前に於ては亞米利加は兎に角、其の他の國に於ては民衆の力と云ふものは餘り强くなかつた。所が歐洲戰爭後に於ては世界各國に於て民衆の力、大衆の力と云ふものが非常に認められて來まして、民衆の爲の建築と云ふ風な考へ方が年々著しく現れて參りました。又同時に多くの人が戰爭の爲めに業を失ひ、社會的に甚だ憐れな狀態に陷りまして、之を如何にして救ふべきかと云ふことが非常に大きな問題になつて來ました。是は單に我國の問題ばかりでありませぬ。此の點に於て建築家として如何に其の役目を果すべきかと云ふことは世界中の建築家が總て頭を惱まして居る問題であります。

其の結果がどうであるかと云ひますと、建物の種類に於ては先づ民衆の幸福を增進する爲の建築が著しく盛になつて來て居るのであります。即ち民衆の幸福を增進すると云ふことの第一は住の問題でありまして、氣持好く又衞生的に民衆を住まはせるのには建物をどう云ふ風にしたら可いか、且又其建築費を安くするにはどう云ふ風に造れば可いかと云ふことに付て各國とも近來特に著しく研究されて來ました。獨逸の如きは歐洲戰爭後に於て短期間に數百萬と云ふ曾て無い多數の住宅を造る必要に迫られたのでありますが、それと云ふのは、詰り民衆の爲に愉快なる住宅を與へやうと云ふ努力の現れでありまして、其の爲に獨逸に於ては世界的に最も優秀なる集合住宅群と云ふものが非常に新しき形に於て我々の眼の前に現れて來て居ります。又獨逸のみならず佛蘭西に於てもさうでありまして、到る處に住宅群の出來てゐるのを見ましたが、何れも建築費の單價の安いものであつて、而も極めて愉快に住へるやうな意匠が凝らされて設備が施されて居ります。尙ほ獨逸、佛蘭西ばかりでなく、伊太利に於ても、西班牙或はバルカン半島の各國に於ても、更に土耳古の如き國に於ても、亦亞米利加に於ても到る處に新しい合理的建築群と云ふものが盛に造られて居ります我國に於ても大正十二年の東京の大震災の後に於てさう云ふものゝ必要に迫られて、東京の市中にアパートメントであるとか、何とか云ふ名稱の下に多少さうした住宅群が出來て居ります同潤會のアパートメントなどは其好例であります。併し我國ではまだまだ其處まで達して居りませぬので、將來我國に於ても世界的の傾向を辿るならば各都市に於てさう云つたやうな住宅の群が起るべき運命に在るのだらうと思はれるのであります。次には失業をしてゐる人々を救ふ爲に、又失業してゐる人々を愉快に生活させる爲に、所謂社會的なる建築物が世界的に多く起つて居ります。それ等の實例としては、職業紹介所であるとか、或は託兒所であるとか、或は產業紹介所であるとか、或は又さう云ふ積極的なものでなくして、墓地の整理問題であるとか云ふ風な消極的な施設が世界的に

盛に行はれて居ることが特に著しく感ぜられるのでありまして、それに伴つて社會的の建築物が近來盛に造られますが、一面に於て民衆的でない所の建築物は殆ど建築される例を見ませぬ。例へば富豪が其の住宅を造るが如きことは、全然無い譯でもありませぬが、其の例は極めて少く、又ありましても、成べく其の事を公表を好まぬような傾向があります。

是等が特に目立つた傾向であると思はれますが、さう云ふ風な建築の種類に付ては假にそれとしまして、其の形が近來は又特に著しく變つて來たのであります。と云ふのは、歐洲戰爭前に於ては其の住宅の形は主として昔の宮殿の形に則り、或は昔の殿堂の形に則り或は又外國の寺院であるとか宮殿であるとか云ふ風なものゝ形を參考することを以て建築の基本計畫として居りました。所が近來はさう云ふ風なものも全然無いことはないのでありますが、さう云ふ例が段々少くなつて參りまして、さう云ふことよりは、寧ろ能く整頓して、さつぱりと簡單にして要を得た、日本で云へば、茶室の如き、殆ど飾が無くして、其の中に高尚なる裝飾的觀念が現れて居ると云ふやうな形のものが多く現はれて來たのであります。又もつと著しく感じられるのは、近來は構造に對する美しさと機械構成に對する美しさと云ふことを非常に考へるやうになつて來たことであります。歐洲戰爭前に於ては器械の如きものゝ形は美術的でないと云ふ風な考へ方が盛に行はれて、例へば設備用の器械類を建築に使ふ場合は、常に之を隱して、成べく見えないやうにし、器械的の形を使ふことは不快なものゝ如く考へてゐたのであります。所が近來の建築はさう云ふ器械であるとか、或は色々な仕掛の中に種々なる面白い形を求めるやうになつたのであります。それで假に建築物の中の設備或は器械類を必要とする場合が起つたとしますと、それを隱さずして、寧ろ眼に能く觸れるやうにし、それを以て建築物の構造と調和を保たさせる所謂構成美とか器械美と云ふものを認めしむるやうな傾向が著しくなつて來たのであります、さう云ふ器械美、構造美は即ち合理的な美しさがあるのでありまして、例へば人間ならば着物を着ずして、裸で美しさを見せると云ふやうな考へ方であります。斯う云ふ考へ方が可いか悪いかは第二の問題として、事實に於てさう云ふ傾向が近來特に著しく見えて來たのであります。而して我國に於ても近來大分さう云つたやうな、構造的な美しさを少しも蔽ひ隱さずして建築面に現すと云ふやうな實例がちよいちよい見えて參つたのであります此の構成の美或は材料の美、或は器械の形の美と云ふものを建築物の上に現すことは、私共から考へれば、健全な美でありまして、結構なことゝ思ひますが、併し之を誤つて他がやつてゐるから、俺もやるのだと云ふやうなことで、構造美を出して居るものゝ眞似をすることになりますと、其處に不純なものが混りまして、非常に嫌味なものが出來上るのであります。本當に自分の構造美を現はすのは結構でありますが、他がやつたのを眞似をしても何等の意味も無いのでありまして、非常に嫌味な形が現れて參ります。それは人間に例を取つて見れば、分るのでありまして、人間は裸でも十分美しさを發揮することが出來ますが、裸の美しさと云ふものは、其の肉體の曲線美、或は釣合の美と云ふものがあるからであります。所が裸體が美しいからと云つて、痩せこけた人が裸になり或は病人が赤裸

になつても決して美しいものではない、所謂西施の顰に倣ふと云ふことを昔から云ひますが、さう云ふやうなことで新しい様式を眞似たならば、必ず其處に失敗が現れます。現に獨逸や和蘭邊でやつて居ります新しい建築様式は其處に非常に力があり、或は種々な美があります。所が佛蘭西人は元來傳統の建築様式を盛に用ひて居る國民でありますが、近來佛蘭西の或一部分に於て獨逸や和蘭の様式を眞似してゐる人がありますが、それを見ると實に厭な感じがするのであります。巴里の近郊に於て近來さう云ふ風な新しい建築が出來て行きまして、先年私はそれ等を實際に見て參つたのでありますが、どうも厭なものであります。又我國に於ても近來大分さう云ふ新しい傾向のものが現れて居りますが、其の中でも本當に自分の考へで構成美を發揮したものは非常に佳く見えます。一例を擧げれば、近來出來ます鐵道のプラツトホームの、あの古レールを利用した構造の如きはなかなか美しいものであります。又東京の震災後に復興せられた東京に於ける省線電車の停留所の上家の如きも實に美しい構造になつて居ります。あゝ云ふのは非常に結構でありますが、さうでなくして、唯獨逸の雜誌に出てゐた繪を見て其儘の形を眞似をしたり、或は鐵で作つた形のものを木材で眞似をしたやうなものが、近來彼方此方のカツフエー或は料理店などの方面に見受けられますが、私は實に厭なものだと思ひます。計畫の進行上自然の要求から出來て來た様式なれば、それで宜しいのですが他にあるから、俺もやつて見やうと云ふやうな考から其型の起つた原因を考へずに拵へ上げた型は甚だ不快なものであります。

世界に於ける現在の建築様式の傾向は、一面に於ては建築内容の必然的要求から出發して、已むを得ずして出來上つた様式的の傾向があると同時に、一面に於てはさう云ふやうなものを唯單に表面的に眞似してやる傾向もあるのでありますが、佛蘭西に於ける新建築傾向の多くのものは第二の方で、自分の獨創と云ふよりは他のものを眞似する傾向が見えてゐて、甚だ面白くない。又英吉利の如きは昔から極めて保守的な國でありまして、他のものを眞似することは恥ぢると云ふ風であつたに拘らず、近來は大分新しい形式のものが倫敦並に倫敦の近郊などにも見えて來ました、近來我國に出來る新しい形式のものにも中には甚だ厭な感じのするものもあります。それで斯う云ふやうな建築傾向から我國の建築の將來を考へますと、我國の建築の將來に付てもどうしても實際の必要に即した所謂健全な建築様式でなければ、唯他の眞似をしただけのものでは到底完全な美しさは得られないと思ひます。之れが從來の研究方法と異る所でありまして唯單なる様式研究でなく一面建築様式の傳統を破壞することなくして建築物の内容を巧みに表現する型のものを作り出すのであります。是は特に將來の若い建築家に於て十分お考を願ひたいのでありまして、他がやつたから、俺もやると云ふやうなことでなく、自分の考から總てのものを造り上げると云ふやうなことに於て研究を進めて行つて貰ひたいと思ふのであります。

建築の世界的傾向に付て大體を述べました序に、最後に於て聊か私の希望を申上げて此の講演を終りたいと思ひます。（拍手）

# 建築と社會



日本建築協會會長
工學博士
片岡安

私の申上げたいことは建築と社會の關係でありますが、建築と社會の關係位緊密にして又非常に多方面に分れて居るものは他に無からうと思ふ程其幅が甚だ廣いのであります。故に私が今日僅か30分の時間で建築と社會の關係を全般に亘つて申上げると云ふことは固より不可能なことであると存じます。從つて唯今司會者がお話し申上げました如く、今日私は建築と社會の關係中に於ける一小部分ではありますが、社會的には非常に大きい問題として現れて居ります建築界の勞働問題と云つたやうな方面のことを聊かお話し申上げて御參考に供したいと思ふのであります。

建築と云へば洵に簡單なやうでありますが、實は世の中の有らゆる仕事、有らゆる產業が悉く建築と云ふ一つの術語の中に溶け込むものであると考へて少しも差支ないのであります。又世の中の有らゆる天產物、例へば木、石、泥、砂、灰と云ふやうなものは固より、或は人間の力と智慧で造り上げる半製品から精製品に至るまで有らゆる品物は全部建築の材料となるのであります。言ひ換へれば、我々の眼に觸れるもの、手に觸れるもの、總て建築の材料として其の重要なる部分に使はれるのでありまして、即ち建築と云ふものは非常に幅の廣いものであり、奥の深いものであり、非常な高さを有つて居るものであつて、見渡す限りのものが皆建築と云ふものゝ中に溶け込むべき運命を有つてゐるのであります。即ち我々がそれ等のものを建築に使用することに於て、有らゆる文化の結晶をそれに織込み、流し込むと云ふことになるのでありますが、今日に於ける建築がそれ等の材料に依つ

て巧に組み立てられると云ふ其の仕事(所謂建築の意匠及び作業と仕上でありますが)には又有らゆる技能、有らゆる技術的の考案、或は構造上の智慧、或は仕上げ上の努力と云ふやうなものが皆集積される譯であります。詰り世の中の有らゆる技能、有らゆる智慧が綜合されて、其の材料を取扱ふ所の舞臺に現れて來るのでありまして、世の中の有らゆる技能と云ふものが、非常に種類の多い有りと凡ゆる材料を使つて建築と云ふ舞臺に現れて芝居を打つのであります。所謂建築と云ふものは舞臺に集つた總ての人がステーヂ・マネーヂャーの指圖に依つて芝居をするやうなものでありまして、此の建築と勞働と云ふものが非常に深い關係のあることは言ふまでもないのであります。

産業革命以來、即ち19世紀の末より20世紀に掛けて色々産業の方式が變りまして、所謂多量生産とか合理的管理とか其の他發明及び新しい考案等に依つて産業の取扱方が非常な變動を來したのであります。建築の問題とは少しく離れてゐるやうでありますが、其の産業上の變化せる有様に付て實例を擧げてお話しますと、例へば自動車の如きものに付て考へて見ましても、十四、五年前には亞米利加の如き非常に澤山の自動車を使つてゐる國を包含しましても、世界全體の自動車數が僅に10.000.000臺しか無かつたのでありますが、最近即ち三年前の1929年には亞米利加の自動車會社が一年に造り上げた自動車數だけが5.000.000臺に上つてゐるのであります。斯う云ふ風に總て非常に良い品物が安く多量に世の中に造り出され、又能く人がそれを使用すると云ふ狀態になつて來たのでありますから、世の中の産業の有様が昔とはすつかり變つて來たのであります。其の結果だとのみは申しませぬが、其の結果も幾分手傳つて、一昨年から世界全體の産業界が非常に疲弊し、5.000.000臺も造り上げた自動車會社が3.000.000臺しか賣れなかつた爲に、翌年は急に生産力を減らして、2.500,000臺とし、又減らして2.000.000臺にすると云ふ風に、逆落しに製造力を收縮せねばならぬやうなことになつたのであります。而も其の最も甚しいのは、建築に於て殊に多く用ひられる所の鋼材、俗に謂ふ鐵でありまして、最近まで十數年間は世界全體を通じて70.000.000噸から80.000.00噸の鐵を造り、又それを立派にこなして居つたのが、最近はどうであるかと云ひますと、是が非常な勢で收縮して、其の3分の1位のものしか必要がないと云ふやうな譯で、過去十數年來相當大きな角度で段々上り來つゝあつた所の産業が最近二、三年の間に非常な勢で逆落しに收縮したのであります。私は唯茲に過去十數年來薄利多賣主義、多量生産主義と云ふことで、上りに上つて來た産業界が急激に逆落しに收縮して、非常に慘めな狀態になつたと云ふ現象だけを申上げるに過ぎませぬが、是と平行して、前述の如く世の中の有りと凡ゆる材料を、有りと凡ゆる技能が加つて出來る所の建築なるものも亦驚くべき大收縮を始めたのであります。是は言ふまでもなく、當然過ぎる程當然なことでありますが、社會上の現象としては洵に悲しむべきことでありまして、凡ゆる建築關係者の悲慘な狀態と云ふものは他の總ての産業界に於ける狀態と何等變る所がないのみならず、寧ろそれよりも更に甚だしいと云ふやうな狀態になつてゐるのであります。それをもう少し具體的に申上げますと、歐羅巴各國に於ては歐洲の大戰中は戰爭に必要な所謂兵器軍需品の製造に急にして、建築の如きは第二次の仕事として非常に小さな分量に

縮少されて居つたのでありますが、戰後の復興計畫に依つて、戰場であつた所は固より戰爭に參加した國々の建築界は相當に繁昌したのであります。それが最近になつて又今述べましたやうな慘澹たる狀態に收縮したのでありまして、私は茲に便宜上亞米利加合衆國に於ける建築界が一時如何に盛であつたかと云ふことを概括的に申上げて見たいと思ふのであります。

我國は明治十年前後から最近文明の流れを辿つて來た所の新興國でありますが、亞米利加合衆國も亦日本と同じく僅か百數十年間に伸びて來た國でありますから、建築の如きも歐羅巴に於けるそれとは比較にならない程、盛な勢で伸びて來たのでありまして、歐洲大戰前は一年に費す所の所謂建築費が大體7億弗乃至8億弗で、日本のパーの金にして15億圓の建築をしてゐたのでありますが、歐洲大戰後米國に於ける產業が非常に大仕掛なものになりまして、所謂生產力が20世紀文明の眞價を極度に發揮した其の當時から建築に投ぜられる金も亦俄然として一大飛躍をしたのであります。即ち從來一年に7億弗乃至8億弗の建築をやつてゐたものが、戰後に於ては急に伸て一年に30億から40億弗の建築をするやうになり、漸次進んで今より十年程前には遂に65億弗の建築をやるやうになつたのであります。而して其の60億弗以上の建築をやつた年が三、四年續きまして、其の後は50億弗、40億弗と云ふ風に幾らか下つて來ましたが、戰後の約十年間に於て600億弗の建築をやつたのであります。即ち我國の今の爲替相場では2500億圓、パーに勘定しても1200億圓と云ふ大量の建築が成されたのであります。それが前述のやうに產業の大收縮の流に沿ふて一昨年からは非常な收縮振でありまして、殆ど亞米利加に於ける大量の建築は昨年を以て一通り終つたものと申上げて良い程に收縮を致してゐるのであります。是は亞米利加の一般產業界の狀態が大收縮を見た結果でもあり、原因でもありませうが、此の原因か結果か分らぬ位であるだけに是が亞米利加の勞働界に悲慘な狀態を現出せねば止まぬ有樣となりましたのは言ふまでもないことであります。

此亞米利加の建築、建設の分量の大なりしことは如何に其の當時亞米利加の產業が各方面に於て伸びに伸びて、伸び切つてゐたかと云ふことを示すものでありますが、其の反動と申しますか、逆勢と申しますか、一昨年邊りから漸次下り阪になつて、本年は恐らく10億弗位の建築ではないかと思ふのであります。それはまだ統計が手に入りませぬから、ハツキリ分りませぬが、本年私が紐育や市俄古の樣子を見ました所と、60億弗以上の建築をやつた時代の樣子とを比較しますと、先づ其の5分の1以下のものであると云ふことは凡そ見當が付くのであります。して見ると、亞米利加に於ては建築關係以外の方面に於ける勞働者にして業を失つた者の數の多いと云ふことは色々の調査に依つて明でありますが、建築關係の方から之を眺めて見ましても、60億弗以上の建築工事に從事してゐた所の建築關係の勞働者が、其の5分の1位の建築の分量では非常に多數の失業者を出してゐると云ふことは、誰でも想像し得る所であります。曾ては勞働者の天國であつた亞米利加合衆國も今日は其の昔に引かへて12,000,000人の失業者があると云ふ報告のあることは、其の半面に就て社會の非常に悲慘な狀態を十分に物語つて居ると申上げて可いのであります。斯か

る狀態に於て建築する者と、建築勞働者――と云ふと言葉が惡いやうでありますが、即ち建築關係技能者にして業を失つてゐる者は洵に大量なものでありまして、殆ど過去數千年間人類の未だ曾て出會つたことの無い位の狀態に在ると云ふことは想像するに難くないのであります。

そこで我國の建築界はどうであるかと申しますと、我國でも一般の產業が此の三、四年來非常な窮境にあるのでありますから、失業者が大變殖えてゐることは申すまでもないのであります。私の調べに依りますと、我國の勞働者で業を失つてゐる者は約五十萬人と承知して居りますが、此の統計は甚だ不十分でありまして、果して是が正しい數字であるかどうか私は保證いたしませぬが、獨逸では六百萬人の失業者があり、英吉利でも三百萬人に近い失業者があつて、亞米利加では一千萬人以上の失業者があると云ふ現在の如き世界全體の產業不況時代に、我國の失業者が僅に五十萬人位であると云ふことは洵に結構な狀態でありまして、寧ろ有難い狀態であると考へられぬこともないのであります。然らば建築界の方はどうであるかと申しますと、建築界の方も大體に於て相當收縮して居ると云ふことは諸君も御存じの通りでありますが、其の收縮率の小さいことは恐らく世界一であつて、即ち世界第一の好い狀態に在るものと申上げて可からうと思ひます。私の見ました所では、我國の建築建設の收縮率は、過去數年來に比較して、昨年から本年に掛けて先づ2割から2割5分位の收縮歩合ではないかと考へて居るのであります。仍ち從來の建築關係の技術者所謂熟練職工なるものの2割5分が失職して居ると云ふことになるのでないかと私は考へて居ります。それで世の中には色々說をなす者がありまして、此の不景氣の際に建築でもあるまい、先づ儉約をしなければどうにもならぬ、建築などは止めても可しいと云ふやうな譯で、相當眞面目に物を考へる人との間にも、「建築とは不急の事業なりと云つたやうな意見が屢々起るのであります。所謂緊縮政策なるものの第一には建築を止めやうぢやないかと云ふやうな說が起るのでありますが、それは非常な誤りでありまして、「建築の收縮して居る時は熟練なる建築勞働者が比較的安く働いて呉れる時でありますから、斯う云ふやうな機會に永久的建築を造ると云ふことは其の永久的建築の爲に非常に利益であり、のみならず、世の所謂失業苦、就業難を助ける爲にも非常に便宜なものでありまして、此の意味に於ける一擧兩得は斯う云ふ不況の際に建築を起すことであると云ふ風に私共は考へて居るのであります。當局に對しても私共は色々の機會を利用して之を說明いたして居るのでありまして、一昨年來當局者は尤もであると同意はして居りますが、政府の訓示などを見ますと、必ずしもさうではなく、建築の造營は此の機會に於て大にやるべしなどと云ふやうなことはなかなか言はない、何故にそれを言はないのかと詰問いたしますと、それは政府の訓示の中に在ると云ひますので、叮嚀に調べて見ますと、成程5號活字で一行か二行程書いてあります。土木事業の建設は大にやるべしと云ふことは12號活字で書いてありますが、此の不況の際建築を控へるやうなことはしないで、特に永遠の目的に副ふやう

な建築を此の際大にやるべしと云ふやうなことは餘り強く書いてない、唯お座なりに建築物も相當にやつたら可からうと云ふやうなことが一寸何處かに書いてある位のものであつて、我々は甚だ不滿であります。

世の中の人は兎角建築と云ふものは文化の發達を促進するものであると云ふことに氣が付かないで、昔の殿樣や金持が自己の道樂の爲に家を造つた時代のことを想起して、建築は不急の事業なりと云ふやうなことを言ふ人が多いのでありますが、併し今日の建築と云ふものは決してさう云ふものではないのでありまして、我々の活動を促進し、我々の活動を最も便利ならしむるものが建築であり、又我々の社會に活動する上に於て我々の健康を保證するものは現代の建築であります。即ち昔の建築では出來ないが、現代の設備の完全せる建築は我々の健康を十分に保護して呉れるものであると云ふことを考へなければならぬ。又我々の生命財產と云ふものは建築に依つて擁護されてゐるものであつて、若し建築が不十分であつたならば、地震や暴風で生命を失ふことさへもあり、生命を失ふのみならず、財產を蕩盡せしめることにもなるのであります。又我國は世界に比類の無い火災國であつて、過去に於ても現代に於ても我國の火事の數は殆ど想像の出來ない程澤山なもので、其の點に於て世界のナンバー・ワンであります。即ち歷史的にも亦現在に於ても世界各國に對して日本がナンバー・ワンとして威張れるものは先づ以て火事の多いと云ふことでありまして、火事の爲に我々が大損害を受けると云ふ例は全國を通じて一年に非常な數字に上るのであります。失ふ所の財產の多額なることは勿論、我々の社會活動を妨げられるとか色々の點に於て大失敗を起す其の因は火災でありますが、それに對する準備如何と云ふことを考へると、火事を喰ひ止める所の建築と云ふものは決して贅澤どころの騷ぎではなく、さう云ふ家に住むのでなければ、現代に於ける本當の文化國民ではないとも言へるのであります。更に進んで建築と云ふものが社會上如何に重要な地位に在るかと云ふと、其の都市の體裁を整へて其の國の文化を完全に表徵すると云ふものは建築の外に無いのであります。如何に立派な船を造つても、どんな良い製造品を出しても、其のものが其の國の文化の狀況を目の當り人に示し、永く後世に遺すと云ふことは出來ないのであります。獨り建築のみが其の都市民の有つて居る本當の精神文化を最も具體的に現すのであります。

以上申述べたやうな意味に於て、建築と云ふものは決して不急の事業ではなく、我々の本當の文化生活を完全に援助して呉れるものであつて、此の不況の際に於ては先づ以て建築を止めやうなどゝ云ふが如きは飛んでもない見當違ひであると云ふことを特に强調せざるを得ないのであります。即ち此の不況時に於て建築を盛に起すと云ふことは、一面に於ては永久的な良い建築を最も安く仕上げて、之を子孫に遺すと云ふ大きな利益があると同時に、一面に於ては又現在の失業苦を救ふと云ふ大きな社會問題解決の大使命を果すものであると信ずるのであります。

斯う云ふ意味に於て私は本日諸君の前に建築と社會の關係に就て現狀を申上げて、御共鳴を得たいと思ふのであります。私の講演は是で終ります。（拍手）

# 閉會の辭



日本建築協會副會長
工學士
池田實

私は司會者として茲に一言閉會の辭を述べることのお許しを得たいと思ひます。後にまだ映畵がございますから、猶ほ寛ツくり御覽を願ひたいのであります。

我日本建築協會が創立滿十五年の記念事業として色々の施設をいたしました中の其の一つとして、本日こゝに此の建築大講演會を開いたのでありますが、幸にも皆樣は非常に御多用の所をお差繰り下さいまして、斯くも多數滿場割るゝばかりお集り下さつて、しかも諸君の熱心なる御清聽を得ましたことは司會者としてのみならず、日本建築協會として洵に光榮とし大に慶賀すると共に實に感謝に堪へざる次第であります。

協會が記念事業として致して居りますことは、既に御承知のことゝ考へますが、北には阪急沿線に於ける伊丹綠ケ丘に住宅博覽會を開き、南に南海高野線大美野に於て同じく住宅博覽會を催し、之に加ふるに南海高島屋に於て住み良い家の展覽會を開催して居ります。皆樣方は直接建築に關係のある方か、或は建築に對して間接に關係があるとか或は又特に趣味を有せられるとか、兎に角建築に最も多く關心を有たれるお方々と考へますので、どうか其の博覽會や展覽會等も御覽下さいまして、色々な御批評も仰ぎたいと思ふのであります。

尙ほ建築と都市文化の關係に付ては先刻來各講師が色々述べられたことでありますが、私共は此の大講演會に續きまして、將來建築上の智識の普及、又建築の發展と云ふことの爲に、隨時到る處に於て巡回講演會を催したいと考へて居りますから、若し皆樣の御關係

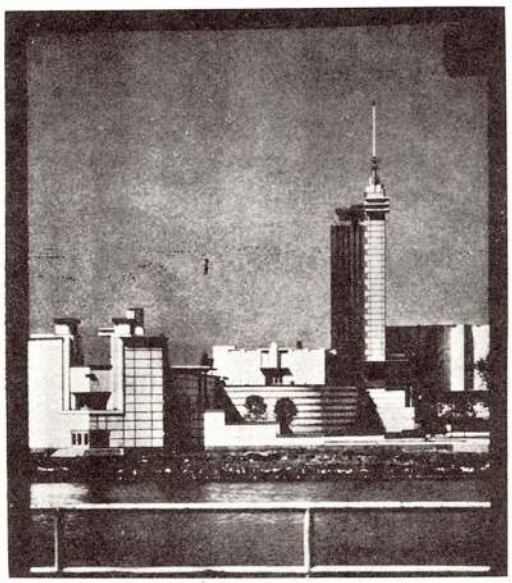
方面に於てさう云ふことを御希望になる方がありましたならば、どうか御遠慮なくお申出でを願ひたいと考へます。協會と致しましては最も適任なる講師を派遣して御期待に副ふことを心掛けて居ります。

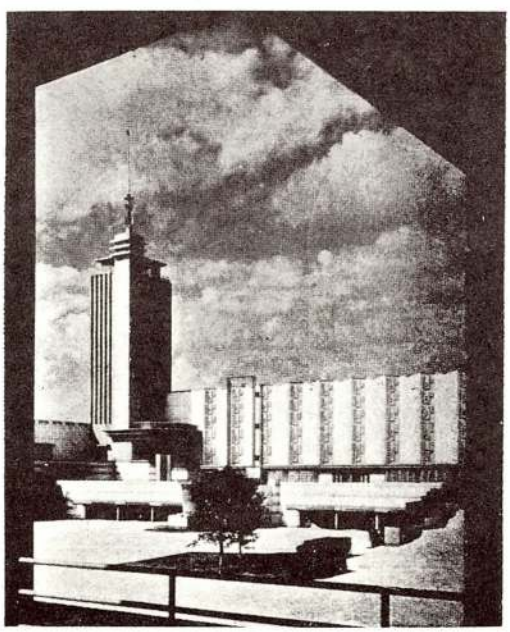
尙又今日時事問題として最も深き注意を要するは滿洲問題でありますが、我々は建築家として滿洲に於ける建築を如何にすべきか、或は滿洲に於ける建築界に向つて如何に進出すべきかと云ふやうなことに付て色々考を有つて居ります。其の一つとして我が日本建築協會は滿洲の建築協會と提携し、更に又朝鮮や臺灣の建築協會等四五の團體が一致協力して、滿洲方面の建築界に貢献する所ありたいと考へて居ります。殊に大阪は財界の方面、工業の方面等、有らゆる方面に於て滿洲と最も關係の深い土地でありますから、建築方面に於ても此の四會聯盟の下に適當な方策を講じたいと云ふやうなことも協會の記念事業の一つとして考へて居ることを茲に御報道申上げまして、極めて簡單でありますが、閉會の辭に代へる次第であります。（拍手）

## 本號執筆者紹介

| | |
|---|---|
| 池田實 | 工學士、東大建築學科卒業、本會副會長「現代世相と建築界」の執筆者 |
| 石川純一郎 | 工學士、東大建築學科卒業、竹中工務店技師にして「忘れられ、忘らるべからざる事實」の執筆者 |
| 石田茂 | 滿洲建築協會書記長にして「滿洲の土木建築の將來」の講演者 |
| 片岡安 | 工學博士、本會々長、「昭和八年を迎へて」の執筆者にして「建築と社會」の講演者 |
| 葛野壯一郎 | 工學士、東大建築學科卒業、本會住宅委員會委員長にして「住宅問題の將來」の講演者 |
| 古宇田實 | 工學士、東大建築學科卒業、神戸高等工業學校長、記念大講演會の司會者にして開會の辭を述べらる |
| 新名種夫 | 工學士、京大建築學科卒業、大阪市技師にして大阪市建築課に在勤「ガラスの使途の擴大」の執筆者 |
| 武田五一 | 工學博士、京都帝國大學教授、本會副會長「世界の建築樣式の傾向」の講演者 |
| 德政金吾 | 工學院建築科卒業、元清水組大阪支店長、德政工務店經營、「ゲージ確立の急務」の執筆者 |
| 中西六郎 | 工學士、早大建築學科卒業、「斷想」の執筆者 |
| 波江悌夫 | 工學士、東大建築學科卒業、前大阪市建築課長にして「都市建築改造の急務」の講演者 |
| 古塚正治 | 工學士、早大建築學科卒業、神戸高等工業學校講師、古塚正治建築事務所主にして「建築美批判の新基調」の執筆者 |
| 松本儀八 | 京都高等工藝學校卒業、住宅部長として大林組に在勤せらる、「昭和七年の住宅建築界を顧みて」の執筆者 |
| 村野藤吾 | 工學士、早大建築學科卒業、村野建築事務所主にして「建築左右展望」の執筆者 |
| 矢田鐵藏 | 工學士、東大建築學科卒業、大林組本店在勤、「大阪市及その郊外地の展望」の執筆者 |



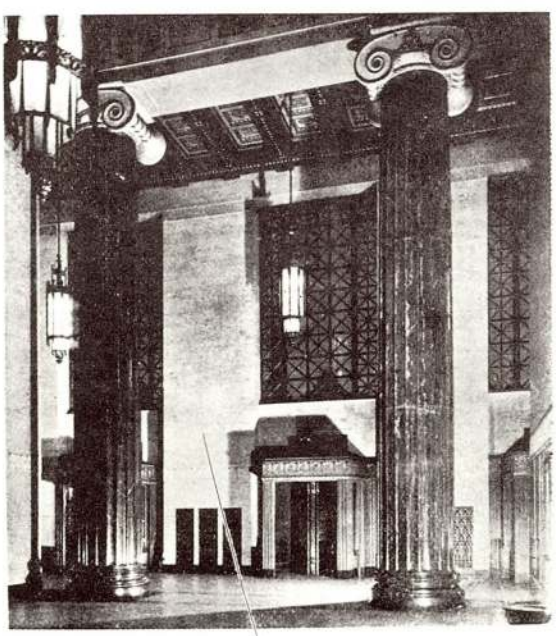




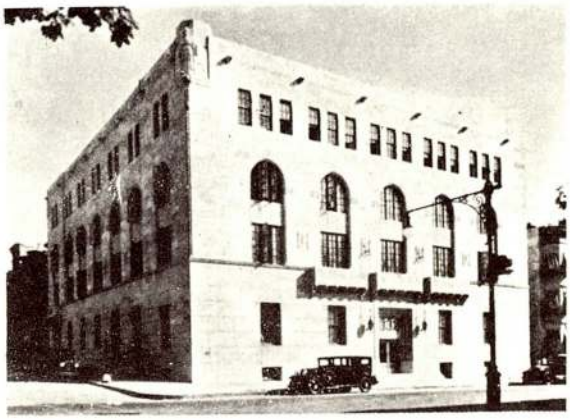
1

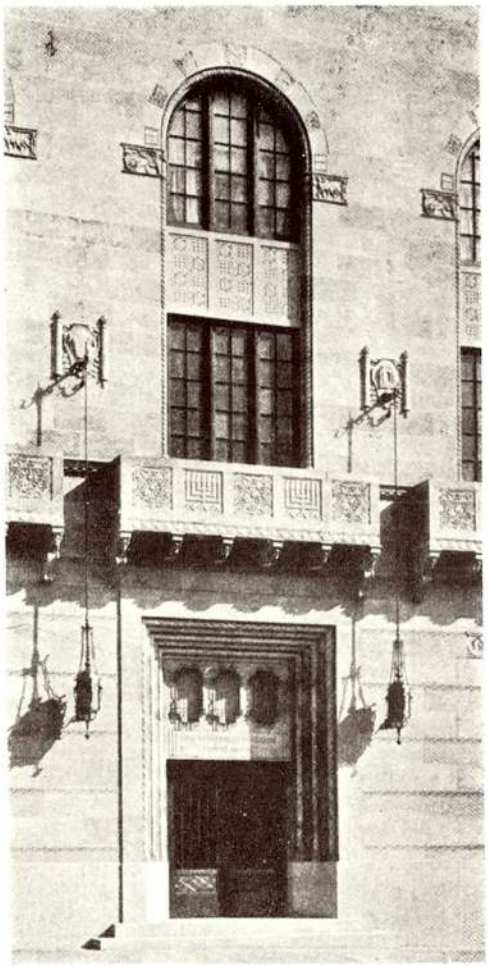


2



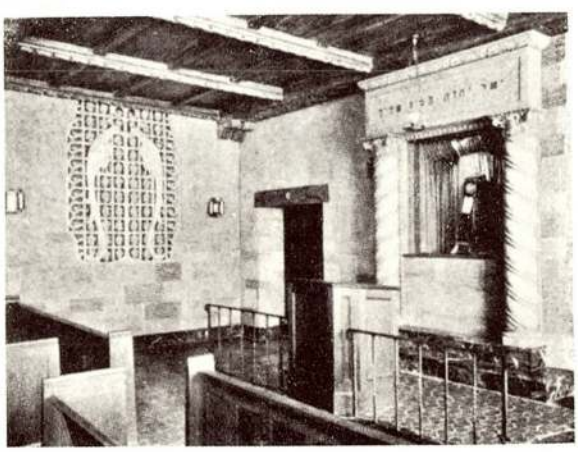
**1～2 米國・ミヅリ州　聖ルイ民事裁判所ビル**　　設計　プラザ・コンミツシヨン氏











米國・紐育州　ブルツクリン・ベス・エロヒム・テンプル・ハウス　　設計　レビー＋フリホーフ兩氏










**米國・アリゾナ州　フエニツクス・バレー銀行信託ビル**　　設計　モルガン＋ウオール＋クレメンツ諸氏




DUNLOP RUBBER FLOORING






弊社製ゴム床敷は既に數多の官衙、會社、汽船並に諸家庭に敷込まれ、快適なる其の感じは御使用家各位の御滿足御賞讃を得つゝあります。御必要に應じ何時にても社員を派し詳細に亘り御要求事項を御説明申上げます。

神戸市脇之濱
ダンロップ護謨(極東)株式會社
各地出張所

ダンロップ護謨床敷

# ポルトランドセメント界最近の趨勢

## ＝日本ポルトランドセメント業技術會議報告＝

三　浦　尙　史

去る10月31日より11月2日迄東京鐵道協會に於て開催された日本ポルトランドセメント業技術會第21回例會に片岡會長より協會代表として出席すべく命を受けたので欣然參加致した。出席者は會員側としては、小野田セメントの笠井眞三氏を始め磐城、日本、豐國、東亞、土佐、秩父、大分、大阪窯業、小野田、七尾、宇部、淺野、三河、常陸、各セメント會社の研究部員約80名、來賓側として東京帝大の永井彰一郎氏、濱田稔氏、京都帝大の近藤泰夫氏、九州帝大の吉田德次郎氏東京工大の田邊平學氏、二見秀雄氏、谷口忠氏、早大の秋山桂一氏、名古屋高工の北澤忠男氏、熊本高工の吉田彌七氏、神戸高工の巽純一氏、建築學會より松井清足氏、其他工業試驗所、商工省、內務省、大藏省、陸軍省、海軍省、遞信省、鐵道省、營繕廳、大林組、大倉土木等より合計約60名であつた。

笠井眞三氏を議長として、各委員の報告、討論研究報告、講演を行つたのであるが、各發表は實に精細な研究の結果であつて、近來セメントの品質が頓に向上しつゝあるのも之なるかなと肯け、又最近の業界の趨勢も知り得たので以下各發表中建築業者に關係の深いと思考さるもののみを簡單に申上げて御報告に代える次第である。

### (1)早期高强度セメントに關する規格委員報告

昨年の第20回例會に於て同セメントの規格制定に關し討議せられた結果、廣く需用者、製造者、關係學者の意見を聞き、之を綜合して、茲に新規格準備案が出來たわけである。

**名稱**　高級、早硬、早强、ポルトランドセメントの內京大の近藤氏等は早强ポルトランドセメントに賛成であつた。

**定義**　「普通ポルトランドセメントよりも强度高く特に固結の初期に於て著しく高强度を發揮するもの」

**製法**　之は普通ポルトランドセメントと大差なくすべてに渉り綿密なる注意の下に製造するもの故殊ど J.E.S. 28 號と同樣。

**粉末の稍度**　普通セメントと同じくする說と、同篩にて殘滓量6%とする說とあり、但しこの殘滓量でセメントの良否を判定する時代は旣に過ぎて居る故、この規定は無くともよいとの意見あり

**凝結**　初發時を1時間以後とするものと45分以後とする案とあり、終結は同樣10時間以內である。

**强度**　强度と最も關係ある試驗中の溫度に關しては最小限を20°C、18°C、15°C の3論あり、濱田博士は早强セメントを使用するは多く冬期なる故15°C を支持し、小生は需要者側の試驗設備は製造所の設備より遙かに劣り冬期15°C を保つ事すら困難なる故を以て濱田說に賛成、併し各外國の規定は18°C なる故何れとも決定せず、强度は72時間、7日、28日の耐伸、耐壓を試驗する、本年上半期成績として各セメント製造者が提出せる早强セメントの平均强度は

| | 72 h kg/cm² | 7 d kg/cm² | 28 d kg/cm² |
|---|---|---|---|
| 砂入セメント耐壓力 | 582 | 673 | 735 |
| 砂入セメント耐伸力 | 37.8 | 41.0 | 44.0 |

現行 J.E.S. 28 の强度を規定せる時製造者側の平均强度の60—70% を取りし關係より早强セメントの規格案として上表の60—70% を取れば、次の如くなる。

| | 72 h kg/cm² | 7 d kg/cm² | 28 d kg/cm² |
|---|---|---|---|
| 砂入セメント耐壓力 | 350—400 | 400—470 | 440—520 |
| 砂入セメント耐伸力 | 23—26 | 25—29 | 26—30 |

之に對して東大の永井氏よりの案として

| | 72 h kg/cm² | 7 d kg/cm² | 28 d kg/cm² |
|---|---|---|---|
| 砂入セメント耐壓力 | 400—450 | 500—550 | 600—650 |
| 砂入セメント耐伸力 | 30 | 35 | 40 |

の提出あり、試驗は耐壓、耐伸併用すべく、且早期に高强度を出すのが目的故之を規格に入るべき説明あり、其他硫酸含有量を 2.5% 以下とする等の他 J.E.S. 28 に準じ、以上の諸説を取入れて次の規格案を委員に於て作製する事となる。

## (2)標準砂委員報告

セメント試驗用標準砂の製造工程、原産地、福島縣相馬郡金房村字金谷、常磐線小高驛より西方2里、原砂の約 30% は粘土質と廢棄物、60% は硝子原料となり、標準砂となるものは殘りの僅か 10% である。

採掘方法は手掘で「トロ」で一旦原砂山の砂置場迄運搬され、後に工場に運ばる。製造工程は回轉篩、5 目/寸篩、回轉洗滌機、6 目/寸篩、攪拌洗滌器、60 目/寸篩等を經て、洗砂置場に送らる、この間で礫と粘土分を除去するのである。此處で乾燥され、5 目/寸篩で粘土塊、粗粒砂を除去し、50 目/寸篩で微粒砂を除く、更に 30 目/寸篩、25 目/寸篩で粗粒砂と微粒砂を除きて後、精製工場へ送り、此處では精米機により夾雜物を取り 144 孔/cm² の篩に依り細粒砂を除き、次に二つの 64 孔/cm² で粗粒砂を除き、再び 144 孔/cm² 篩で細粒砂を除き、次に壓型洗滌機で微粉物を除き水切後乾燥板上で乾燥して標準砂となる、之を次の内規によつて試驗をなして市場に出す。

1 粒度 1 cm² につき 144 孔篩上に殘留するもの 95% 以上
2 試料 1 g に對する撰別、合計粒數 1000 以上 1300 以内
3 夾雜物……重量の 2.5% 以内

結論　相馬標準砂の品質と均齊度は益々良好となり、又需要も相當增加しつゝあり。委員に於ては今後更に標準砂使用の一般への普及、並に製造に關する研究方面に努力せんとす。

## (3)各種セメントの凝結中に於ける温度變化の特異性　(藤井光藏氏)

セメントはその化學性分、物理的性質の差に關係なく凝結時に發熱し、之は强度に關係はないがコンクリートとなす場合はセツテイングの際この發熱のためイニシヤルストレスを生じ、之が冷却の際に收縮するから養生法に注意を要するのである。又實際作業上にこの發熱を利用した養生法により短期間に高强度を出す様に工夫出來る。

米國の大土木工事に於て華氏 74° 以上にコンクリートの熱を上げぬ様に管を通じ冷水を通じて調節する裝置をやつて居る。

同氏の實驗は我國のセメントは世界に類のない微粉であるが、このために發熱が早くなる等の特異性を求めたものである。

試驗裝置として絶緣體には魔法瓶を使用し、寒暖計の上昇を自動的に寫眞に取る。供試セメント量は 350 g 或は 200 g を取る、之が餘り大であると 100° を超える事がある。

その結果普通セメントでは初め 20° 位、8 時間後最高 95° に達し、之より次第に冷却し 24 時間後に平常となる、粉末の細いセメント程發熱多く且早い、又風化せるセメントは熱の發生が遲く、最高温度も減ずる、高級セメントの一例にシユマンホンジユを用ひたが、その熱の曲線が甚しく異り最高は 100° を越した、併し冷却は早い。

高爐セメントは發熱遲く、最高 60° 位であつた以上實驗の結果をモルタル、コンクリートに應用して保温冷却の方法を考究したし。

## (4)セメントの風化が强度に及す影響並に其貯藏に關する對策に就て

(山本信行氏)

セメントは長日月放置すれば空中より炭酸ガスと水蒸氣を取り、風化する。エブラム氏のこの方面の研究の結論としては貯藏場所は上屋でも地下室でも强度の損失は同様であり、風化の惡影響は材合の多くなるに從つて少なくなる。

凝結時間は貯藏期間が 1 年半乃至 2 年は遲くなり、其以後は又早くなる。山本氏は昨年5月より本年5月迄の間に試驗をなす、供試セメントは製造會社の工場に至り直接に採取し、防水貯藏袋としてはベーツ紙5枚合せにし中より2枚目にアスハルト紙入、茶袋5枚、或はその2枚目に防水紙入、麻袋等としたが之の種類による强度の差異

は殆どなし、この他に普通の袋入のものを用ひて比較す、貯藏場所は A 鐵筋コンクリート倉庫、B 同倉庫の側の廊下の庇に放置、A. B の平均の强度の比を示せば下の如し。

*

| コンクリート W.C. 67% | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 防水紙なきもの | | | 防水紙入のもの | | |
| 月數 | スランプ | 重量 | 强度 | スランプ | 重量 | 强度 |
| 0 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 1 | 75.81 | 99.81 | 86 08 | 81.78 | 100.16 | 101.18 |
| 6 | 52.26 | 98.78 | 53.78 | 80.00 | 99.84 | 93.55 |
| 12 | 18.07 | 98.63 | 53.53 | 68.39 | 99.76 | 92.39 |

*

| 軟練モルタルの强度 (標準砂使用) | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 防水紙なし | | 防水紙入 | |
| 調合月數 | 1:2.08 | 1:3 | 1:2.08 | 1:3 |
| 0 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 1 | 80.04 | 81.69 | 95.90 | 96.33 |
| 6 | 54.35 | 49.61 | 100.78 | 83.60 |
| 12 | 48.23 | 42.80 | 82.14 | 74.47 |
| W/C | 45% | 55% | 45% | 55% |

上表(*印)に見る如く、混凝土に於てはスランプ、重量、强度、共に1年の後に非常に悪くなる事がわかる、防水紙なきものの强度は53%に下るのを見ても恐しい位である。凝結時間は防水紙入の分は1年迄の間に遲くなり、防水紙なきものは半年位で遲くなり、1年の終りには早くなる。その標準水量も次第に增加する、之がスランプに影響するのである。

貯藏法　貯藏場所はサイロの如きものが理想的容器も費用の上より考慮を要す、防水紙入の袋は1袋2錢位の由、充分防水をする必要を痛切に感ず。

## ウエツトモルタルに關する件

### (5)小型軟練モルタルによるセメント强度試驗法　(濱田稔氏)

濱田氏は先きに水セメント比がコンクリートと等しい、即ち軟練のモルタルを小型試驗片を用ひて試驗をなす方法を提案されたが、今回は其の續報であつた。

使用セメント計 16 種、砂利及び砂は玉川產、調合は水セメント比が 60 及 70% でスランプが 20 cm となるものとして次の如くである。

| 種別 | W.C. 60% | 70% | 備考 |
|---|---|---|---|
| モルタル | 1:2.8 | 1:3.2 | 重量比 |
| コンクリート | 1:1.9:2.4 | 1:2.4:3.0 | 容積比 |

其結果の一部を示せば水セメント比 60 の時

| セメント種類 | | コンクリート强度 kg/cm² | | | モルタル强度 | | | コンクリート强度 / モルタル强度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 3日 | 7日 | 28日 | 3日 | 7日 | 28日 | 3日 | 7日 | 28日 |
| メ普ン通トセ | 大分 | 49.6 | 96.1 | 181.2 | 53.0 | 87.1 | 169.0 | .935 | 1.102 | 1.085 |
| | 淺野 | 76.0 | 149.8 | 288.3 | 70.7 | 145.3 | 241.4 | 1.075 | 1.031 | 1.194 |
| | 小野田 | 47.8 | 102.8 | 208.6 | 54.6 | 121.5 | 216.2 | .877 | .846 | .965 |

全供試セメントに對するコンクリート强度と軟練モルタルの强度の比率の平均を取れば

| | 水セメント比 60% | | | 水セメント比 70% | | | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3日 | 7日 | 28日 | 3日 | 7日 | 28日 | |
| 普通セメント | .978 | 1.020 | 1.077 | .925 | .963 | 1.018 | .997 |
| 高級セメント | .967 | .994 | .964 | 1.037 | 1.058 | 1.036 | 1.009 |
| 混合セメント | .929 | .991 | 1.044 | .935 | .977 | 1.054 | .988 |
| 平均 | .966 | 1.006 | 1.042 | .956 | .992 | 1.030 | 1.000 |

即ち兩強度の比率は材令により多少影響されるが一定値に近く、この比率が假にセメントの種類、水セメント比、材令に無關係に一定値とすれば全平均値は 1.000 となる事を知つた。

次に水セメント比の等しいモルタルとコンクリートの强度比較を更に精密になし、又規格モルタル試驗も行ひ比較をなす。

調合　水セメント比 65% スランプ 20 cm としてコンクリートは建築學會の 1:2.1:2.9 を夫々補正し、モルタルは同條件により 1:3.09~3.25 を取る。其結果は

コンクリート中のモルタルの强度試驗をなした。調合は建築學會標準仕樣書の改正案による、其結果强度は同一水セメント比で砂粒が一定ならば調合が異つてスランプ 15 cm. 19. 22, 24 cm と異るが强度は殆ど一致して居て水セメント比說を肯定し得る事を知つた。

| 水セメント比 | 平均による最大誤差限　% | | 16種調合の平均强度　kg/cm² |
|---|---|---|---|
| 70 | −6.3 | +7.8 | 206 |
| 60 | −7.2 | +6.2 | 290 |
| 50 | 3.8 | +5.6 | 342 |

| | コンクリート强度 kg/cm² | | | 軟練モルタル强度 kg/cm² | | | 規格モルタル强度 kg/cm | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3 日 | 7 日 | 28日 | 3 日 | 7 日 | 28日 | 3 日 | 7 日 | 28日 |
| 普通淺野 | 40.86 | 87.57 | 183.6 | 46.27 | 96.73 | 181.1 | 328.8 | 484.2 | 568.4 |
| 高級窯業 | 113.7 | 185.5 | 276.4 | 117.1 | 211.8 | 245.7 | 516.9 | 625.2 | 667.2 |

| | コンクリート强度と軟練モルタル强度の比 | | | コンクリート强度と規格モルタル强度の比 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3 日 | 7 日 | 28日 | 3 日 | 7 日 | 28日 |
| 淺野 | .883 | .906 | 1.014 | .124 | .181 | .323 |
| 高級窯業 | .972 | .876 | 1.120 | .220 | .297 | .414 |
| 七種のセメントの平均 | .875 | .911 | 1.051 | .148 | .203 | .309 |
| 同上 probable error % | 4.06 | 4.03 | 3.11 | 16.3 | 16.3 | 16.3 |

又コンクリート混練の際、砂利混入前のモルタルより小型モールドに塡充して、その强度を見ると其强度はコンクリートのより甚しく大となる。

若しモルタルの軟度がコンクリートのと等しい時には前の實驗より 1.00 に近くなる、本實驗ではモルタルの軟度が軟い爲に强度も大となる。

| 水セメント比 | コンクリート强度/モルタル强度 | モルタル平均强度 kg/cm² |
|---|---|---|
| 70 | .836 | 255 |
| 60 | .908 | 325 |
| 50 | .854 | 403 |

即ち軟練モルタルは各材令別に見る時は3—4%の probable error に過ぎず、規格モルタルでは同材令の比を取ると 16.3% の probable error となる。然るに規格モルタルの短期强度を以てコンクリートの 28 日の强度の比を取ると比較的誤差が少なくなる。

| | 3 日 | 5 日 | 7 日 | 28日 |
|---|---|---|---|---|
| 比率の平均 | .545 | .443 | .397 | .307 |
| probable error % | 7.96 | 6.08 | 6.91 | 16.3 |

即ち 5 日の强度に於て誤差が 6% になる事を知り得た、之は軟練モルタルの誤差 3% に比しては大であるが實用に供し得る範圍である。之によればセメント試驗が極めて短時日にて出來る。併しこの樣に濃度の高いモルタルに依るのは一種の速進試驗で、軟練モルタルによるのが本格的である更に第 3 の實驗として水セメント比說の誤差及び

## (6)相馬標準砂の原砂を骨材とせるウエツトモルタルの試驗報告

（眞田義彰氏）

米國型の徑 5 cm 高さ 10 cm のモールドを使用し、モルタルの調合を 1:3 と一定し水セメント比を變じたる實驗と、水セメント比を一定したる實驗をなせり、1:3 モルタルで材令 3 日の時 W.C. 40% で約 200 kg/cm² W.C.60 % で約 100 kg/cm² 其他各種實驗の結果相馬原砂は他の白石

川砂四倉海岸砂等に比して強く、其の差は水セメント比が少ない程多く現はれる。

又、日、英、米、獨の標準砂によるウエツトモルタルの試驗の結果は日本のものが最高で4週間290kg/cm²、英國のが最小で 180 kg/cm²、日、米獨、英の順である。又水量は 65% 位が適當で 45%位になると誤差が大となる處がある。

## (7)試驗用砂の相違と小型軟練モルタル試驗成績に就て　(田中太郎氏)

試驗用砂として相馬砂、中川砂、淀川砂、多摩川砂、其他13種、その粒度1瓦の粒數は淀川砂の5008 から員辨川砂の 1600 迄其平均2451 である。

粗率　淀川砂 1.95、西戸崎砂 3.01、全平均 2.75 試驗方法は濱田氏による、水セメント比 65% とし、スランプ 20 cm になる調合を取る、試驗成績の一部は

| 砂 | 3日 kg/cm² | 7日 kg/cm² | 28日 kg/cm² | 調合 | スランプ cm |
|---|---|---|---|---|---|
| 相馬 | 47 | 87 | 130 | 1：2.1 | 19.7 |
| 中川 | 76 | 122 | 206 | 1：2.7 | 19 |
| 多摩川 | 77 | 125 | 209 | 1：2.7 | 19.5 |
| 淀川 | 70 | 107 | 193 | 1：2.2 | 20 |

高級セメントを用ひても同様な比率で強度の變化がある、結論として砂の粒度大なる程強度弱く又砂の質によつても強度が異る。

| 材令 | 花崗岩質 白戸崎砂 kg/cm² | 石英質 相馬砂 kg/cm² | 硬質砂岩質 中川砂 kg/cm² | 珪岩質 多摩川砂 kg/cm |
|---|---|---|---|---|
| 3日 | 56 | 47 | 76 | 77 |
| 7日 | 105 | 87 | 122 | 125 |
| 28日 | 153 | 130 | 206 | 209 |

供試體の大さを變へての試驗では

| | 3日 kg/cm² | 7日 kg/cm² | 28日 kg/cm² |
|---|---|---|---|
| 50 cm 角 | 64 | 126 | 203 |
| 30×60 cm 圓壔 | 66 | 101 | 283 |
| 19.95×31.9圓壔 | 71 | 105 | 153 |

## (8)瑞獨のウエツトモルタル試驗法に就て　(永井彰一郎氏)

ウエツトモルタル試驗法は 1692 年佛のフエーレーが提唱し、瑞のチユーリツヒ大學では過去 20 年間研究せり、試驗型及形式は次の如し、即ち長い試驗片のベイデイングテストにより應張力度を知りその破片にて應壓試驗をなすのである。

| | 瑞 | 獨 | 改正案(未定) |
|---|---|---|---|
| 大き | cm 4×4×16 | cm 5×5×20 | cm 4×4×20 5×5×20 |
| span | 10 cm | 15 cm | 10—16cm |
| 荷重點 | 1 個所 | 2 | 1 |
| 水量 (全重量の) | 11% 12%高級 | 16—18% | 16—18% |

尙使用砂を 4900 孔にて殘滓 70% 通過 30% の微細砂を 40% だけ標準砂に加へたものを用ひると 7 日間水中硬化にて 150 kg/cm² 之が標準砂のみでは 90 kg/cm² しかない。之よりして 1(セメント)：1(微細砂)：2(標準砂)、水は 16.75 %(水セメント比 67%)の調合のモルタルの試驗となす事がある、このセメントに似た微細砂を用ひる事はよい事である。

## (9)混凝土骨材試驗篩に關する調査報告

昨年の本例會に於て試驗篩をメートル法に準據し統一制定すべき事を決議し、篩網調査委員を選定して調査研究した、委員は之等製造に關する調査、關係各方面 295 箇所に對する照會等を行ひ之が報告をなしたものである。

1 混凝土骨材試驗規定

本邦に於ては混凝土協議會、建築學會、土木學會に於て米國標準篩により下記を規定して居る。

其他內務省土木局、道路研究會、內務省土木試驗所等に於てはメートル法により5m.m 孔—50m.m 孔等の篩網並に篩鈑を規定して居る。

| 篩番號 | 100 | 50 | 30 | 16 | 8 | 4 | 3/8″ | 3/4′ | 1″ | 1/2″ | 2″ | 3″ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 角孔の大さ (m.m) | .149 | .297 | .59 | 1.19 | 2.38 | 4.76 | 9.5 | 19 0 | 25.4 | 38. | 50.8 | 76.0 |

又外國の規定は A.S.T.M. のと Tyler のとは大略一致し、英國には I.M.M. Series が叶法にて規定し、獨逸にては篩網は DIN 1171 に篩鈑は DIN 1170 に規定してあるが、結局之等を索合するに、米、獨骨材篩に共通した孔眼は 0.15 m.m 0.30、0.60、1.2、2.5、5、10、20、25、40、50、80 m.m である。次に我國に使用されて居る篩の現狀を見るに篩網は 90%、篩鈑は 8 %、殘りは兩者組合であり、篩網中 tyler 篩が 55%、米國型が 25%、殘りはその組合である、本調査の解答に示されたる篩制定に關する意見を總括するに、相當權威あり一般的なものとし、全部メートル制にて表さるゝ寸法とし且粒度率の算出が容易なる寸法とする事、又寸法の大なるものは篩鈑とする方國產品とするに便なり等の說がある。要するに本邦の標準篩並に tyler 篩はメートル法に準據しない事と、供給不便で價格も低廉でないため各方面で種々區々の篩が制定される譯で權威あるメートル法による標準篩が速かに制定せらるる必要のある事は言を俟たぬ。

次に以上の調査の結果標準篩制定案としては、

1 孔眼系列は米獨共通性に富み、且米國式系列とする事。
2 孔眼系列は J.E.S. 標準數に一致。
3 針金の徑は J.E.S. のそれに一致。
4 本邦規定篩網寸法と妥協性を有する事。

等を考慮し、次の如きものを提出された。

| 稱呼 | 孔眼寸法 (m.m) | 米獨近似篩 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| .15 | 0.15 | 米國式 | No. 100 | DIN 1171 | Nr. 40 |
| .3 | 0.30 | 〃 | No. 50 | 〃 | Nr. 20 |
| .6 | 0.60 | 〃 | No. 30 | 〃 | Nr. 10 |
| 1.2 | 1.20 | 〃 | No. 16 | 〃 | Nr. 5 |
| 2.5 | 2.50 | 〃 | No. 8 | | |
| 5. | 5.00 | 〃 | No. 4 | DIN 1170 | 5 m.m |
| 10. | 10.00 | 〃 | 3/8″ | 〃 | 10 m.m |
| 20. | 20.00 | 〃 | 3/4″ | 〃 | 20 |
| 25. | 25.00 | 〃 | 1″ | 〃 | 25 |
| 40. | 40.00 | 〃 | 1½″ | 〃 | 40 |
| 50. | 50.00 | 〃 | 2″ | 〃 | 50 |
| 80. | 80.00 | 〃 | 3″ | 〃 | 80 |

即ち委員會案は5m.m以上の大なる篩に圓孔の篩鈑を用ひ、稱呼は番號を廢して孔眼の大さによる。

以上を規準として將來の篩が規定されるのである。

## (10) コンクリート工事現場實況調査に關する意見 （吉田德次郎氏）

混凝土工事の現場實況を調査するため當技術會に於て混凝土工事施工の官公衙、土木建築請負業者、各工場等448ケ所に種々要項記載の照會狀を配布しその回答を求め、回答117通を綜合して見たる意見である。

### 1 配合及水量を定むる規準に就いて

コンクリートの抗壓强度を基準として配合水量を決定すべきであるのに、一般現場では混凝土の强度試驗が廣く行はれて居ない爲に之も一般化されて居ないのは遺憾である。混凝土の抗壓强度はその許容强度によつて定まる筈で、許容强度は、構造物の重要程度、部材の種類、大さ、形、鐵筋と混凝土との單價の比、假枠費等によつて各現場で異つて差支えないが、調査の結果、基準の抗壓强度の最高 200 kg/cm² から最低 45 kg/cm² 迄 150 kg/cm² が相當あつたが一般に低過ぎた樣である。

調合は昔ながらの 1:2:4、1:3:6 を用ひて居る所が大部分である。建築工事に 1:1.4:3、1:2.2:3.8 等の調合は少しはあるが土木工事には新調合のは皆無である、之は基準の强度が上げられて居ない事と共に、兩三年間にセメントの强度が著しく增大して居る事を無視して居るので誠に不經濟である。

### 2 配合及水量に就いて

混凝土の抗壓强度と配合水量の關係は部材の種類、形狀、大さ、混凝土塡充の方法等に關係深く、材料の分離を考慮する時は仲々水量の決定は困難である。構造物に於けるコンクリートが基準の强度を有する齊等質のものとする爲には現場の技術者が混凝土打の初と終に於て、調合又は水量を變える等の考慮が必要で之には充分な智識と經驗を有する技術者を要する。即ち混凝土打の各部から供試體を取り試驗の結果を參考にして再び施工法調合を研究する等の現場に於ける研究が大切である。調合の理論よりも施工法の研究が急務で

ある、例へば水セメント比說等も特別なるもの、或は部分的には當嵌まるかも知れぬが、構造物に對しては不都合である、水量を一定する事は道路は堅練コンクリートを打つからよいが建築構造物には不可と思ふ。

**3 材料の計量方法に就いて**

セメントを容積で計量する現場が約半數あるのは遺憾である、之は是非重量で計る樣にしたい。セメント一袋 50 kg はこのまゝ認めて使用して可である、セメント 1 $m^3$ の重量を最小は 1070kgに最大は 2027 kg に取つて居る 1550 kg 1500kg が大部分ではあるが、之も是非 1550 kg/$m^3$ として計量したいものである。

水セメント比の値は全く區々で 60—70 が多い目分量によるものが 10%もある事は不可である。

**4 骨材の含水量に就いて**

總數の 1/3 の現場では水分による砂の膨みを考慮せずに計量して居る、之は水量と同じく正しい現場配合比に從つて、正確に砂を計量する事の必要を現場員に會得させる必要がある、砂の膨みは實驗を正確にしてその結果によるべきである。

**5 試驗施工の程度に就いて**

スランプテストを施工して居る現場が 1/2 ある事は結構である、混凝土のオーカビリテイーを充分に測定する事は出來ないが、スランプテストは同一材料に對しては、材料の計量が正しく行はれて居るか否かを試驗する一つの有効な方法である少なくも混凝土の施工に就て現場員に充分なる注意を拂はせるには有効である。又半數位がコンクリートの抗壓試驗を行つて居るが之も全部が行ふを要する。

結論として混凝土の施工は數年前に比して著しく進歩はして居るが未だ幼稚な所も大分ある、從てこの方面の智識の普及に就て一層努力を要する事を認めた。

## (11) 混凝土骨材としての多摩川砂利の性質 (松浦二郎氏)

從來セメントのみ研究され骨材は等閑にされて居た、之は骨材の種類多く、性質が複雜なるに原因すると思はれる。多くの川砂利は砂岩(10.6%)硬砂岩(59%)、粘板岩(15.7%)、角岩(9.3%)其他 11 種の岩石に分類される、(括弧内の數字は羽村本流の砂利の分類である)

| | 粘板岩 | 硬砂岩 | 砂 岩 | 角 岩 |
|---|---|---|---|---|
| 比 重 | 2.70 | 2.67 | 2.66 | 2.69 |
| 吸水率 | 0.1 | 0.2 | 0.3 | 0.5 |

比重は比較的に揃つで居る、又炭酸水に對する溶解率は石灰岩が最大で 0.056%、花崗岩が最小 0.018%、砂岩 0.024%、角岩 0.025% 夫々の岩石の强度試驗をすると、花崗岩のみ純セメント强度より少であるが、他は夫より遙かに多い、耐壓强度は粘板岩 4800 km/$cm^2$、砂岩 4600 kg/$cm^2$、石灰岩 1800 kg/$cm^2$

次に耐火度に就て、火災時の溫度は附近の不燃性物質の有無、通風の良否によつて異るが關東震災時の最高溫度は攝氏 1200° 位で通常 1000° であらう、長時間熱せらるゝ時を除き骨材の溫度は遙かに低い。

又骨材の線膨脹は 600° にて石灰岩 1.5、花崗岩 1.6、粘板岩 1、大部分の岩石は膨脹に對して安定である。鋼の膨脹は 100° 前後ではコンクリートと似て居るが、之を超過すると鋼は更に膨脹しセメントは收縮する。

即ち母材の熱膨脹は 100°—150° の間でセメントの膨脹は最大で、その値は略等しく、 100° 以上で前述の如く收縮する、母材間の膨脹收縮の差が大なる程破壞が多い、400° 迄は龜裂なく、之以上では骨材の膨脹の大なる程龜裂が多く、骨材を一定すれば水量大なる程龜裂が多いのである。骨材と母材を 700° に熱し之を常溫のものと比較すると耐壓强度は粘板岩、砂岩等は强度を增し、純セメント、1：3 モルタルは强度減少し、抗曲强度は全部減少、之は純セメントが最も多く減少する。

## (12) 混凝土試驗に於ける標準圓筒供試體の抗壓强度に關する一考察 (吉田彌七氏)

混凝土の分離作用は何れの時も免れず、供試體作製の時にも分離する。從つて圓筒供試體が實際の强度を現すや否やが問題である。

同氏の實驗はこの分離の影響を求むるものである。即ち在來の方法では供試體を作製して居る内

にセメントペーストが浮き出して來る、從つて强度試驗をして見ると全く分離なく均一なものは上下對稱な鼓形に破壞するが、分離が多いものは斜めに或は非對稱の鼓形となる。之等は實際の强度が出て居ないと認められる。分離する樣な混凝土を分離しない樣に作製する事は難しい、之の便法として標準型圓壔を3段に分割して中央部が實際の强度を現はすものとし、例へば最下部を水セメント比 80 に中央を 65 に最上を 50 に又はその逆に下部を硬練に上部を軟練にして、各層の間に20分の時差を置いて作り、之と中央部と同水量を有する普通の供試體との强度は約6%の差のみであつた。

以上本例會に出席して知り得た各報告、研究の大略を記したのであるが、之を要するにセメント製造技術は年々甚大なる發達をなしつゝあるのに對し、建築、土木方面の混凝土施工方法は之に伴はず遲々たる進歩である」勿論混凝土には多くのファクターがあり、實驗室の研究のみでは現場を律し得ないが、學會、協會或は研　所、學校實驗室等は常に一般に對し、混凝土智識普及に大いに努力せねばならぬ事を痛感する次第である。

更に本例會はセメント技術會の權威ある會合であり、各方面の權威者が出席して居る事であるから、我が日本建築協會に於ても協會の眞價を全國に認めしむる爲にも、特々會員諸子に普及のためにも是非毎年代表を送られん事を望むものである

尙本文の發表、講演は全くその大略又は一部分のみを筆者のノート並に講演豫稿に據つて記したもので、講演又は研究の全部ではなく且之に對しての責任は全部筆者にある事を御斷し、貴重なる御發表をなされた講演者各位に敬意を表する次第である。(1932・11・15 記)





（武田博士還暦祝賀式參席者の記念撮影）（前列中央に御令孫を膝にせらるゝは武田博

# 工學博士武田五一氏の還暦祝賀

## 武田博士還暦祝賀式狀況

昭和7年11月20日午後2時半より京都帝國大學本部樓上にて

祝賀の式に列するもの先生の門弟は勿論、教育界と云はず實業界と云はず、廣く博士の還暦を祝すべく式に列し芳名錄に記名されたる總數270餘名、武田博士御夫妻、御令孫、御親族の方々御出席のもとに、華かに盛大に博士の還暦祝賀式は擧行されました。神戸高等工業學校長古宇田實氏の開會の辭に次いで、藤井博士の事業報告の後、天沼博士還暦記念事業實行委員長として物靜かに先生の略歷を語り、その偉功を稱へ、又教室を代表して去らるゝ先生への惜別の意を表され、京都高等工藝學校教授霜島正三郎氏の手によつて先生に記念品目錄が贈呈され、引つゞいて滿場の拍手裡に先生の御愛孫によつて武石弘三郎氏の製作に成る博士壽像の除幕が行はれ、その間先生に贈呈する記念品、栖鳳、春擧、關雪、契月、五雲、翠璋、麥僊、紫峯、各畫伯の揮毫にかゝる四季花鳥畫が壁間に揭げられた。續いて來賓祝辭として先づ工學部長本野享氏立つて、先生が本學建築學教室の創設に盡された偉功と御努力を稱へて、先生の停年制によつて本學を去らるゝことを惜しみ、工學博士片岡安氏は同窓の一員として建築界教育界に盡されたる先生の功績の數々を稱へつゝ博士の比類ない藝術的天分を讃嘆し、併せて今後に於ける先生の活躍を期待し希望するの言葉を述べられ、最終に青柳博士立つて先生の友人として私人としての先生に說き及んで武田博士こそ紳士道の人であるとなし、先生の紳士道こそ宗教の形ならぬ宗教と讃美せられた。

次いで武田博士立つて祝賀式に對しての謝意を述べられ、過ぎ來し方をふり返つて、自分は全く多幸な半生を送つて來たが、これ皆天の惠み人の恩であると云ふ意味を敬虔な言

葉で語られ、古宇田實氏の閉會の辭を以てこの祝賀式を閉ぢ、一同本部樓上大廣間にて記念撮影の後、展覽會場並びに祝宴會場である京都市公會堂東館に向つた。

## 武田博士還暦祝賀展覽會狀況

11月19日、20日京都市公會堂東館階下にて

武田博士の還暦を祝賀すべく、我々門下一同が常に見ることを望んでゐた、先生の篋底に藏さるゝスケツチ、或は設計圖、寫眞の類、又餘技の日本畫を、先生に出品を乞ふと共に門下の者又先生より受けたる建築設計の技を以て世に問へる作品を集め、更に博士の廣き御交友の中より洋畫日本畫、彫刻、家具、織物、陶器等、工藝品の出品を得て、先生の建築界工藝界に殘された偉大な業蹟を語り、門下俊秀の作品を以て他面先生の教育界に於ける大きい功績を語るまことに武田博士の還暦を祝ふにふさはしい展覽會であつた。19日並びに20日は一般に公開されたが、非常な盛況であつて、恐らく京都に開かれた建築關係の展覽會として類のない盛會であつた。更に20日午後は一般の入場を謝絶し、祝賀式の參列者のみのためにあて祝宴の開かれるまでの2時間あまりを、或は先生の作品の前に今更乍ら先生の神技を嘆稱し、或は門下作品の前に三々伍々集つて作品の優劣をあげつらひ、或は展覽會場の一隅の休憩室に年來の御知友の方と懷舊談に花を咲かせて居られる先生を拉して作品の批評を求むる等、知友門下皆和氣藹々たる裡に時の經つのを忘れ、祝宴の開かるゝ時刻の餘りに早いのを慨いた程であつた。



## 武田博士還暦祝宴狀況

11月20日京都市公會堂東篧階上にて

武田博士御夫妻、御令息、御親族の方々、新城總長を始めとして關西に於ける教育界、建築界に名だゝる人々によつてかこまれた主卓を中心として、午後5時半りよ祝宴が開かれた。參加者209名、まことに華麗な晩餐會であつた。なごやかな宴も進み、やがてデザートコースに入るや司會者片岡安氏の指名によつて、まづ新城總長立つて「多壽多福多男

子」なる言葉を引き、先生の齢還暦に達して尚壯者を凌ぐ建康を稱へて、將來ますます多壽なるべきことに及び又多福なる光輝ある過去を讃美し、又多男子の語の示す如く先生の世に優れたる多くの御令息を持たるゝことを祝ひ、更に「三つの創作」の言葉の下に、先生の殘された建築と、京都帝大に創設せられた建築學教室と、第三の立派な創作として先生の御令息御令嬢を擧げ、博士の還暦を祝された。更に片岡安氏の指名によつて大井清一教授、名高工教授土屋純一氏、大倉三郎氏、佐藤正次郎氏交々立つて、或は先生の本學建築學教室創設に當つて、故日比忠彦教授と共に盡されたる御努力を述べ、或は學生時代先生に親炙して、或は先生の非凡なる手腕に敬服し、或は先生の叱責に恐れた昔日の懐舊談を述べられた。次いで大毎京都支局長岩井武俊氏は、先生の設計にかゝる建築物の數のいかに多きかを擧げて、先生の實に及び難き建築家としての業蹟を種々のユーモラスな小話の中に織り込んて巧みに述べられ、鹿子木孟郎畫伯は又若年巴里に遊學の折以來年來の交友の間まことに先生の惡戯氣のためにあざむかれて、自分が一年の年少であるにかゝはらずこの還暦祝賀の企てを知らさるゝまで同年であると思つて居た話を語つて、武田博士の明朗な性格を描寫せられ、最後に池田實氏は又博士の人相が骨相學上日本人の代表的人相であり、且つ最も多壽なるべき骨相であると結ばれた　テーブルスピーチ終るや田邊朔郎博士立つて先生の還暦を祝すべく杯を上げ、一同先生の將來のますます健康にますます活躍されんことを祈つて乾杯。



武田博士より參會者一同に挨拶の言葉あつて後、司會者片岡安氏の發聲で武田博士萬歳を三唱し、意義深い祝賀會を閉ぢ、宴後も尚談話室に席を移して先生を中心に歡談を交へ、晩秋の夜の更けるのを忘れた。

## 武田博士還暦記念出版について

出版は二種に分つてある。一は既刊濟の、いはゆる胸襟を開いて談笑せられつゝある姿をあらはすに相應はしい様な作品を集めた「武田博士之横顔」であり、他は建築工藝等に關する圖をまとめた出版物であります。この方は目下編纂中で、來春3月迄に出來上る豫定であります。

# 武田博士還暦記念作品集内容

## 住宅

| | | | |
|---|---|---|---|
| 福島邸 | 建圖面 1<br>室内寫眞 2 | | |
| 芝川邸 | 平面圖 1<br>外面寫眞 1 | 明治45 | |
| 稻畑邸 | 室内寫眞 1 | 大正5 | |
| 勝田邸 | 平面圖 1 | 大正7—9 | |
| 山王莊 | 平面圖 1<br>細部寫眞 2 | 大正8•5<br>設計 | |
| 香里園住宅地計畫 | 總合平面圖 1 | | |
| 後川邸(日本家) | 室内寫眞 1 | | |
| 東本願寺内侍所 | 平面圖 1<br>日本家玄關細部 1 | 大正<br>12—13 | |
| 星野邸 | 平面圖 1<br>外面寫眞 1 | 大正14 | |
| 大平邸 | 寫眞搜ス<br>室内寫眞 1 | 大正15•3 | |
| 北村本邸 | 平面圖、室内寫眞各1<br>眞、廻圖、細圖 | 大正10 | |
| 荻野仲三郎邸 | 透視圖 1 | 大正13、第1案、昭和2 | |
| 春田貸住宅群 | 總合平面圖 | 昭3 | |
| 六鹿邸 | 外面細部寫眞 1 | 昭3 | |
| 武田邸(現在) | 平面圖 1<br>室内スケツチ 3-4<br>室内寫眞 1 | 昭4 | |
| 伊谷邸 | 室内寫眞 1 | 昭5•8 | |
| 中山邸 | 外部細部寫眞 1<br>室内寫眞 1 | 昭4 | |
| 藤山邸 | 平面圖 1 | 昭7 | |
| 石黒邸 | 平面圖 1<br>室内寫眞 2 | 昭5•11 | |

## 官公署學校美術館

| | | | |
|---|---|---|---|
| 陳列館(京大文學部) | 正面寫眞 1 | 明治 | |
| 京都府記念圖書館 | 正面寫眞 1<br>平面圖 1 | 明治 | |
| 京都商品陳列所 | 正面寫眞 1<br>平面圖 1 | 明治 | |
| 富山縣會議事堂 | 正面寫眞 1 | 明治 | |
| 京都商工會議所 | 平面圖 1<br>スケッチ 1<br>正面寫眞 1 | 大正 | |
| 那覇市役所 | 外面寫眞 1 | | |
| 山口縣廳及縣會議事堂 | 正面寫眞 1 | 大正2—5 | |
| 藤井美術館 | 平面圖 1<br>正面寫眞 1<br>細部寫眞 1 | 大正15 | |
| 岐阜市公會堂 | 車寄部寫眞 1 | 昭3 | |
| 福山市役所 | 正面寫眞 1 | 昭5 | |
| 陶磁器試驗所本館 | 外面寫眞 1 | | |
| 大阪工業試驗所 | 外面寫眞 1 | | |
| 大阪鑛山監督局 | 外面寫眞 1 | 昭3 | |
| 同志社靜和寮 | 平面圖 1<br>正面寫眞 1 | 大正 | |
| 同志社榮光館(内部) | 正面細部寫眞 1<br>室内寫眞 1 | 昭 | |
| 岩倉文庫 | 正面寫眞 1 | 昭3 | |
| 高知縣立城東中學校 | 正面塔屋 1<br>細部寫眞 | 昭4•10案 | |
| 東方文化學院京都研究所 | 内庭寫眞 1 | 昭5 | |
| 熊本醫科大學構内圖書館(熊本) | 正面寫眞 1 | | |
| 天理教外國語學校全配置圖 | 總合平面圖 1 | 大正14•12<br>設計 | |
| 京都帝國大學本部 | 車寄部寫眞 1 | | |

## 銀行、會社、商店、會館

| | | | |
|---|---|---|---|
| 兵庫縣農工銀行 | 正面寫眞 1 | 大正5<br>(1916) | |
| 京華社 | 正面寫眞 1 | | |
| 藤井ビルブローカー銀行門司支店 | 平面圖 1<br>正面寫眞 1 | | |
| 京都市醫師會館 | 正面寫眞 1 | 大正<br>13 4•5 | |
| 京都銀行集會所 | 平面圖 1<br>正面寫眞 1<br>室内寫眞 1 | | |
| 石黒ビルデング | 正面寫眞細部 1 | | |
| 京都日出新聞社 | 平面圖 1<br>正面寫眞 1 | | |
| 毎日新聞社京都支局 | 正面細部寫眞 1 | | |
| 三井相續會館 | 平面圖 1<br>正面寫眞 1 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 臺灣神社本殿 | 正面寫眞 | 1 | |
| 求道會館 | 室內寫眞 | 1 | 大正4 |
| 箕面鳳凰閣 | 外面寫眞 | 1 | 大正5•2 |
| 東本願寺門前設備 | 設計圖（平面、正、側、斷） | 1 | 明治45•4設計、大正6•8建立 |
| 佛教會館 | 正面寫眞 | 1 | 大正10，12 |
| 清水寺伽藍 | 總合平面圖<br>寫眞 | 1<br>1 | |
| 圓教寺摩尼殿 | 外面寫眞 | 1 | |
| 光明寺 妙成寺本堂 光明殿 | 室內寫眞 | 1 | |
| 華頂會館 | 正面寫眞 | 1 | |

**記念堂，銅像臺座**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 伊藤博文公銅像臺座 | 外面寫眞 | 1 | 明治44 |
| 象山先生遺稚之碑 | 設計圖<br>正面寫眞 | 1<br>1 | |
| 尼港記念碑 | 外面寫眞 | 1 | 大正11 |
| 福山市尋常高等小學校御眞影奉安庫 | 外面寫眞 | 1 | 昭2 |
| 高野山靈牌堂 | 外面寫眞 | 1 | 昭5 |
| 荒木總長銅像臺座 | 外面寫眞 | 1 | |
| 安部伊勢守正弘公銅像臺座 | 外面寫眞 | 1 | 大正10 |

**博覽會、音樂堂、街道裝飾**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 京都御大典記念博覽會 | 萬歲塔、寫眞 | 1 | 大正3 |
| 御大禮御幸道路裝飾 | 寫眞 | 1 | |
| 桑港博覽會、日本政府館（迎賓館） | 平面圖<br>正面寫眞 | 1<br>1 | 大正4 |
| 中ノ島公園內音樂堂 | 設計圖 | 1 | |
| 山中溫泉共同浴場 | 室內寫眞 | 1 | 昭4 |
| 御大典奉迎門及道路裝飾 | 奉迎門寫眞<br>道路裝飾 | 1<br>1 | 大正3 |

**橋梁**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 二條橋（京都疏水） | 寫眞 | 1 | |
| 岩井橋（名古屋） | 寫眞 | 1 | 大正10•6設計 |
| 鶴見橋（岡山市） | 同 | 1 | 昭4？ |
| 柩（山口縣岩國） | | | |
| 渡邊橋（大阪） | 同 | 1 | |
| 高麗橋（同） | 同 | 1 | |
| 浪速江橋（同） | 同 | 1 | |
| 田簑橋（同） | 同 | 1 | |
| 伏見橋（同） | 同 | 1 | |

**試案**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大阪市公會堂指名懸賞應募圖案 | 平面圖<br>透視圖 | 1<br>1 | |
| 37•8年戰勝記念塔、（試案） | 寫眞 | 1 | |
| 昭和幼稚園圖案 | 平面圖<br>建圖 | 1<br>1 | |

**工藝品**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大阪朝日新聞社階段、親柱、電燈 | | | 大正4？ |
| 四條通街路電燈 | | | |
| 寺町通街路電燈（四條－五條間） | | | |
| 京都電燈（貴賓車） | | | |
| 福島邸家具（又は芝川邸） | | | |
| 京都家具工藝研會（食堂） | | | 昭7 |
| ステンドグラス圖案、臺灣總督府中央廣間 | 臺北京文武町 | | |
| 花瓶（百合花） | 京都高等工藝學校 | | |
| 火鉢（キルク製）シヤボテン圖 | 武田邸 | | |
| ノツカー金具及ベル金具 | 武田邸 | | |
| 御大禮大饗宴記念品飾具 | | | |
| 寶塔形煙草具 | 武田邸 | | |
| マルホフ式染色品 | 京都高等工藝學校 | | |
| 手拭 | | | |
| 大學ポスター | | | |
| 幾何模樣 | | | |
| 御大禮記念博覽會日毛綫列 | | | |

# 會　　報

## セメント生産並販賣統制に關する陳情書

首題の件について下記の通これが目的達成のため援助方を申越されたので茲に轉載して會員諸君へお知らせ致します。

昭和7年12月9日

日本土木建築請負業者聯合會

會長　竹中藤右衛門

社團法人日本建築協會々長　片岡安殿

拜啓益御隆盛奉賀上候

陳者今回「セメント」生産、販賣統制上より生ずる弊害匡正方に就き商工大臣へ別紙の通り陳情致置候間何卒之れが目的達成に關し御援助相賜度此段得貴意候　敬具

### セメント生産並ニ販賣統制ヨリ生スル弊害ニ關スル陳情書

當今「セメント」製造業者ハ全國「セメント」聯合會並ニ各地方ニ「セメント」販賣協會ヲ設ケ重要產業統制法ノ保護ノ下ニ生產制限ノ協定、價格、販路及ヒ出荷數量ノ協定ヲ爲シ之ヲ嚴格ニ實行致居候然ルニ斯クノ如キ各種ノ協定ハ「セメント」ノ最大需要者タル土木建築請負業者ニ甚大ナル影響ヲ及ホスハ言ヲ俟タサル所ニシテ該協定ノ成立以來今日ニ至ル迄土木建築請負業者ノ蒙リシ損害ハ實ニ勘カラサルモノ有之候、仍テ昨年以來再三「セメント」製造業者ト會見シ意見ヲ開陳シ反省ヲ求メタルモ之レヲ顧ス誠意アル回答ニ接セサルノミナラス益協定ノ實行ヲ嚴ニスル狀態ニ御座候

今日行ハルヽ上記四種ノ協定ハ明ラカニ關係業トシテノ土木建築請負業ノ公正ナル利益ヲ害スルモノニ有之候間統制法第三條ニ依リ右協定ヲ匡正セラレ度希望ニ堪ヘス候

右及陳情候也

昭和7年12月9日

東京市麹町區内幸町1丁目3番地

大阪ビルデイング6階

日本土木建築請負業者聯合會

會　長　竹中藤右衛門

副會長　小　谷　　清

副會長　宮　長　平　作

商工大臣　男爵　中島久萬吉殿

理　　由

1　製品ノ品質ニ著シキ優劣ノ差アルニ拘ラス總テ同一價格ヲ以テ販賣スルハ不合理ニシテ關係業者ノ公正ナル利益ヲ害ス

「セメント」ハ各社製品ニ依リ又同一會社ノ製品ニ於テモ製造工場ニ依リ其強度ヲ異ニスルハ各所ニ於ケル試驗成績ニ見ルモ明カナル所ナリ、例ヘハ鐵道大臣官房研究調査ノ「セメント」應壓強度增進率表』ニ依レハ東亞「セメント」會社製ノ應壓強度ハ每平方糎383.5瓩ニシテ豐國「セメント」會社門司工場製ハ602.2瓩ナリ、此ノ差218.7瓩即チ前者ニ對シ5割7分ノ差アリ、其他100瓩內外ノ差ノ如キハ異例トスルニ足ラス、如斯ニシテ各製品間ニハ其品質ニ著シキ差異アルコトハ明白ナル事實ナリ

昭和7年2月1日改正施行ノ市街地建築物ニハ從來格一的ニ取扱ヒ來レル「セメント」ノ强度ニ明カニ優劣ノ差等アルコトヲ認メラレタリ

又近來「セメント」ニ關スル學術的研究ノ進歩ニ伴ヒ「コンクリート」ニ對シテハ使用「セメント」ノ數量指定ヲ廢シ替フルニ强度指定ヲ以テスルノ傾向アリ、現ニ建築學會ニ於テ審議中ナル「コンクリート」及鐵筋「コンクリート」標準仕樣書モ此ノ主旨ニ據リ更ニ大藏省營繕管財局及京都市役所ノ如キ官公署ニシテ既ニ之レヲ實行シツヽアルモノアリ

斯ノ如クシテ「コンクリート」ニ使用スル「セメント」ハ品質ノ優劣ニ依リ其ノ使用數量ニ差アリ今其一例ヲ擧クレハ大藏省營繕管財局ニ於テ實行セラレツヽアル調査表ニ據レハ「コンクリート」1立坪ニ對スル「セメント」所要量ハ其ノ强度ニ100瓩乃至200瓩ノ差アル時1.01乃至4.40樽ノ差ヲ生スルニ至ル、斯ク使用數量ノ差ハ吾々業者ニ取リテ忽諸ニ附スルコト能ハサルトコロニシテ大工事ニ際シテハ實ニ數千樽ニ昇ルコト明カナリ從ツテ工費ノ上ニ甚大ナル相違ヲ招來スヘキヤ必セリ

上述ノ如ク品質ニ差異アリ從ツテ工費ニ大影響ヲ及ホスヘキ材料カ同一價格ニテ供給セラルヽハ果

シテ合理的ナリト謂ヒ得ヘキカ

優良品カ高價ニシテ劣惡品カ安價ナルハ產業經濟ノ原則ナリ、然ルニ「協定」ト云フ人爲的手段ニ依リテ同一價格ヲ以テ販賣セラルヽカ如キハ果シテ健全ナル統制ト稱シ得ヘキカ

土木建築請負業者ハ元ヨリ國家的見地ヨリ制定セラレタル重要產業統制法ノ趣旨ニ反對スルモノニ非スト雖モ亦健全ナル產業ノ發達ヲ阻害スルカ如キ協定ニ對シテハ贊意ヲ表スルコトヲ得ス、今日「セメント」製造業者ノ行ヘルカ如キ協定カ各種ノ產業ニ彌漫スルニ於テハ遂ニ我國ノ產業界ハ全ク改良ト發達トノ跡ヲ斷ツニ至ラムコトヲ慮ル、而シテ斯ノ如キ事實ハ土木建築請負業者ノ事業上ノ發達ト公正ナル利益ヲ害スルモ亦甚シト言ハサルヲ得ス

2 需要者ノ要求ニ關ラス協會ノ都合ニ依リ指定外ノ製品ヲ供給シテ顧サルハ不都合ナリ

現今「セメント」製品ニハ前述ノ如ク其ノ强度ニ優劣ノ差アルノミナラス又其ノ特徵ヲ異ニスルヲ以テ土木建築工事ニ於テハ用途ニ依リ之ヲ撰擇スルヲ要ス、故ニ設計者ハ工事仕樣書中ニ建築意匠上特ニ使用スヘキ「セメント」ヲ指定スルコト多シ、然ルニ此ノ場合ニ際シテモ「セメント」製造業者ノ出荷數量並ニ販路協定ノ爲ニ自由ニ之レカ供給ヲ受クルコトヲ得ス全ク豫期セサリシ製品ノ供給ヲ受クルコトアリテ吾々業者カ註文者ニ對スル契約上ノ責任遂行ヲ不可能ナラシムルモノナリ、又偶々强テ之ヲ得ント欲スレハ長期間ヲ必要トシ而モ充分ニ之ヲ供給セサルコト多シ、斯ノ如ク需要者ノ要求ヲ顧サル供給ハ不都合ナリト云フヘク吾々業者ノ蒙ル迷惑甚大ナリトス

3 急激ナル値上ケヲ屢々行フハ不當ナリ

「セメント」聯合會並ニ地方販賣協會ハ其ノ嚴格ナル統制確立スルヤ突如トシテ値上ケヲ唱ヘ爾來屢々豫告ナキ値上ケヲ續行シ僅々2ケ年間ニ約10割ノ値上ケヲナシタリ斯クノ如キ急速ニシテ且何等豫告ナキ値上ケカ其ノ需要者タル土木建築業者ニ甚大ナル損害ヲ與フルヤ必セリ而モ「セメント」業者ハ我等カ再三ノ警告ニ耳ヲ藉サス當ニ需要者ノ立場ヲ無視シタルハ我等ノ最モ遺憾トスル所ナリ

結　　論

之ヲ要スルニ「セメント」事業ハ重要產業トシテ格別ノ保護ヲ受クルハ不已得トスルモ一方「セメント」需要者ノ立場ヲモ考慮ニ入ルヘキハ言ヲ俟タサル所ナリ

而シテ我等業者カ「セメント」業者ニ對シ主張スル事項ハ

1 品質ニ應シ合理的公正ノ價格タルコト

2 需要者ノ希望ニ應シテ其ノ製品ヲ供給スルコト

3 急激ナル値上ケヲ爲サス且値上ケニ際シテハ相當ノ豫告期間ヲ附スルコト

ニシテ右ハ土木建築業者トシテ事業上最小限度ノ要求ニ外ナラサルコトヲ以上縷述スル所ニヨリテ明白ナルヘシト確信ス

# 役　員　會

## 常　務　會

時　　昭和7年12月5日午後6時—同9時

所　　建築倶樂部

出席者　理事　池田　　舊監事　小笠原　津田
　　新監事　德政　松室　常務　小川　鳥井
　　富士岡　岡部　松井　高橋　中山　森本

議　事　1 12月例會に關する件
　　1 新評議員會開催日取決定の件
　　1 住宅博、展覽會出品者に對する感謝狀の件
　　1 住宅博、展覽會特別關係者招待に關する件
　　1 記念事業中旣往功勞者表彰に關する件
　　1 新舊役員引繼會及常設、特設委員、記念事業委員慰勞會に關する件
　　1 日本ポルトランドセメント技術會第21回例會出席者三浦氏提出報告書會誌掲載の件
　　1 日本紳士錄購入に關する件
　　1 職員下半期賞與並昇給に關する件
　　1 記念事業費より一般會計へ振替の件
　　1 綠ケ丘住博未收入金請求に關する件
　　1 雜誌1月號に記念講演會速記掲載の件
　　1 大阪驛前整理事業に關する建議案の件
　　1 日本建築士會より照會に係る建築競技執行規準草案に關する件
　　1 定款改正案に關する件
　　1 住宅博殘務整理委員及評價委員依囑の件

1 記念講演會、巡回講演會講師に謝禮の件

報　告　1 綠ケ丘、大美野住宅博覽會閉會報告
1 常設委員會より本年度研究事項報告
1 會計檢査報告
1 記念事業概算報告
1 11月分會計報告

### 常　務　會

時　昭和7年12月12日午後5時30分—同9時
所　建築倶樂部
出席者　理事　片岡　池田　舊監事　小笠原
新監事　松室　常務　伊東　小川　大原
鳥井　富士岡　松井　高橋　中山　森本
議　事　1 大阪驛前整理事業に關する建議案を評議員會に附議の件
1 新舊役員事務引繼、常設、特設委員記念事業委員慰勞會に關し通知文案の件
1 役員、常設委員、記念事業委員に對する謝狀案の件
1 大美野住宅壹出品住宅二階建(リ)號賣買契約書の件
1 記念事業中既往功勞者表彰に關する件
1 朝日ビルクラブ給仕人へ年末祝儀贈與の件
1 職員下半期賞與並昇給に關する件
1 事務引繼に關する件
1 會員詮衡
報　告　1 委員の職務に關し材料委員長より上申(書面)の件
1 材料委員會より調査報告
1 常設各委員會經過報告
1 日本土木建築請負業者聯合會長より陳情の件報告
1 請負契約書改正聯合調査會委員會報告

## 會員動靜

### 入　會　者

特別賛助員　小澤啓三郎君　東區淡路町3ノ18
同　佐村木　實君　東區住吉町66

### 退　會　者

會員　河野半七君　藤井茂美君　伊藤長次君
同(地方在住)　小野八右衛門君
特別賛助員　高村横一君
普通賛助員　美野利雄君

## 御　願　ひ

下記會員の御住所目下不明に付御存知の御方は事務所迄御一報を御願ひ申上げます。

會　員　前田　清次君　出浦　高介君
普通賛助員　河原眞一郎君　長尾　圭造君
藤原　節雄君　桑原　俊作君

## 委　員

### 住宅博殘務整理委員

委員長　武田五一
副委員長　葛野壯一郎
同　安井武雄
委　員　今林彦太郎
同　小川安一郎
同　芝田知重
同　坪井誠一
同　德政金吾
同　古塚正治
同　增山新平
同　村野藤吾

### 住宅博評價委員

(綠ケ丘)

委　員　小笠原銅
同　葛野壯一郎
同　北垣熊之介
同　篠崎衆二
同　須川廉太郎
同　藤木正一

(大美野)

委　員　小笠原銅
同　葛野壯一郎
同　篠崎衆二
同　須川廉太郎
同　藤木正一

(五十音順)

## 「建築と社會」定價表

毎月1回1日發行

| 冊數 | 定價 | 郵稅 |
|---|---|---|
| 1冊 | 50錢 | 2錢 |
| 12冊 | 6圓 | 24錢 |

## 廣告掲載料金

| | | | |
|---|---|---|---|
| 普通 | 1頁 | 1回 | 15.00 |
| 普通 | ½頁 | 1回 | 8.00 |
| 普通（前附第1頁） | 1頁 | 1回 | 45.00 |
| 普通（前附第2頁） | 1頁 | 1回 | 40.00 |
| 普通（後附第3及最終頁） | 1頁 | 1回 | 25.00 |
| アート（中揷） | ½頁 | 1回 | 20.00 |
| 表紙2 | 1頁 | 1回 | 60.00 |
| 表紙3 | 1頁 | 1回 | 45.00 |
| 表紙4 | 1頁 | 1回 | 80.00 |
| 建築事務所錄 | 1欄 | 1回 | 1.50 |
| （建築業係業者案内） | 1欄 | 1回 | 5.00 |

### 御注文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

昭和7年12月25日印刷
昭和8年1月1日發行（第16輯第1號）

發行・編輯
印刷人　鷹取陽
兵庫縣武庫郡今津町浦風56番地
印刷所　大阪活版所
大阪市東區內淡路町1丁目7番地
發行所　財團法人 日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長本局(23)4500番(6)
本局(23 5470番(5)
本局(23)5540番(3)
振替口座大阪39 975番
特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋北
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪22084番

### 禁轉載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

## 編輯後記

▷改暦の吉慶、千里同風、目出度く申し納めます。協會もここに第十七週年を迎へ、基益々堅く、望愈々高く、同慶の至りと存じますが、尙將來諸兄の御支持に俟つ所甚だ多いのであります。

▷役員を改選しました。新鋭の士陣容を新にして轡を並べ、活動の驥野に跳躍せん新らしい希望の年であります。本年は滿十五年記念事業の尙殘れるものがあります、博覽會に、見學に。其他社會的に殘されたる事業は積載して新人を待つて居ります。

▷新編輯係も新進氣鋭の士を聚め、諸兄の御期待に副ふべく努力いたします。心の至つて內容の調はざるは、豫め御寬恕をお願致し度いのであります。絶へざる御鞭韃を懇望する次第であります。

▷本誌は發行日の關係上舊編輯係でまとめました。11月2日の記念通俗講演會の速記錄と諸家の卓論とで新年號にいたしました講演會中天沼博士の分のみは同博士の御希望によりまして缺きましたが近い內に他の玉稿を頂戴して雜誌を飾ることを許されました。

▷2月號からは新編輯係の手で新方針で出ます。會員諸君の雜誌に關する意見なり希望なりを腹藏なく御示し願へれば幸甚かと存じます。

▷東京の白木屋が祝融の災に見舞はれ天下を騷がしました。吾等は靜かに考へ省みる所があらねばなりません。協會も考ふべき一題目を與へられました。現地視察となり陳情書となり、次に具體的の內容に入ります。

▷12月17日本會舊理事長園部文雄氏が長逝されました、紙上で謹んで哀悼の意を表します。（高橋榮治）

# 建築と社會第16輯第1號

## 廣告索引


ア 旭硝子株式會社……39
淺野スレート株式會社……24
淺野物產株式會社……48
淺海商店……30
阿部鐵工所……50
岩元商會建材部……30
榮進社……30
イエオ オリエンタと化學工業所……56
大阪窯業セメント株式會社……國際ウラ
大阪伊丹商店……18
大野製作所……1
大林組……2
大阪橋本組……44
大阪瓦斯株式會社……49
カ 鹿島組……45
キ 勝田製作所……表紙 4
木下謹三商店……18
桐田商會……37
ク 黒川化學工業所……20
コ 金剛商會大阪支店……38
工材社……52
鴻池組……12
サ 佐久間パブコ工業株式會社……19
笹岡家具裝飾店……26
三稜社……35
三機工業株式會社……表紙 2
三共株式會社……5
スセタ 須賀商會……33
鐘高組……11
田村商會……16
田中昌司商店……42
高島屋飾裝部……47
淡陶株式會社……46
ダ ダンロップ護謨株式會社……國際ウラ
チ 大和工業株式會社……53
重寶商會……36
テ 寺井洋家具部……28
ト 東洋リノリーウム株式會社……3
東京電氣株式會社……13
東洋工業株式會社……42
ナ ナンコク商事株式會社……25
內外土木建築材料合資會社……40
南滿鑛業株式會社……26
ニ 日本ペイント株式會社……4
日本建築紙工株式會社大阪支店……35
日本鋼製建具株株會社……41
西原衛生工業所大阪支店……27
西孫南店建築金物部……29
ノ 野澤幸三郎商店……34
ヒ 平松釣戸車製作所……14
フ 藤田商會……22
ベ 米國貿易株式會社……55
マ マルエス工業株式會社……17
ミ ミナト製作所……20
三井物產株式會社……21
三宅茂雄商店……36
宮島康夫商店……51
ヤ 矢橋大理石商店……22
山本窯業商店……52
山本東作商店……47
ヨ 横河橋梁製作所……32
米本榮商店……14
レ 玲光社(木內眞太郎)……38



## 「建築と社會」昭和七年特輯號

1 月號 高層建築
2 月號 最近建築研究 I
朝日ビルデイング
阪急ビルデイング
3 月號 國防と建築
4 月號 最新世界建築論說
5 月號 建築法規
6 月號 實用小住宅
7 月號 最近建築研究 II
大阪城天守閣
第四師團司令部廳舍
日本綿業會館
8 月號 鄉土建築
9 月號 建築構造
10月號 創立滿十五年記念號
11月號 最近建築研究 III
大阪歌舞伎座
南海ビルデイング
12月號 常設委員會昭和七年度調査研究報告

## 日本建築協會發行圖書

關東震火災視察記
定價 3.50圓 (稅12)
住宅懸賞圖案集
(絕版) 定價 1.00圓 (稅10)
婦人の住宅知識
(絕版) 定價 1.00圓 (稅10)
世界最近建築圖集
定價 0.50圓 (稅 8)
學校建築圖集
(三版) 定價 1.00圓 (稅18)
最近建築懸賞圖集
定價 0.70圓 (稅10)
市街地建築物法令
定價 0.50圓 (稅 4)
住宅圖案集
(三版) 定價 1.00圓 (稅10)